

浦和競馬場検体採取所建築工事

- A-1000 建築図
- S-2000 建築構造図
- E-3000 電気設備図
- M-4000 空気調和設備図
- P-5000 給排水衛生設備図
- L-6000 外構図

通し番号	図面番号	図面名称	通し番号	図面番号	図面名称	通し番号	図面番号	図面名称	通し番号	図面番号	図面名称
	A-1001	図面表									
	A-1002	工事概要書									
	A-1003	特記仕様書(1)									
	A-1004	特記仕様書(2)									
	A-1005	特記仕様書(3)									
	A-1006	特記仕様書(4)									
	A-1007	特記仕様書(5)									
	A-1008	特記仕様書(6)									
	A-1009	特記仕様書(7)									
	A-1010	特記仕様書(8)									
	A-1011	特記仕様書(9)									
	A-1012	特記仕様書(10)									
	A-1021	敷地現況図									
	A-1022	敷地求精図									
	A-1023	建物求精図・平均地盤算定図									
	A-1024	工事区分図									
	A-1031	外部・内部仕上表									
	A-1101	配置図									
	A-1102	平面・立面・断面図									
	A-1103	天井伏図・展開図									
	A-1201	矩計図									
	A-1202	平面詳細図									
	A-1301	間仕切り詳細図									
	A-1302	部分詳細図(1)									
	A-1303	部分詳細図(2)									
	A-1401	建具共通事項一覧表									
	A-1402	建具符号図・建具表									
	A-1403	建具詳細図									
	A-1501	防水範囲図・断熱範囲図									
	A-1901	防火区画図									
	A-2001	仮設計画図(参考)									
	A-2002	撤去図									
	L-6001	外構平面図									
	L-6002	計画高平面図									
	L-6003	外構詳細図(1)									
	L-6004	外構詳細図(2)									
	L-6005	外構詳細図(3)									
	L-6006	外構詳細図(4)									
	L-6007	外構詳細図(5)									
	L-6008	外構詳細図(6)									

 株式会社 日本設計	特記	埼玉県 浦和競馬組合	課長	技術参与	主査	主査	担当	設計	1級建築士登録第 322398号 平塚 智	浦和競馬場検体採取所建築工事	図面名称 図面表 縮尺 NO SCALE	LST_KEN.dwg 図面番号 A-1001 区分 建築図
			飛塚	中里	岩崎	矢島	矢島	設計	1級建築士登録第 355122号 齋藤 啓佑			
								設計	1級建築士登録第 334165号 曾我部 曉人			

1. 建築概要

工事名称	浦和競馬場 検体採取所建築工事	(申請部分)	(申請以外の部分)	(合計)
工事場所	埼玉県さいたま市南区大谷場一丁目8番42号	敷地面積	3,974.39 m ²	m ²
建築主住所氏名	埼玉県さいたま市南区大谷場一丁目8番42号 埼玉県浦和競馬組合	建築面積	251.33 m ²	- m ² 251.33 m ²
都市計画区域及び準都市計画区域の内外の別等	○さいたま都市計画区域内 (○市街化区域 ・ 市街化調整区域 ・ 区域区分非設定)	延べ面積(建築物全体)	225.00 m ²	- m ² 225.00 m ²
用途地域	・ 準都市計画区域内 ・ 都市計画区域及び準都市計画区域外	地階の住宅の部分	- m ²	- m ²
	・ 第×種低層住居専用 ・ 第×種中高層住居専用	共同住宅の共用の廊下等の部分	- m ²	- m ²
防火地域	○ 第1種住居 ・ 準住居 ・ 近隣商業 ・ 商業	昇降路の部分	- m ²	- m ²
	・ 準工業 ・ 工業 ・ 工業専用 ・ 無指定	自動車庫等の部分	- m ²	- m ²
法定容積率	200 %	住宅の部分	- m ²	- m ²
法定建ぺい率	60 %	延べ面積(容積対象)	225.00 m ²	(申請部分:225.00m ² ,申請以外の部分:0m ²)
その他の区域、地域、地区又は街区	第1種住居エリア:高度地区(20m)、景観誘導区域、下水道処理区域	容積率	5.66 %	
法的な技術対応		駐車台数	0 台	0 台 0 台
主要用途	蓄舎	建築物の数	申請に係る建築物の数	2 同一敷地内の他の建築物の数 0
		最高の高さ	4.72 m(平均地盤面より)	
工事種別	○新築 ・ 増築 ・ 改築 ・ 移転 ・ 用途変更 ・ 大規模の修繕 ・ 大規模の模様替え	最高の軒の高さ	4.41 m(平均地盤面より)	
		平均地盤面の高さ	11.00 m(検体採取所棟)	
主体構造	○S造 ・ SRC造 ・ RC造 ・ W造	設計地盤面	11.00 m(設計GLの高さ)	
		基準階	階高	- m 天井高 - m
耐火・準耐火建築物	・ 耐火建築物 ・ 準耐火建築物 ○その他	面積	- m ²	
		主なスパン	3.64 m	
防火対象物の用途区分	基礎地業	基礎下端	- m	
		その他	・ 客室数 - 室 ・ ベッド数 - 床 ・ 住戸数 - 戸 ・ 収容人数 - 人	
主たる外部仕上	直接基礎(布基礎)、表層改良	特例の適用の有無	建築基準法第56条第7項の規定による特例の適用の有無	・ 有 ○ 無
		特例の区分	適用があるときは、特例の区分	・ 道路高さ制限不適用 ・ 隣地高さ制限不適用 ・ 北側高さ制限不適用
工事着手予定年月日	年 月 日	許可・認定等		
工事完了予定年月日	年 月 日			

2. 電気設備概要

電力	引込	方式	回線	KV
	変圧器	台	KVA	
	発電機	台	V	KVA
	蓄電池	セル	V	組
幹線	C V C F	台	V	KVA
	照明	単相	3 線式	210/105 V
負荷	動力	相	線式	V
	設備容量	34.825 KW		
	基準部照明	100 Lux	光源種別	LED
監視制御	その他	調光あり		
	方式	○集中 ・ 個別 ・ 遠方 ・ 手元		
電話	引込	回線		
	中継方式			
防災	内線容量	回線	回線	回線
	発電機	台	V	KVA
	蓄電池	セル	V	組
	火災報知機	回線		
非常照明	非常照明	・ 電池別置 ○電池内蔵 ・ 発電機直入		
	非常放送	7 W ○専用(任意設置) ・ 兼用		

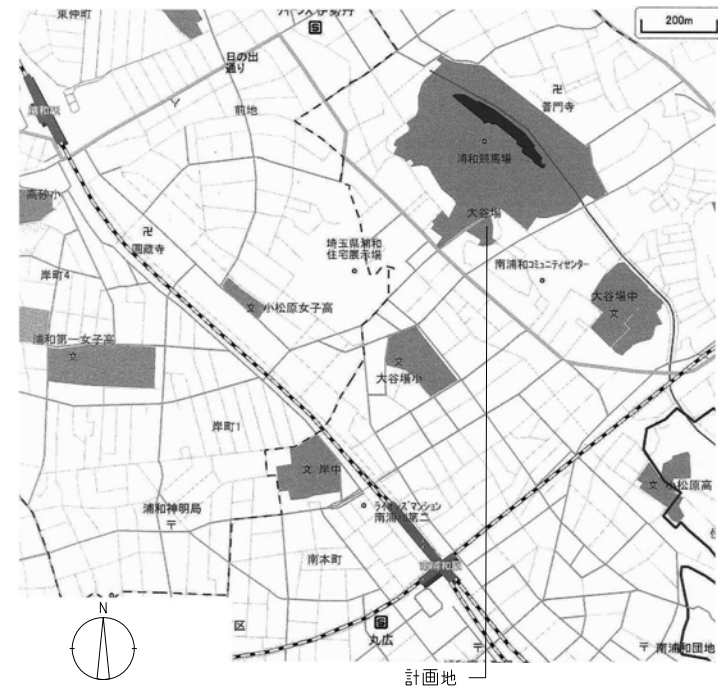
3. 空調設備概要

熱源	エネルギー	・ 重油 ・ 灯油 ・ ガス ○電気 ・ DHC(・ 高温水 ・ 蒸気 ・ 冷水) ・ 太陽熱
	装置	冷凍機(・ ターボ 台、 ・ レシプロ式 台、 ・ 吸収式 台、 ・ スクリュー 台) ・ 直燃冷凍水機 台、 ・ ボイラー 台、 ・ 蓄熱槽 m ³ 、 ・ コレクター m ² ○空冷パッケージ型空調機(EHP)
空調方式	総容量	冷熱源 51.6 KW 温熱源 57.8 KW
	インテリア	・ 中央式 ○個別式 空冷パッケージ方式(EHP)
制御	ペリメーター	・ 中央式 ・ 個別式 空冷パッケージ方式(EHP)
	空調	・ 電気式 ・ 空気式 ○電子式
換気	防煙ダンパー	・ 電気式 ・ 空気式
	換気	・ 中央式(・ 1種 ・ 2種 ・ 3種) ○個別式(○1種 ・ 2種 ○3種)
排煙	方式	○自然排煙方式 ・ 機械排煙方式
	制御	・ 電気式 ・ 空気式

4. 給排水衛生設備概要

給水	水源	○上水 ・ 雑用水	引込口径 50 mm	○直結給水 ○ポンプ圧送 ・ 重力給水
	受水槽	上水 m ³ × 基		・ 雑用水 m ³ × 基(ピット利用)
給湯	高置水槽	上水 m ³ × 基		・ 雑用水 m ³ × 基
	中央式	熱源(・ 重油 ・ 灯油 ・ ガス ・ 電気 ・ 蒸気 ・ ソーラー)、貯湯槽(m ³ × 基)		
排水	個別式	熱源(・ 重油 ・ 灯油 ○ガス ○電気 ・ 蒸気 ・ ソーラー)、○貯湯式 ○瞬間式 ・ 循環式		
	屋内排水	○合流(○地上階 ・ 地下階)、 ・ 分流(・ 地上階 ・ 地下階)、 ・ 再利用装置(・ 有 ・ 無)		
ガス	屋外排水	○下水道放流(○汚水 ・ 雑用水 ・ 雨水)、 ・ 浄化槽()		
	都市ガス	引込口径(中圧 m m)(低圧 75 m m)、発熱量(45 MJ / m ³)		
消火	プロパン	kg ポンプ 本立 組		
	屋内消火栓	・ 屋外消火栓 ・ 連結送水管 ・ 連結散水 ・ スプリンクラー消火 ・ 粉末消火 ・ 泡消火		
	ハロゲン化物消火	・ 炭酸ガス消火 ・ 消防用水(m ³) ・ 消防水利(m ³)		

付近見取図



各工事共通特記仕様書

1 工事概要 (付加)
工事名称: 浦和競馬場検体採取所建築工事
工事場所: 埼玉県さいたま市南区大谷場一丁目8番4-2号
敷地面積: 3,974.39㎡
工事種目: (1)検体採取所 用途:畜舎、事務所 主体構造:鉄骨造 (2)検体馬洗場 用途:畜舎 主体構造:鉄骨造
工期:
工事範囲:
別契約の関連工事

3 工事区分一覧表 (付加)

●各工事共通
各工事間の工事区分は以下の表による。
●電気設備関係
●空気調和設備関係
●給排水衛生設備関係
●昇降機設備関係
●その他

●本設切替以降引渡しまでの電力・水道・ガス・DWC使用料金

電力
上下水
中水
都市ガス
DWC
4 構造設計一級建築士、設備設計一級建築士の関与有無
5 構造体の耐震性能
6 図書等
●1.2.5 (付加) 着工時又は施工中の提出図書
●1.2.6 (付加) 工事中監理事務所へ常備する図書

1.7節 完成図等

●1.7.1(1.6.1) 完成時の提出図書
●1.7.2(1.6.2~3) 完成図等
●1.7.3 (置換) 保全に関する資料
●1.8節 その他
●1.8節 他抄

<p>●その他</p> <p>(追加)○下請け契約 ※全体及び敷内に分け、契約部及び契約金額の総額を提出する。</p> <p>(追加)○周辺建築物等調査</p> <p>(1) 調査は一般的事項調査、事前調査及び事後調査に区分して行うものとし、本工事では事後調査を適用する。</p> <p>(一般的事項調査)</p> <p>(1) 事前調査の実施に当たっては、調査区域内に存する建物等につき、建物の所有者とに次の各号の調査を行うものとする。</p> <p>一 建物の敷地ごとに建物等（主たる工作物）の敷地内の位置関係</p> <p>二 建物ごとに実測による間取り平面及び立面</p> <p>三 建物等の所在地及び地番並びに所有者の氏名及び住所</p> <p>現地調査において所有者の氏名及び住所が確認できないときは、必要に応じて登記簿謄本等の閲覧等の方法により調査を行う。</p> <p>四 その他調査書の作成に必要な事項</p> <p>(事前調査)</p> <p>(1) 受注者は、一般的事項調査が完了したときは、当該建物等の既存の損傷箇所の調査を行うものとし、当該調査は、原則として、次の部位別に行うものとする。</p> <p>一 基礎</p> <p>二 軸部</p> <p>三 開口部</p> <p>四 床</p> <p>五 天井</p> <p>六 内壁</p> <p>七 外壁</p> <p>八 屋根</p> <p>九 水回り</p> <p>十 外構</p> <p>(2) 建物の全体又は一部に傾斜又は沈下が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <p>一 傾斜又は沈下の状況を把握するため、原則として、当該建物の四方向を水準測量又は傾斜計等で計測する。この場合において、事後調査の基準点とするため、沈下等のおそれのない堅固な物件を定めて併せて計測を行う。</p> <p>二 コンクリート布基礎に亀裂が生じているときは、建物の外周について、発生箇所及び状況（最大幅、長さ）を計測する。</p> <p>三 基礎のモルタル張り部分に剥離又は浮き上がりが生じているときは、発生箇所及び状況（大きさ）を計測する。</p> <p>四 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。</p> <p>(3) 軸部（柱及び敷居）に傾斜が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <p>一 原則として、当該建物の工事箇所にも最も接近する壁面の両端の柱及び建物中央部の柱を全体で3箇所程度計測する。</p> <p>二 柱の傾斜の計測位置は、直交する二方向の床（敷居）から1メートルの高さの点とする。</p> <p>三 敷居の傾斜の計測位置は、柱から1メートル離れた点とする。</p> <p>四 計測の単位は、ミリメートルとする。</p> <p>(4) 開口部（建具等）に建付不良が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <p>一 原則として、当該建物で建付不良となっている数量調査を行った後、主たる居室のうちから一室につき1箇所程度とし、全体で5箇所程度を計測する。</p> <p>二 測定箇所は、柱又は窓枠と建具との隙間との最大値の点とする。</p> <p>三 建具の開閉が滑らかに行えないもの、又は開閉不能及び施錠不良が生じているものは、その程度と数量を調査する。</p> <p>四 計測の単位はミリメートルとする。</p> <p>(5) 床に傾斜等が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <p>一 えん甲板張り等の居室（敷居の居室を除く。）について、気泡水準器で直交する二方向の傾斜を計測する。</p> <p>二 床仕上げ材に亀裂及び縁切れ状況（最大幅、長さ又は大きさ）を計測する。又は剥離、破損が生じているときは、それらの箇所及び状況（最大幅、長さ又は大きさ）を計測する。</p> <p>三 東又は大引、根太等床材に緩みが生じているときは、その程度を調査する。</p> <p>四 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さ及び大きさについてはセンチメートルとする。</p> <p>(6) 天井に亀裂、縁切れ、雨漏等のシミが発生しているときの調査は、内壁の調査に準じて行うものとする。</p> <p>(7) 内壁にちり切れ（柱及び内法材と壁との分離）が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <p>一 居室ごとに発生箇所数の調査を行った後、主たる居室のうちから一室につき1箇所、全体で6箇所程度計測する。</p> <p>二 計測の単位は、幅についてはミリメートルとする。</p> <p>(8) 内壁に亀裂が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <p>一 原則として、すべて亀裂の計測をする。</p> <p>二 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。</p> <p>三 亀裂が一壁面に多数発生している場合にはその状態をスケッチするとともに、壁面に雨漏等のシミが生じているときは、その形状、大きさの調査をする。</p> <p>(9) 外壁に亀裂が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <p>一 四方向の立面に生じている亀裂等の数量、形状等をスケッチするとともに、一方向の最大の亀裂から2箇所程度を計測する。</p> <p>二 計測の単位は、幅についてはミリメートルとし、長さについてはセンチメートルとする。</p> <p>(10) 屋根（庇、雨樋を含む。）に亀裂又は損傷などが発生しているときは、当該建物の屋根伏図を作成し、次の調査を行うものとする。</p> <p>一 仕上げ材ごとに、その損傷の程度を計測する。</p> <p>二 計測の単位は、原則として、センチメートルとする。ただし、亀裂の幅についてはミリメートルとする。</p> <p>(11) 水廻り（浴槽、台所、洗面所等）に亀裂、破損、漏水等が発生しているときは、次の調査を行うものとする。</p> <p>一 浴槽、台所、洗面所等の床、腰、壁面のタイル張りに亀裂、剥離、目地切れ等が生じているときは、すべての損傷を第8項に準じて行う。</p> <p>二 給水、排水などの配管に緩み、漏水等が生じているときは、その状況を調査する。</p> <p>(12) 外構（テラス、コンクリート巾、ベランダ、犬走り、池、浄化槽、門柱、塀、擁壁等の屋外工作物）に損傷が発生しているときは、前11項に準じて、その状況等の調査を行うものとする。この場合において、必要に応じて、当該工作物の平面図、立面図等を作成し、損傷箇所、状況等を記載する。</p>			<p>(写真撮影)</p> <p>(1) 事前調査に掲げる建物等の各部位の調査に当たっては、計測箇所を次の方法により写真撮影を行うものとする。この場合において、写真撮影が困難な箇所又はスケッチによることが適当と認められる箇所については、スケッチによることができるものとする。</p> <p>撮影対象箇所を指示棒等により指示し、次の事項を明示した黒板等と同時に撮影する。</p> <p>1 調査番号、建物番号及び建物所有者の氏名</p> <p>2 損傷名及び損傷の程度（計測）</p> <p>3 撮影年月日、撮影番号及び撮影対象箇所</p> <p>(事後調査)</p> <p>(1) 受注者は、事前調査を行った建物等について、損傷箇所等の変化及び工事によって新たに発生した損傷の状態及び程度の調査を行うものとする。</p> <p>(2) 事前調査の調査対象外であって、事後調査の対象となったものについては、一般的事項調査を行ったうえで損傷箇所の調査を行うものとする。</p> <p>調査の作成</p> <p>受注者は、次の各号の事前調査書及び図面の作成を行うものとする。</p> <p>(事前調査書及び図面)</p> <p>一 調査区域位置図</p> <p>二 調査区域平面図</p> <p>三 建物等調査一覧表</p> <p>四 建物等調査書（平面図・立面図等）</p> <p>五 損傷調査書</p> <p>六 写真集</p> <p>(事前調査書及び図面の作成)</p> <p>一 調査区域位置図は、工事の工区単位ごとに作成するものとし、調査区域と工事箇所を併せて表示する。この場合の縮尺は、5,000分の1又は10,000分の1程度とする。</p> <p>二 調査区域平面図は、調査区域内の建物の配置を示す平面図で工事の工区単位又は調査単位ごとに次により作成する。</p> <p>1 調査を実施した建物については、建物等調査一覧表で付した調査番号及び建物番号を記載し、建物の構造別に色分けし、建物の外枠（外壁）を着色する。この場合の構造別色分けは、木造を赤色、非木造を緑色とする。</p> <p>2 縮尺は、500分の1又は、1,000分の1程度とする。</p> <p>三 建物等調査一覧表は、工事の工区単位又は調査単位ごとに調査を実施した建物等について調査番号、建物番号（同一所有者が2棟以上の建物等を所有している場合）の順に建物等の所在及び番地、所有者並びに建物等の概要等必要な事項を記入する。</p> <p>四 建物等調査図（平面図・立面図等）は、一般的事項調査及び事前調査の結果を基に建物等ごとに次により作成するものとする。</p> <p>1 建物平面図は、縮尺100分の1で作成し、写真撮影を行った位置を表示するとともに建物延べ面積、各階別面積及びこれらの計算式を記入する。</p> <p>2 建物立面図は、縮尺100分の1により、原則として、四面（東西南北）作成し、外壁の亀裂等の損傷位置を記入する。</p> <p>3 その他調査図（基礎伏図、屋根伏図及び展開図）は、発生している損傷を表示する必要がある場合作成し、縮尺は100分の1又は10分の1程度とする。この場合において写真撮影が困難であり、又は詳細（スケッチ）図を作成することが適当であると認めたものについては、スケッチによる調査図を作成する。</p> <p>4 工作物の調査図は、損傷の状況及び程度により建物に準じて作成する。</p> <p>五 損傷調査書は一般的事項調査及び事前調査の結果に基づき、建物ごとに建物等の所有者名、建物の概要、名称（室名）、損傷の状況を記載して作成し、損傷の状況については、事前調査欄に損傷名（亀裂、沈下、傾斜等）及び程度（幅、長さ及び箇所数）を記載する。</p> <p>六 写真は、撮影したものをカラーサービスピリで印刷し、撮影箇所及び状況の記載を行ったうえでファイルする。</p> <p>(事後調査書等の作成)</p> <p>(1) 受注者は、事前調査書及び図面を基に建物等の概要、損傷箇所の変化及び工事によって新たに発生した損傷について、事前調査に準じて調査書及び図面の作成を行うものとする。</p>		
--	--	--	---	--	--

 <p>株式会社 日本設計</p>	<p>特記</p>	<p>埼玉県浦和競馬組合</p> <table border="1"> <tr> <td>課長</td> <td>技術参与</td> <td>主査</td> <td>主査</td> <td>担当</td> </tr> <tr> <td>飛塚</td> <td>中里</td> <td>岩崎</td> <td>矢島</td> <td>矢島</td> </tr> </table>	課長	技術参与	主査	主査	担当	飛塚	中里	岩崎	矢島	矢島	<table border="1"> <tr> <td>設計</td> <td>1 級建築士登録第 322398号 平塚 智</td> </tr> <tr> <td>設計</td> <td>1 級建築士登録第 355122号 齋藤 啓佑</td> </tr> <tr> <td>設計</td> <td>1 級建築士登録第 334165号 曾我部 曉人</td> </tr> </table>	設計	1 級建築士登録第 322398号 平塚 智	設計	1 級建築士登録第 355122号 齋藤 啓佑	設計	1 級建築士登録第 334165号 曾我部 曉人	<p>浦和競馬場検体採取所建築工事</p>	<p>図面名称 特記仕様書（3）</p> <p>縮尺 NO SCALE</p>	<p>TOK_KEN.dwg</p> <p>図面番号 A-1005</p> <p>区分 建築図</p>
課長	技術参与	主査	主査	担当																		
飛塚	中里	岩崎	矢島	矢島																		
設計	1 級建築士登録第 322398号 平塚 智																					
設計	1 級建築士登録第 355122号 齋藤 啓佑																					
設計	1 級建築士登録第 334165号 曾我部 曉人																					

15章 左官工事

15.1節 一般事項
15.1.3 見本 (付加) 仕上塗材などは、必要に応じ、工程・工法、性能、色合、模様、つや、仕上げの程度を検討するため、監理者の指示により現場で試し塗りを行う
15.2節 下地
15.2.5 セッコウボード 種類 ※ GB-L ・ GB-S ・ GB-R ・ 厚さ ※ 7mm ・ 12.5mm ・ 9.5mm
15.3節 モルタル塗り
15.3.2 材料 (1)モルタル ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
15.3.5 工法 (2)(9) 床の目地 ※ 設置する 施工箇所 () ・ () ・ () ・ () ・ () ・ ()

15.6節 仕上塗材仕上げ
15.6.2 材料 (1)(イ)仕上塗材の適用
表16.2.1
種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所
A種 S-4 A-3 W-4 70
B種 S-5
C種 S-6 A-4 W-5 70・100・120
表16.2.2
種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所
D種 S-2 A-3 W-3 70
E種 S-3 100・120

15.7節 マスチック塗材塗り
15.7.2 マスチック塗材塗り (1)種別 ・ A種 ・ B種

15.12節 ロックウール吹付け
15.12.3 配合及び密度等 (2)仕上げ吹付け厚さ ※図示

15.13節 無機質系塗床 (付加)
15.13.1 材料・工法
15.13.2 種類
無機質系塗床の材料・工法の詳細は製造所の仕様による。
使用箇所は図示
無機質系塗床
名称 機能 施工方法 膜厚 防汚仕様 備考
耐衝撃性無機質系塗床 耐衝撃性強靱 ※ 塗布型 ・ ・ 有 ・ 無
一体型 ・ ・ 有 ・ 無
長期耐久性無機質系塗床 長期耐久 ・ ・ 一体型

16章 建具工事

16.1節 一般事項
16.1.3 防火戸の指定 (1)防火戸の指定 ※ 有 (※ 建具表による) ・ 無
(3)感知器との連動 ※ 有 (※ 建具表による) ◎ 無
16.1.4 見本の製作等 (1)見本の製作 ・ 製作しない ・ 製作する (施工箇所：)
(2)(7)仮組の実施 ・ 実施する (施工箇所：) ・ 実施しない
16.1.6 (付加) (2)防犯建物部品 ・ 適用する (適用箇所： ※ 玄関、出入口回り ・ 図示) ・ 適用しない
16.2節 アルミニウム製建具
16.2.2 性能及び構造 (2)(7)耐風圧性、気密性、水密性、枠見込
◎ 表16.2.1、表16.2.2 (下段の表)による
下記による
耐風圧性
※ 建築基準法施行令第82条の5、同第87条、告示第1454号・1458号により算定する (高さ13m以下も適用する)。
地表面粗度区分 (・ I ・ II ◎ III ・ IV)
再現期間 (・ 50年 ※ 100年 ・ 200年 ・ 300年) [ガラス協会の再現期間係数]
上記による最大耐風圧 (正圧 Pa ・ 負圧 Pa)
・ 風洞試験結果による値。
(日本建築学会「建築物荷重指針・同解説」の設計用再現期間100年を用いた値)
・ 耐風圧を指定する (Pa)
・ 最小風圧力
※ 2000Pa (N/m²) (高さ13m以下の部位を除く)
・ 2000Pa (N/m²) (高さ13m以下の部位も含む)
気密性
・ A-4 ・ A-3 ・ A-2 ・ A-1 ・ その他 ()
水密性
・ W-5 ・ W-4 ・ W-3 ・ W-2 ・ W-1 ・ その他 ()
枠見込
※ 100 ・ 70 ・ 120
ただし、形式が引違い、片引き、上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合は上記によらず、枠の見込み100mm以上とする。
表16.2.1
種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所
◎ A種 S-4 A-3 W-4 70
B種 S-5
C種 S-6 A-4 W-5 70・100・120
表16.2.2
種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所
D種 S-2 A-3 W-3 70
E種 S-3 100・120
(2)(イ)遮音性能 (防音ドアセット・防音サッシ)
・ 適用する (・ 建具表による ・ T-) ◎ 適用しない
(9)断熱性能 (断熱ドアセット・断熱サッシ)
・ 適用する (・ 建具表による ・ H-) ◎ 適用しない
(5)耐震ドアセット・面内変形追従性
・ 適用する (・ 建具表による ・ D-) ◎ 適用しない
(5)(イ)網戸等の防虫網
網の種類 ◎ ステンレス製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂 ・ 合成樹脂製
形式 ◎ 外部可動式 ◎ 内部可動式 ・ 固定式
(付加) (11)襜板・額縁のすき間の結露防止の絶縁材 ◎ 有 ・ 無
(付加) (12)がらりに接続する設備用ダクト等の接続枠の材質
◎ アルミニウム ・ 高耐食性めっき鋼板 (JIS G 3323) ・ SUS ・
(4)表面処理 ◎ BB-2 (◎ グラス系 ・ 黒 ・ スチール ・ 白) ・ BB-1
・ マット調表面処理
・ 着色塗装 (※ B-FI-2)
(7)結露水の処理方法 引違い建具 ・ 外部排水 ・ 結露受けに貯留
その他の建具 ・ 外部排水 ・ 結露受けに貯留
(2)(9)(b)④ 内付け建具 ※ 製造所の仕様による ・ その他 ()

16.4節 鋼製建具
16.4.2 性能及び構造 (2)(7)簡易気密扉 (SAT扉) への簡易気密型ドアセット性能値
※ 適用する (表16.4.1による) ・ 建具表による ・ 適用しない
外部に面する鋼製建具の耐風圧性能
※ 建築基準法施行令第82条の5、同第87条、告示第1454号・1458号により算定する (高さ13m以下も適用する)。
・ 風洞試験結果による値。
(日本建築学会「建築物荷重指針・同解説」の設計用再現期間100年を用いた値)
・ 表16.2.1による (・ A種 (S-4) ・ B種 (S-5) ・ C種 (S-6))
・ その他 (耐風圧性能： Pa、気密性： A-4、水密性： Pa)
・ 最小風圧力
※ 2000Pa (N/m²) (高さ13m以下の部位を除く)
・ 2000Pa (N/m²) (高さ13m以下の部位も含む)
(置換) (2)(イ)遮音性能 (防音ドアセット・防音サッシ)
・ 適用する (・ 建具表による ・ T-) ◎ 適用しない
(9)断熱性能 (断熱ドアセット・断熱サッシ)
・ 適用する (・ 建具表による ・ H-) ◎ 適用しない
・ 扉の厚充填 (※80kg/m²) 部位(※外部に面する扉)
(5)耐震ドアセット・面内変形追従性
・ 適用する (・ 建具表による ・ D-) ◎ 適用しない
(1)(7)鋼板 ※ JIS G 3302のZ12又はF12
※ くつずりの厚さ以外は標準の特記無き場合の記述による。
・ くつずりに結露受けを設ける。
標準型鋼製建具 ※ 採用しない ・ 採用する
16.8節 建具用金物
16.8.2 材質形状及び寸法 (1)建具金物の種類及び見え掛りの材質 ※ 表16.8.1による
(1)ドアクロウザーの耐久性能 (JIS A 1510-3 の解説による)
※ グレード2 ・ グレード1
16.8.4 鍵 (1)マスターキーの製作
※ グランドマスターキーシステム ※ 製作する (本) ・ 製作しない
◎ マスターキーシステム ◎ 製作する (5本) ・ 製作しない
(3)鍵・鍵筒 一般共通事項 1.6.7 鍵の整理、提出による
外部及び水がかりは、すべてステンレス製とする。
(4)鍵の種類 ◎ デンプルキー (取付場所) ◎ I9シリンダー同等品以上
・ ノックアップキー (取付場所)
16.8.5 かざ箱 (付加) 市販品
形式 ◎ 30組用 × (1) 個 ・ 60組用 × () 個 ・ 120組用 × () 個
16.12節 軽量シャッター
16.12.2 形式及び機構 (1)(7)開閉形式 ◎ 手動式 ・ 上部電動式 (手動併用安全装置付)
(2)耐風圧性能 () Pa (N/m²) ; シャッター・オペレーティング耐風圧強度計算基準による
16.12.3 材料 (付加) スラットの材質 ※ JIS G 3302かJIS G 3312か(※は製造所の仕様による)
めっきの付着量 ※Z06またはF06もしくはAZ90以上
ガイドレール材料 ※ ステンレス鋼板 ・ 溶融亜鉛めっき鋼板
16.12.4 形状及び仕上げ (2)スラットの形状 ※ インターロック形 ・ オーバーラッピング形
16.14節 ガラス
16.14.1 (置換) 建築事に含まれる全てのガラスに適用する。
16.14.2 材料 (1)(7)フロート板ガラス
厚さ ◎ 図示
(1)(イ)製板ガラス
品種及び厚さ ◎ 図示
(9)納入板ガラス及び納入板ガラス
品種及び厚さ ◎ 図示
(5)合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ ※ 図示
特性による種類 ※ 製造所の仕様
中間膜の種類 ※ 製造所の仕様による
ただし採用するシーリングに侵食されないもの
・ PVB膜 ・ IO膜 ()
外部ガラス手すりを目隠しを要する場合は、16.14.9による。
(4)強化ガラス ※ ヒートソークテストを行う
材料板ガラスの種類による名称 (呼び厚を含む) ※ 図示
特性による種類 ※ III類
(8)熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類 ※ 図示
性能による種類 ※ 2種
(4)複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ◎ 図示
断熱性による区分
・ T1 (熱貫流率4.0以下)
・ T2 (熱貫流率2.7以下)
・ T3 (熱貫流率2.3以下)
・ T4 (熱貫流率1.9以下)
・ T5 (熱貫流率1.5以下)
・ T6 (熱貫流率1.1以下)
日射取得性・日射遮へい性による区分
・ G (日射熱除去率0.50以上) ・ S (日射熱取得率0.49以下)
乾燥気体の種類
◎ 空気 ・ アルゴン
封着部のスペーサーの種類 ◎ 通常品 ・ 樹脂製 (寒冷地仕様)
封着部のスペーサーの着色 ◎ メーカー標準色 ・ 黒色 ・ 着色無し
(9)熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※ 図示
日射熱遮へい性及び耐久性による区分
1種A類 (日射熱除去率0.3以上、挽付け) [熱線反射ガラス]
・ 2種B類 (日射熱除去率0.45以上、スパッタリング) [高性能熱線反射ガラス]
・ 3種B類 (日射熱除去率0.6以上、スパッタリング) [高性能熱線反射ガラス]
(9)倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※ 図示

(付加) (1)(イ)耐熱板ガラス等 (認定工法とすること)
(付加) (1)(イ)その他の特殊ガラス
※ 図示
(2)ガラス留め材
2021.06.07日本設計建築工事特記仕様書 2019-Ver.1
建具の種類
アルミニウム製 ※ シーリング材 ・ ガスケット
鋼製及び軽金属製 ※ シーリング材
ステンレス製 ※ シーリング材
(付加) ※ シーリング材幅5mm以上 深さ>4mm 形状係数 (深さ/幅) =2/3~1/1
(付加) グレイジングガスケット (グレイジングビート) 類
材質 ※ EPDM ・ クロロブレンゴム
構造ガスケット
材質 ※ EPDM ・ クロロブレンゴム
形状 ・ Y型 ・ H型
寸法、色は図面による
(付加) 原則としてジッパー側は屋内とする
(付加) (4)防火戸のガラスは建築基準法に基づく防火性認定品とする。
(付加) (6)気泡、異物
※0.5mm以上の気泡・異物が無いこと
・ 目線範囲 (FL+1000~+2000)に0.5mm以上の気泡・異物が無いこと
・ JIS基準に順ずる
(1)板ガラスの溝の大きさ
※ JASS17による ・ 製造所の仕様による
H/300の層間変位に対し、補修の必要なしに継続使用できる形状とすること。
(付加) (1)ガラスの切断、小口処理
納入板ガラスの小口処理 ※ プチルゴムシート ・ 防錆塗装
合わせガラスの小口は、原則外部に露出させない形状とする。
(付加) シーリング材の接着面となる部分の小口の仕上げの程度は荒すり、又はつや消し、人の手に触れる部分の小口仕上げの程度は磨きとする。
(付加) ガラス全般に関し、受注者等はガラスの現場搬入時及び建て入れ後に、ガラス小口の状況を検査し、その記録を保管すること。
(付加) (4)(イ)の項の他、適用のある場合は、16.14.8、16.14.9による。
16.14.5 ガラスブロック積み
一般事項
品質および性能、性能試験などは第17章カーテンウォール工事による
(1)材料 ※ JIS A 5212 による
厚さ 寸法 (mm) 色調 パターン 防火認定 遮音性能
95 ・ クリア ・ ・ ・ 無し ・ T-3
125 ・ 熱線反射 ・ ・ ・ 防火設備 ・ T-4
・ 乳白
・ カラー
・ 1時間耐火
(付加) ガラスおよびガラス取付け用材 (壁用金属枠及び補強材等) は製造者の仕様による。適定に当たっては監理者の承認を受けて決定する。
(付加) 材料は、原則として見本を提出して監理者の承認を受ける。
(2)工法
(イ)木下地への取付 ※ 図示
枠の種類 ※ アルミ枠 ・ 木枠
(付加) 区画面積は14㎡以内を原則とする。
(付加) ガラスブロックの側面でもルルタルに接する部分には、耐水、耐アルカリ性塗料を塗布する。
(付加) 色については、監理者の指示による。
(付加) その他詳細は、製造所の仕様に基づき監理者の承認を受ける。
(付加) 耐風圧性能
※ 建築基準法施行令第82条の5および第87条2項・4項により算定した値 (高さ13m以下も適用する)
地表面粗度区分 (・ I ・ II ◎ III ・ IV)
再現期間 (・ 50年 ※ 100年 ・ 200年 ・ 300年 ・ 500年)
・ 風洞試験結果による値。
(日本建築学会「建築物荷重指針・同解説」の設計用再現期間100年を用いた値)
・ 最小風圧力
※ 2000Pa (N/m²) (高さ13m以下の部位を除く)
・ 2000Pa (N/m²) (高さ13m以下の部位も含む)
外壁に取り付く建具のガラスの層間変位追従性能 ※ 1/150
16.14.7 建築窓ガラス用フィルム
性能・品質がJIS A 5759による
外部ガラス手すりの中間膜に目隠しを行う場合は、16.14.9による。
使用部位
a. 外壁部 b. 内部吹抜け c. その他内部
張り面
a. 内張り ・ 吹抜け面張り b. 外張り
性能
a. 日射調整 (SC) [遮へい性能による区分 ・ A ・ B ・ C]
b. ガラス飛散防止 (GS) [飛散防止性能による区分 ※ A及びB]
c. ガラス貫通防止 (SP) [貫通防止性能による区分 ※ A ・ B]
d. 目隠し e. 耐爆風性能
施工箇所 使用部位 張り面 性能
a a a
a a a
b a b, d
施工方法 ※ 工場にて全面張り ・ 現場張り
耐爆風性能適用の場合は、薄膜積層飛散防止フィルム (基材厚さ150μm以上、垂直方向引裂強度120N程度以上) とする。
ガラスの熱割れ計算を行って安全性を確認すること
高さ3m以下の部分の飛散防止フィルム張りは図示による。

NIHON SEKKEI 株式会社 日本設計
特記
浦和競馬場体採取所建築工事
設計：1級建築士登録第 322398号 平塚 智
設計：1級建築士登録第 355122号 齋藤 啓佑
設計：1級建築士登録第 334165号 曾我部 唯人
浦和競馬場体採取所建築工事
図面名称 特記仕様書 (6)
図面番号 A-1008
NO SCALE
図面区分 建築図

18章 塗装工事
18.1節 一般事項
18.1.1 適用範囲
18.1.3 材料
18.2節 素地ごしらえ
18.2.2 素地ごしらえ
18.3 錆止め塗料塗り
18.3.2 塗料種別
18.3.3 錆止め塗料塗り
18.4節～18.14節 塗料塗りの種別
18.4～18.14 塗料塗りの種別

19章 内装工事
19.2節 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り
19.2.2 材料
(1) ビニル床シート張り
(2) ビニル床タイル張り
(3) 特殊機能床材
(4) ビニル幅木
(5) ゴム床タイル張り
(付加) (8) その他床シート・タイル張り

19.4節 合成樹脂塗床
(1) 厚膜型塗床材
(2) 薄膜型塗床材(防塵塗床材)
無機質系の防塵塗床材は15.13.2による

19.7.2 セッコウボードその他ボード及び合板張り
(1) セッコウボード、その他ボード類
(2) 水質ボード
(3) (7) 普通合板
(3) (4) 天然木化粧合板
(3) (7) 特殊加工化粧合板
(付加) 特殊加工化粧板
(付加) 不燃化粧ボード

19.7.3 工法 (1)下地 ※軽量鉄骨下地 (5) (9)合板類の張付け ※B種 (7) (7)せっこうボードの目地工法

19.9節 断熱・防露 (1)材料 断熱材打込み工法 断熱材現場発泡工法

19.13節 遮音壁 (付加) 19.13.1 遮音壁 ※開仕切壁リストによる 性能 場所

20.2.14 カーテン及びカーテンレール (付加) カーテン (工事範囲は各工事共通特記仕様書 6.工事範囲による) ※図示 ・下表による

NIHON SEKKEI 株式会社 日本設計 TOK_KEN.dwg 図面名称 特記仕様書(8) 図面番号 A-1010 区画 建築図

Table with specifications for various construction items including traps, stairs, doors, and materials. Includes items like 20.2.28 グリストラップ, 20.2.29 ガゾリトラップ, 20.2.30 コーナプロテクター, etc.

Table with specifications for materials and components. Includes items like 20.2.46 ゴムマット張り, 20.2.47 ゴムマット敷き, 20.2.48 排水溝特殊ゴム成形蓋, etc.

Chapter 21: Drainage Work (21章 排水工事). Section 21.2: Outdoor Rainwater Drainage (21.2節 屋外雨水排水). Includes a table for pipe specifications and a table for grate types.

Table with specifications for site work and materials. Includes items like 21.2.1 材料, 21.3節 街きよ、緑石及び側溝, 21.3.1 材料, etc.

22章 舗装工事	
22.1節 一般事項	
●22.1.2 基本要品質	(付加) 本章で定める以外の事項は、日本道路協会発行「舗装設計施工指針」、「アスファルト舗装要綱」、「セメントコンクリート舗装要綱」、「簡易舗装要綱」、「転圧コンクリート舗装技術指針(案)」各最新版による。
22.2節 路床	
●22.2.2 路床の構成及び仕上り	(1) (7)凍上抑制層 ※ 図示 ・ 設ける (厚さ mm) ○ 設けない (f)透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ 車道部 ※ 150mm ・ mm ・ 図示 歩道部 ※ 50mm ・ mm ・ 図示 (g)路床安定処理 (a)適用 ※ 路床土の設計CBRが2未満の場合、監理者と協議して路床安定処理を行う。 ・ 図示 ○ 行わない (b)方法 ※ 添加材料による安定処理 (厚さ 300mm、目標CBR 5以上) ・ 図示 (c)路床土の設計CBRが2以上5未満の場合は、舗装の構造を監理者と協議する。 (d)凍結融解を受ける寒冷地において、10年確率凍結深度の7割の深さよりも舗装厚さが小さい場合は舗装の構造を監理者と協議する。
○22.2.3 材料	(1)盛土に用いる材料 (表3.2.1) ※ A種 (山砂の類) ・ B種 (振切り土の中の良質土) ・ C種 (他現場の建設発生土の中の良質土) ・ D種 (再生コンクリート砂) (2)凍上抑制層に用いる材料 ※ 砂、切込砕石 ・ 火山灰、火山塵 ・ 図示 ・ フィルター層に用いる材料 ※ 砂 ・ 切込砕石 ・ 図示 (3)路床安定処理用材料 路床安定処理用添加材料 ※ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 生石灰 (・ 特号 ・ 1号) ・ 消石灰 (・ 特号 ・ 1号) ・ その他 (・ セメント系安定材 ・ 石灰系安定材)
●22.2.5 試験	(1)路床土の支持力比(CBR)試験 ※ 行う (※ 乱した土 ・ 乱さない土) ○ 行わない (2)路床締固め度の試験 ※ 行う ○ 行わない (3)現場CBR試験 ○ 行う ・ 行わない (付加) (5)路床土の支持力比(CBR)試験、路床締固め度の試験、現場CBR試験の箇所数は、舗装面積1000㎡以下は3箇所、1000㎡を超える場合は 更に1000㎡ごと及びその端数につき1箇所増した数を目安とし、監理者との協議により決定する。 (付加) (6)セメント及びセメント系固着材による路床安定処理を行う場合は、六価クロム溶出試験を行うこと。
22.3節 路盤	
●22.3.2 路盤の厚さ及び仕上り	(1)路盤の厚さ ※ 図示 ・
●22.3.3 材料	(1)路盤材料 ※ 砕石及び再生材のクラッシュラン、粒度調整砕石、クラッシュラン鉄鋼スラグ ○ 図示 ・ 粒度調整鉄鋼スラグ ・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ
22.4節 アスファルト舗装 (高強度ゴムチップウレタン舗装構成内のアスファルト舗装を示す)	
●22.4.2 舗装の構成及び仕上り	(1)アスファルト舗装の構成及び厚さ ※ 図示 ・ (4)舗装の平坦性 ※ 水たまりを生じない程度 ・
○22.4.3 材料	(1) (f)再生アスファルトの種類 ・ 60~80 ・ 80~100 (5)シーラーコート用の乳剤 ・ PK-1 ・ PK-2
●22.4.4 配合その他	(1)表層の加熱アスファルト混合物及び再生加熱アスファルト混合物の種類 地域 一般地域 寒冷地域 種類 ※ 密粒度(75μ)混合物 (13) ※ 密粒度(75μ)混合物 (13F) ・ 細粒度(75μ)混合物 (13)
○22.4.6 試験	(3) (7)アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ※ 行わない (付加) アスファルト混合物等の抽出試験を行わない場合、アスファルト混合所の材料計量印字記録を提出し、配合が基準値を満足する事を示すこと。
22.5節 コンクリート舗装	
○22.5.2 舗装の構成及び仕上り	(1)構成及び厚さ ・ 下表による ※ 図示 舗装の種類 部位 舗装の厚さ 溶接金網 コンクリート舗装 車路及び駐車場 ※150mm・200mm ※有 ・ 無 歩行者用通路 ※150mm・70mm ※有 ・ 無 闊路部 70mm ※有 ・ 無 寒冷地の縁部立下り 寸法 ※ 適用する ・ 適用しない 寸法 ※ 図示 ・ mm (4)舗装の平坦性 ※ 水たまりを生じない程度 ・
○22.5.3 材料	(1)コンクリートの種類、設計基準強度、スランプ及び粗骨材の最大寸法 ※ 表22.5.1 [下表] による 部位 設計基準強度(N/mm ²) 所要スランプ(cm) 粗骨材の最大寸法(mm) ※ 車路及び駐車場 24 8 砂利の場合25又は40 砕石の場合20又は25 ※ 歩行者用通路 18 8 砂利の場合25 砕石の場合20 ・ 図示 (2)早強ポルトランドセメント ※ 使用する ・ 使用しない (4)注入目地材料の種類 ※ 低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ

○22.5.4 施工	(置換) (5) (7)目地の種類及び間隔 「標仕」表22.5.3は下表に置き換える。 コンクリート舗装の目地 部位 目地の種類 目地の間隔 駐車場、広場等 縦横方向 伸縮目地 10m程度ごと 収縮目地 伸縮目地の間に3m程度ごと 車路及び歩行者用通路 縦方向 突き合せ目地 3m程度ごと 横方向 収縮目地 3m程度ごと 伸縮目地 10m程度ごと 舗装内の樹の周囲 伸縮調整目地 ー 建築物、構造物との取合い 伸縮調整目地 ー 表内の「伸縮目地」は、図22.5.1の「伸縮調整目地」にならない、突き合せ目地に加え注入目地板を施工すること。 図がない場合は、「構内舗装・排水設計基準(社団法人公共建築協会)平成27年版」2.5.4目地の図2.5.3コンクリート舗装の目地の構造「横断張目地」と同構造とする。 注入目地材の底部は粘着テープ、バックアップ材等でコンクリート版、目地板から絶縁を行うこと。 (付加) 目地の割付は図面を監理者に提出し、位置を確認すること。 (付加) 真空コンクリート工法 ※ 行わない ・ 行う (・ 円形溝 ・ 横溝 ・ 溝なし)
22.6節 カラー舗装	
○22.6.2 舗装の構成及び仕上り	(1)カラー舗装の種類 ※ 図示 ・ 下表による 種類 表層 部位 カラー舗装の厚さ ※ 加熱系 アスファルト混合物 ※ 車路 (基層なし) ※ 50 ・ カラー舗装 石油樹脂系混合物 ・ 車路 (基層あり) ※ 30 ・ ・ 常温系 ・ ニート工法 歩行者用通路 ※ 30 ・ カラー舗装 ・ 塗布工法 車路及び歩行者用通路 3~5 1程度以下 (2) (c)舗装の平坦性 ※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・ (3) (7)着色部の下部 ※ アスファルト舗装 ・ コンクリート舗装 ・ 図示
○22.6.3 材料	(1) (f)加熱系混合物に添加する着色骨材又は自然石 ・ 有色骨材(焼成) ・ 着色骨材(樹脂被覆) ・ 図示 ・
○22.6.4 配合その他	(1) (f)加熱系混合物の結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料の添加量 ・ 図示 ・ (2)ニート工法及び塗布工法の配合その他 ・ 図示 ・
○22.6.6 試験	(1) (f)加熱系混合物の抽出試験 ※ 行わない ・ 行う (付加) 加熱系混合物の抽出試験を行わない場合、混合所の材料計量印字記録を提出し、配合が基準値を満足する事を示すこと。
22.7節 透水性アスファルト舗装	
○22.7.2 舗装の構成及び仕上り	(1)舗装の構成 ※ 図示 ・ (2) (f)舗装の平坦性 ※ 著しい不陸がないもの ・
○22.7.6 試験	(3)間粒度アスファルト混合物の抽出試験 ※ 行わない ・ 行う (付加) 間粒度アスファルト混合物等の抽出試験を行わない場合、アスファルト混合所の材料計量印字記録を提出し、配合が基準値を満足する事を示すこと。
22.8節 ブロック系舗装	
○22.8.2 舗装の構成及び仕上り	(1) 舗装の構成及び厚さ ※ 図示 ・ 表22.8.11による (7)コンクリート平板舗装の目地材 ※ 砂 ・ モルタル ・ 図示 (f)舗装の基層 ※ 図示 ・ アスファルト混合物(50mm) ・ コンクリート版(70mm) (7)コンクリート平板舗装のクッション材 ・ 砂 ※ 空練りモルタル 舗装のクッション材 ・ 砂 ※ 空練りモルタル (2) 仕上がり面の平坦性 ※ 歩行に支障となる段差がないこと ・
○22.8.3 材料	(1)コンクリート平板の種類、寸法及び厚さ ※ 図示 ・ 厚さ60mm (付加) 視覚障害者誘導用ブロック等はJIS T9251により色は黄色系とする。車路及び駐車場は厚さ80mm、歩行者用通路は厚さ60mmとし、平面寸法は300×300mmとする。 (2) インターロッキングブロック (JIS A 5371による) ※ 図示 ・ 下表による 種類 形状・寸法・厚さ(mm) 表面加工等 ※ 普通ブロック (N) 厚さ 車路 ※ 80mm ・ ※ 標準品 ・ 透水性ブロック (P) 歩行者用通路 ※ 60mm ・ ※ 擬石ショットプラスト仕上 ・ 保水性ブロック (M) ※ 平面100×200mm ・ ・ 植生用ブロック (V) ※ 厚さ80mm・厚さ100mm (3) 舗石用石材の種類、形状及び寸法 ※ 図示 ・ 下表による 種類 形状・寸法・厚さ(mm) 施工方法 ※ 小舗石 (花こう岩) ※ 約90×約90×約90 ・ 図示 ※ 目地張り ・ ・ ※ 有 ・ 有 (付加) (6)透水性ブロック系舗装 (透水平板、透水性インターロッキングブロック等)の路盤とクッション材(砂)の間には透水シートを敷設する。 品質:不織布製造シート 透水性:1×10=2cm/sec以上 引張り強度:25kN/5cm
22.9節 砂利敷き	
●22.9.2 材料	砂利敷きの種類と適用範囲 ※ 下表による ○ 図示 歩行者用通路 ※ A種 ・ B種 ・ 建物周囲その他 ・ A種 ・ B種 ・ (付加) 砂利敷きと土の境界部の見切り材 ※ 不要 ・ 図示 ・ 杉目地板 (防蟻処理) ・ 土木安定シート ・ 金属製見切り材 ・ PVC製見切り材

22.10節 平たわみ性舗装	(付加)
○22.10.1 基本要品質	平たわみ性舗装の施工については、(社)日本道路協会「舗装施工便覧」の最新版による。
○22.10.2 舗装の構成と仕上り	構成および厚さ ※ 図示 ・ 下表による 路盤 ※ 150mm ・ 間粒度アスファルト ※ 40mm ・ 50mm ・ 100mm 舗装厚さの許容差 ※ 22.4.2(3)による ・ 舗装の平坦性 ※ 水たまりを生じない程度 ・
○22.10.3 材料	間粒度アスファルト ※ I型 ・ II型 浸透用セメントミルク ※ 普通タイプ ・ 早強タイプ ・ 超速硬タイプ
○22.10.4 仕上げ	顔料の添加 ※ 行わない ・ 行う (色:現場指示による) 表面仕上げ処理 ※ ショットプラスト ・ 行わない ・
○22.10.5 試験	舗装厚さの試験 ※ 22.4.6 (1) による ・ 舗装の平坦性 ※ 22.4.6(2)による アスファルト混合物の抽出試験 ※ 行わない ・ 行う アスファルト混合物の抽出試験を行わない場合、アスファルト混合所の材料計量印字記録を提出し、配合が基準値を満足する事を示すこと。
22.11節 透水性コンクリート舗装 (ポーラスコンクリート舗装)	(付加)
○22.11.1 基本要品質	透水性コンクリート舗装 (ポーラスコンクリート舗装) はNETIS登録済みの工法、または同等品とし、技術資料を提出して監理者の承認を受ける。 施工については、(社)日本道路協会「舗装施工便覧」(最新版)および「透水性舗装ガイドブック2007」に基づき、施工計画書を提出すること。
○22.11.2 舗装の構成と仕上り	構成及び厚さ ※ 図示 ・ 下表による 路盤 ※ 150mm 透水性コンクリート ・ 150mm (大型車) ※ 130mm (緊急車両) ・ 100mm (駐車場) ・ 80mm (歩道)
○22.11.3 材料・仕上げ	※ 図示 ・ 下表による 強度 透水係数 仕上げ ※ 曲げ強度 2.5N/m ² 10 ³ cm/sec以上 ※ 標準品 ・ 吹付着色 ・ 洗い出し ・ 曲げ強度 4.5N/m ² 10 ³ cm/sec以上 ※ 標準品
○22.11.4 施工	目地は、標仕22.5.4(5) (7)、(f)による。目地の構造、間隔は舗装の製造所の基準に基づき、割付図を作成し、監理者に提出すること。
○22.11.5 試験	コンクリート版の厚さ ※ 22.5.6(1)による ・ 舗装の平坦性 ※ 22.4.6(2)による ・
22.12節 その他	(付加)
○22.12.1 路面表示区画線	表示位置・間隔等 ※ 図示 塗料種類: JIS K 5665 路面表示用塗料 ※ 3種1号 (溶融) ・ 1種 (常温) ・ 2種 (加熱) 路面標示塗料用ガラスビーズ JIS R 3301 ※ 1号 (含まない) (含まない) 色 ※ 白 ・ 黄 塗布幅、通行方向 ※ 150mm ・ 100mm 塗布幅、通行直角方法 ※ 300mm ・ 450mm 塗布厚さ ※ 1.0mm以上 ・
○22.12.2 道路付属施設	防護柵 表示、材質などは日本道路協会制定「防護柵の設置基準・同解説(改訂版)」及び「車両用防護柵標準仕様・同解説(改訂版)」による。 形状、取付位置 (※ 図示 ・) 道路標識 表示、材質などは日本道路協会制定「道路標識設置基準・同解説」による。 形状、取付位置 (※ 図示 ・)

●22.12.3 高強度ゴムチップウレタン舗装	(付加) 株式会社NIPPO 高強度ウレタンパソフトGPS 同等品以上
●22.12.4 集水溝特殊ゴム成形蓋	(付加) 早川ゴム株式会社 セーフティカバーD-350 同等品以上
22.13節 図面名称	特記仕様書(10)
22.14節 縮尺	NO SCALE
22.15節 図面番号	A-1012
22.16節 図面縮尺	建築図

NIHON SEKKEI
株式会社 日本設計

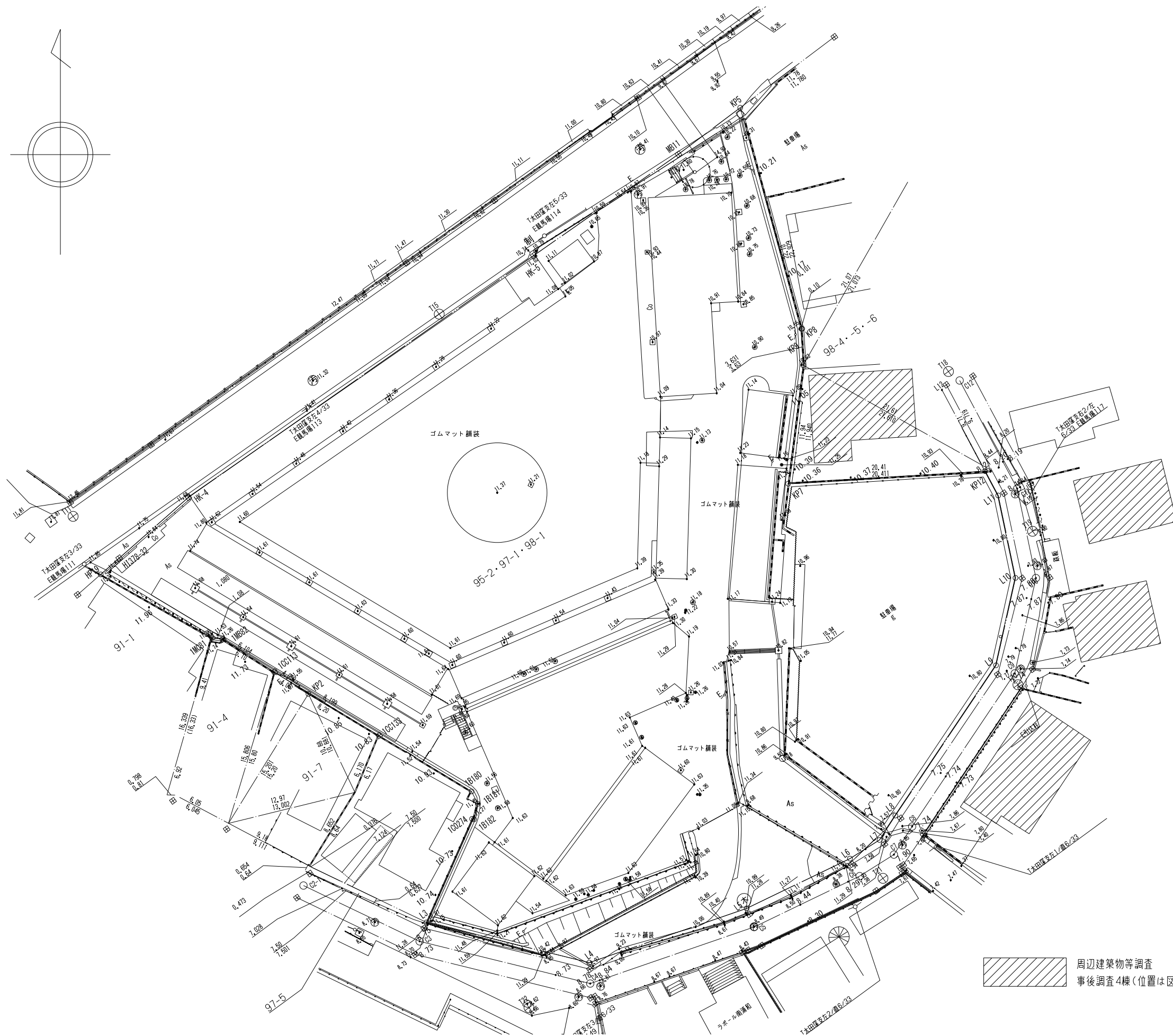
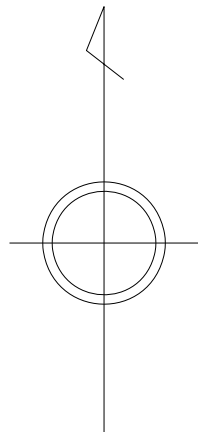
特記
浦和競馬場
浦和競馬場

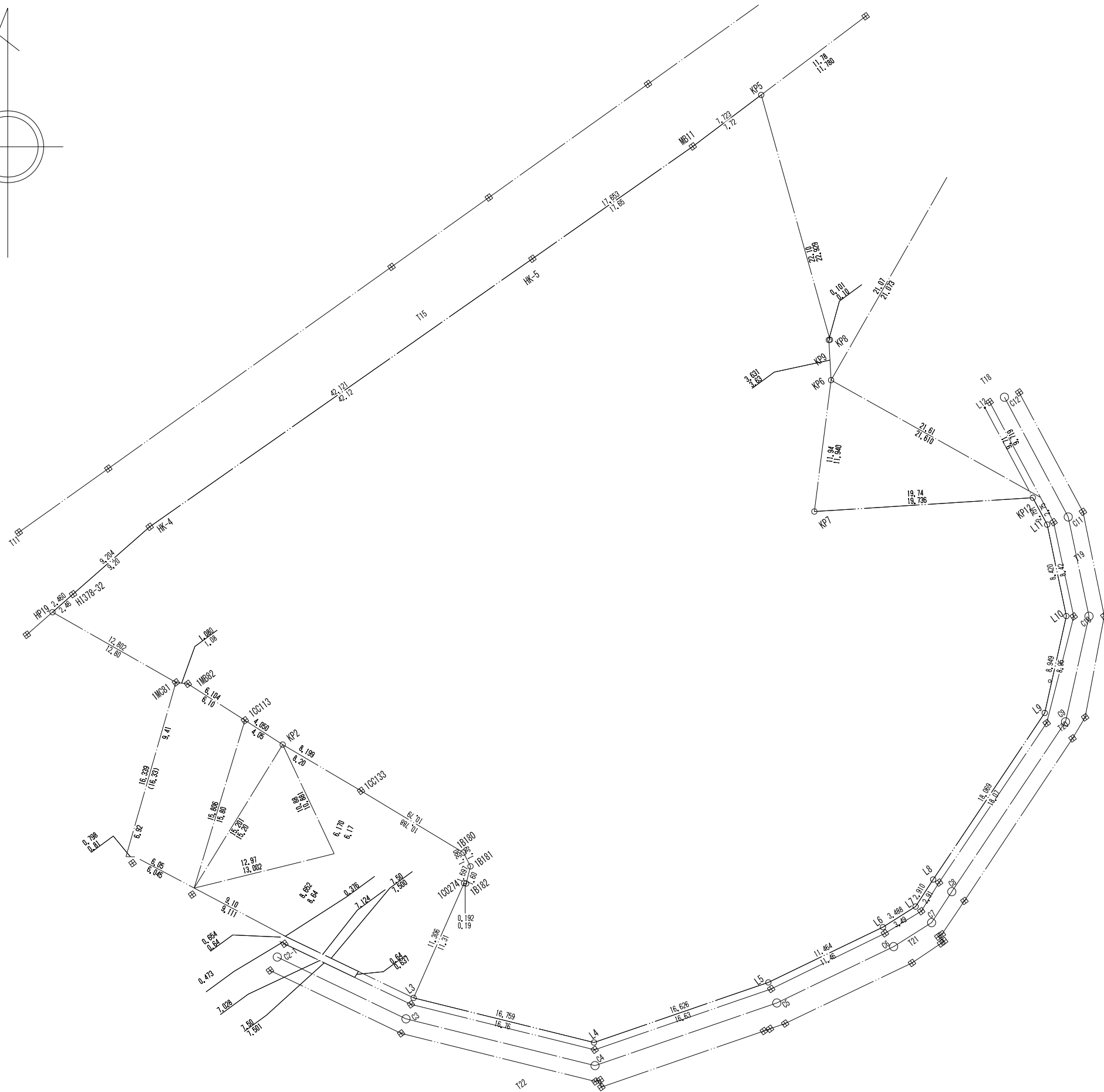
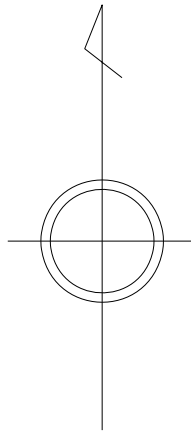
課長 技術参与 主査 主査 担当
飛塚 中里 岩崎 矢島 矢島

設計 1 級建築士登録第 322398号 平塚 智
設計 1 級建築士登録第 355122号 齋藤 啓佑
設計 1 級建築士登録第 334165号 曾我部 曉人

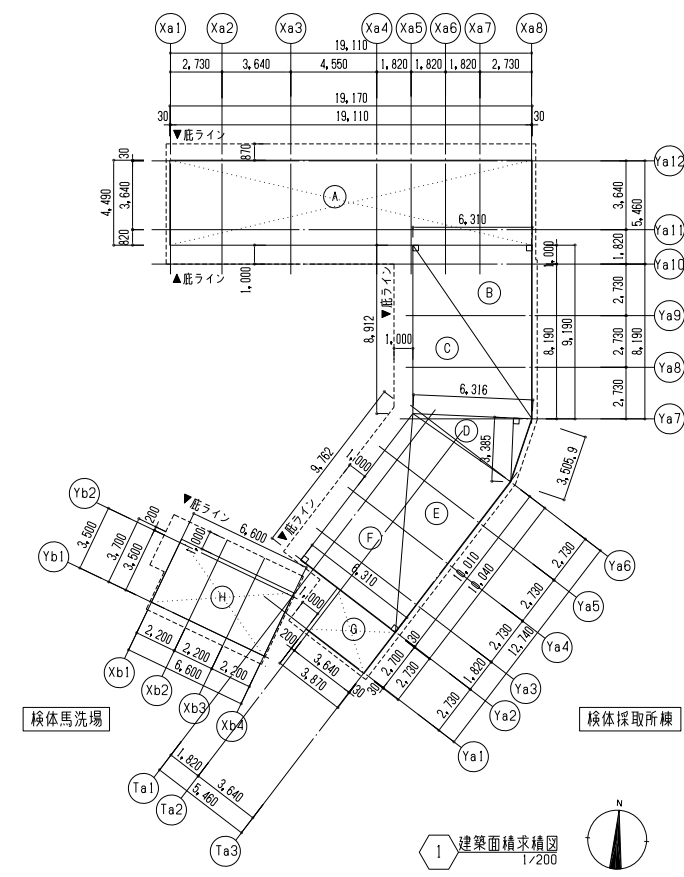
浦和競馬場検体採取所建築工事

TOK_KEN_dwg
図面番号 A-1012
縮尺 建築図





地番	セットバック後の菜穂園		公簿地積	
公簿地目			現況地目	
所有者				
測点	Xn	Yn	(Xn+1 - Xn-1)Yn	距離
HP19	-15995,724	-14757,370	117380,120980	12,802
IMC81	-16002,054	-14746,242	95275,469562	1,080
IMB82	-16002,185	-14745,169	50369,497304	6,104
ICC113	-16005,470	-14740,024	80745,851472	4,050
KP2	-16007,663	-14736,619	93665,950364	8,199
ICC133	-16011,826	-14729,555	143421,677035	10,788
IB180	-16017,400	-14720,318	100260,085898	1,390
IB181	-16018,637	-14719,684	41009,039624	1,597
IB182	-16020,186	-14720,075	22212,593175	0,192
IC0274	-16020,146	-14720,263	151736,471004	11,306
L3	-16030,494	-14724,818	211625,084296	16,759
L4	-16034,518	-14708,549	-20577,260051	16,626
L5	-16029,095	-14692,832	-152776,067136	11,464
L6	-16024,120	-14682,503	-100369,590508	3,488
L7	-16022,259	-14679,552	-63136,753152	2,910
L8	-16019,819	-14677,966	-256159,862632	18,069
L9	-16004,807	-14667,909	-348333,502932	8,949
L10	-15996,071	-14665,967	-248998,787726	8,420
L11	-15987,829	-14667,692	-156504,273640	2,751
KP12	-15985,401	-14668,986	-17265,396522	19,736
KP7	-15986,652	-14688,683	-155611,907702	11,940
KP6	-15974,807	-14687,173	-227225,253483	3,631
KP9	-15971,181	-14687,372	-53476,721452	0,101
KP8	-15971,166	-14687,272	-324441,838480	22,929
KP5	-15949,091	-14693,473	-256107,234390	7,723
MB11	-15953,736	-14699,644	217157,840812	17,653
HK-5	-15963,864	-14714,103	504517,163664	42,121
HK-4	-15988,024	-14748,607	445938,881252	9,204
HI378-32	-15994,100	-14755,521	113617,511700	2,460
		倍面積	7948,788336	
		面積	3974,3941680	
		地積	3974,39	合計面積 284,442m



■ 検体採取所棟 建築面積

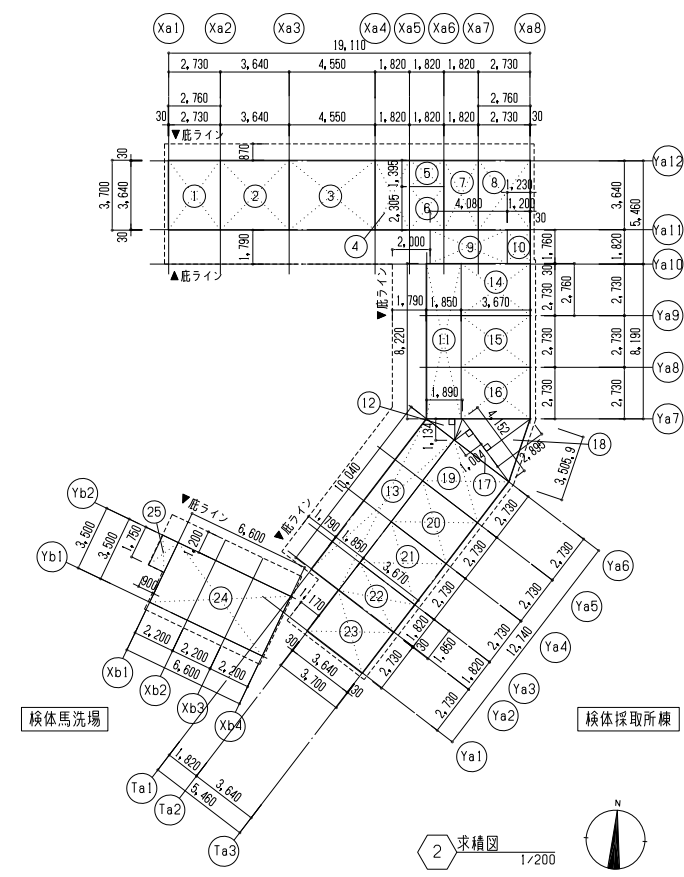
番号	計算式	面積
A	19.170 × 4.490 × *	86.073300
B	9.190 × 6.310 × 1/2 *	28.994450
C	8.912 × 6.310 × 1/2 *	28.117300
D	6.316 × 3.385 × 1/2 *	10.689830
E	10.040 × 6.310 × 1/2 *	31.676200
F	9.762 × 6.310 × 1/2 *	30.799110
G	3.670 × 2.730 × *	10.565100
小計		226.915350

建築面積 226.91 ㎡
※小数点第3位以下は切り捨て

■ 検体馬洗場棟 建築面積

番号	計算式	面積
H	6.600 × 3.700 × *	24.420000
小計		24.420000

建築面積 24.42 ㎡
※小数点第3位以下は切り捨て



■ 検体採取所棟 床面積

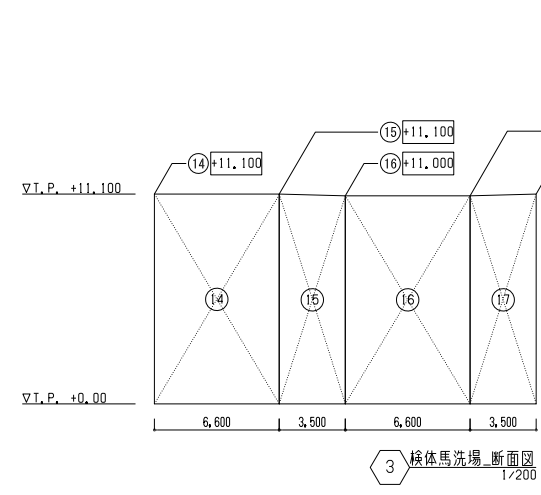
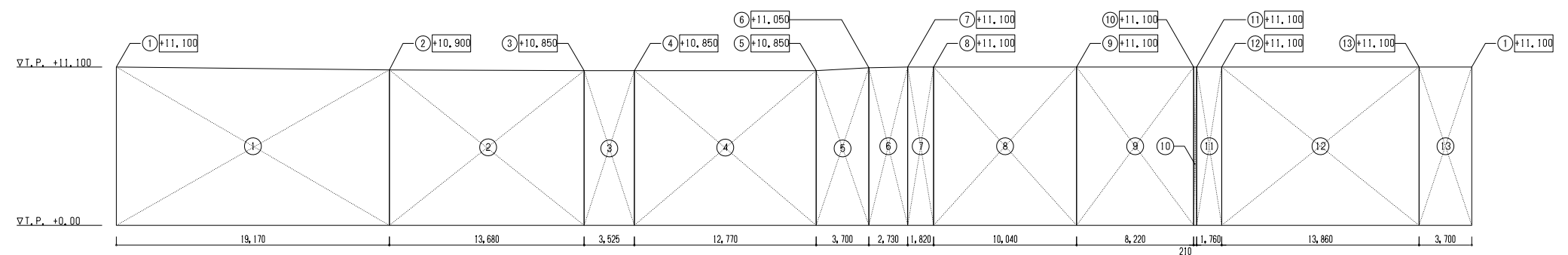
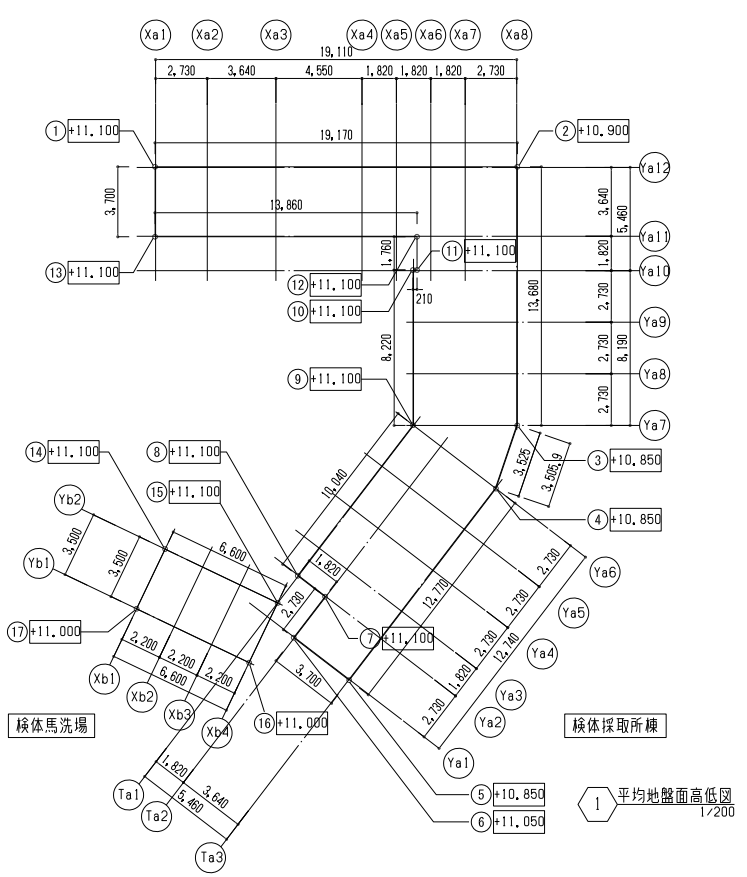
番号	室名	計算式	面積	室面積小計
1	事務所	2.760 × 3.700 × *	10.212000	
2	待合室	3.640 × 3.700 × *	13.468000	
3	事務室	4.550 × 3.700 × *	16.835000	
4	男子トイレ	1.820 × 3.700 × *	6.734000	
5	女子トイレ	1.820 × 3.700 × *	6.734000	
6	シャワー室	1.820 × 2.305 × *	4.195100	
7	ロッカー室	1.820 × 3.700 × *	6.734000	
8	ロッカー室	2.760 × 3.700 × *	10.212000	
9	待客通路	4.080 × 1.760 × *	7.180800	
10	廊下	1.230 × 1.760 × *	2.164800	
11	廊下	1.850 × 8.220 × *	15.207000	
12	通路	1.890 × 1.134 × 1/2 *	1.071630	34.852630
13	通路	1.850 × 10.040 × *	18.574000	
14	採算馬廄①	3.670 × 2.730 × *	10.019100	
15	採算馬廄②	3.670 × 2.730 × *	10.019100	
16	採算馬廄③	3.670 × 2.730 × *	10.019100	
17	採算馬廄④	4.152 × 1.004 × 1/2 *	2.084304	8.094324
18	採算馬廄⑤	4.152 × 2.895 × 1/2 *	6.010020	
19	採算馬廄⑥	3.670 × 2.730 × *	10.019100	
20	採算馬廄⑦	3.670 × 2.730 × *	10.019100	
21	採算馬廄⑧	3.670 × 2.730 × *	10.019100	
22	基礎区画	3.670 × 1.850 × *	6.789500	
23	物干設備	3.700 × 2.730 × *	10.101000	
小計			200.336754	

容積対象床面積 200.33 ㎡
※小数点第3位以下は切り捨て

■ 検体馬洗場棟 床面積

番号	室名	計算式	面積	室面積小計
24	検体馬洗場	6.600 × 3.500 × *	23.100000	
25	軒下	0.900 × 1.750 × *	1.575000	
小計			24.675000	

容積対象床面積 24.67 ㎡
※小数点第3位以下は切り捨て



■ 検体採取所棟 平均地盤面算定表

番号	長さ	計算式	面積
1	1-2	19.170 × (11.100 + 10.900) × 1/2 *	210.870000
2	2-3	13.680 × (10.900 + 10.850) × 1/2 *	148.770000
3	3-4	3.525 × 10.850 × *	38.246250
4	4-5	12.770 × 10.850 × *	138.554500
5	5-6	3.700 × (10.850 + 11.050) × 1/2 *	40.515000
6	6-7	2.730 × (11.050 + 11.100) × 1/2 *	30.234750
7	7-8	1.820 × 11.100 × *	20.202000
8	8-9	10.040 × 11.100 × *	111.444000
9	9-10	8.220 × 11.100 × *	91.242000
10	10-11	0.210 × 11.100 × *	2.331000
11	11-12	1.760 × 11.100 × *	19.536000
12	12-13	13.860 × 11.100 × *	153.846000
13	13-1	3.700 × 11.100 × *	41.070000
小計			1046.861500

接地面積: 1,046.862 ㎡
接地長さ: 95.185 m
平均地盤面: 1,046.862 / 95.185 = 10.998 m

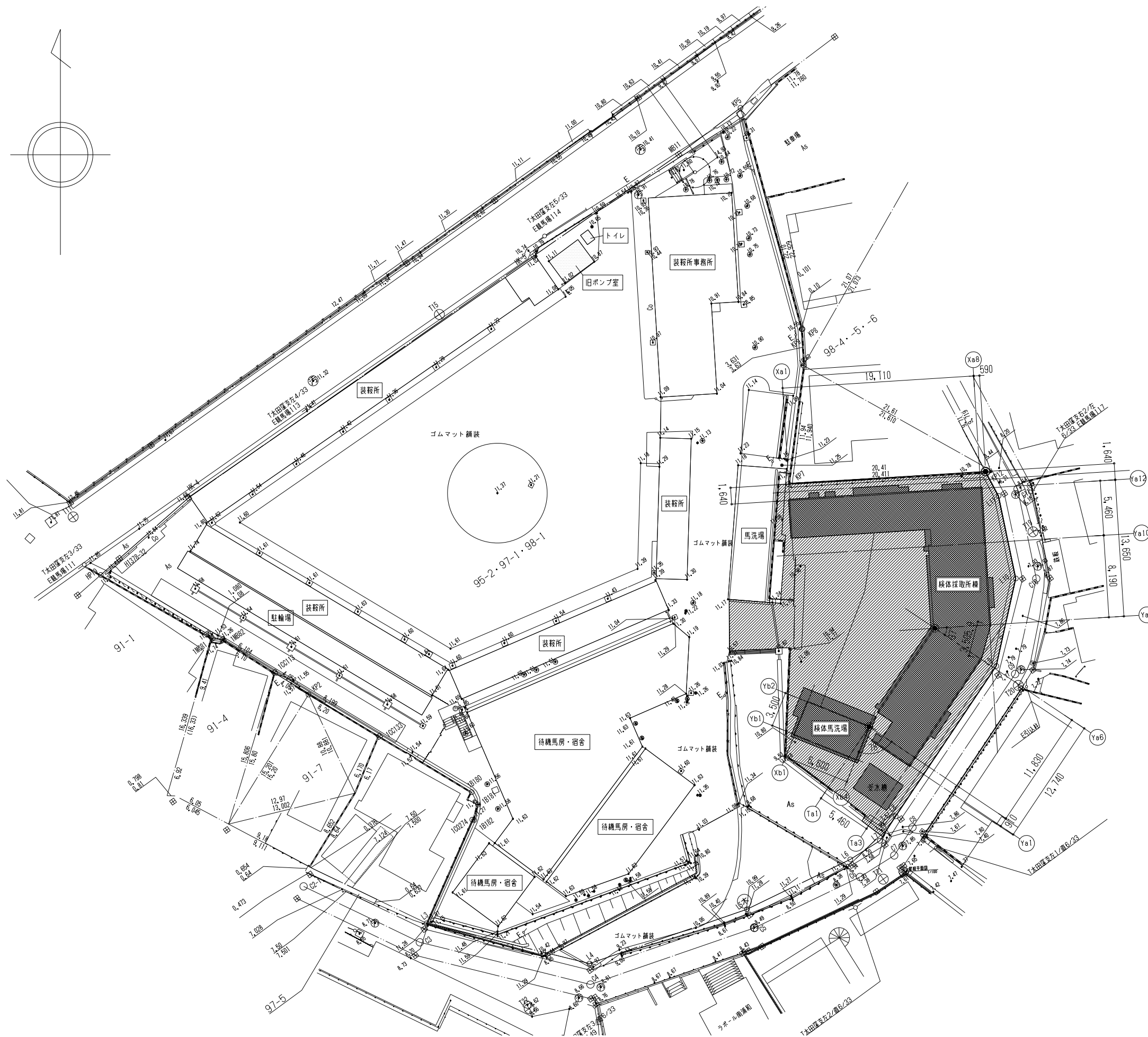
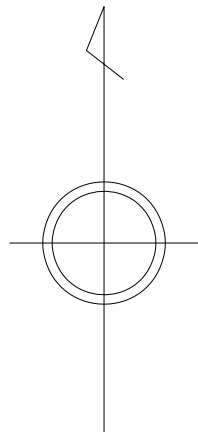
■ 検体馬洗場棟 平均地盤面算定表

番号	長さ	計算式	面積
14	14-15	6.600 × 11.100 × *	73.260000
15	15-16	3.500 × (11.100 + 11.000) × 1/2 *	38.675000
16	16-17	6.600 × 11.000 × *	72.600000
17	17-14	3.500 × (11.100 + 11.000) × 1/2 *	38.675000
小計			223.210000

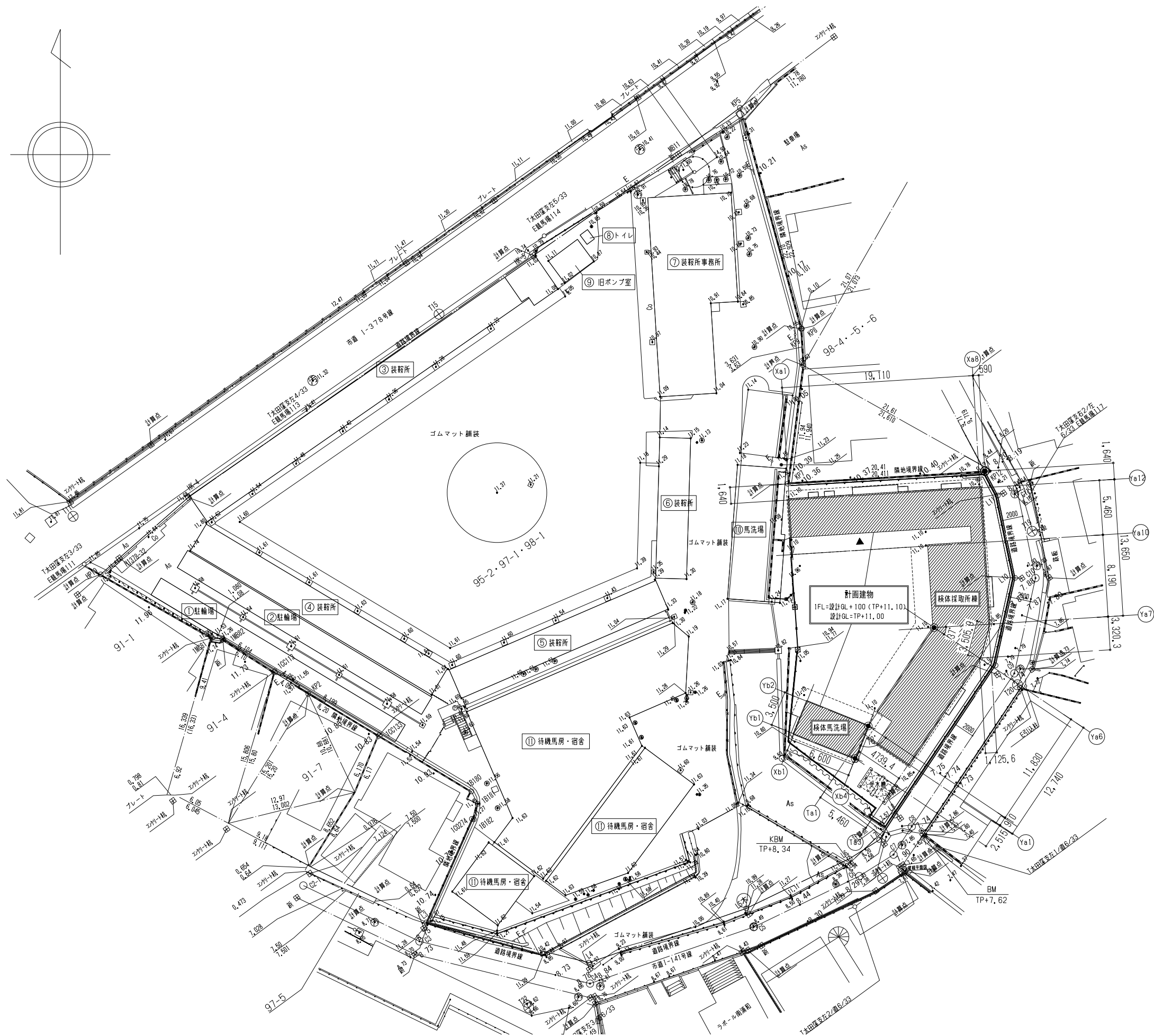
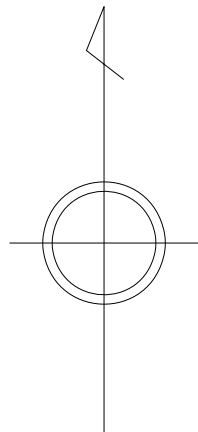
接地面積: 223.210 ㎡
接地長さ: 20.200 m
平均地盤面: 223.210 / 20.200 = 11.050 m

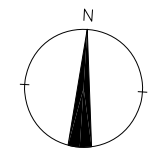
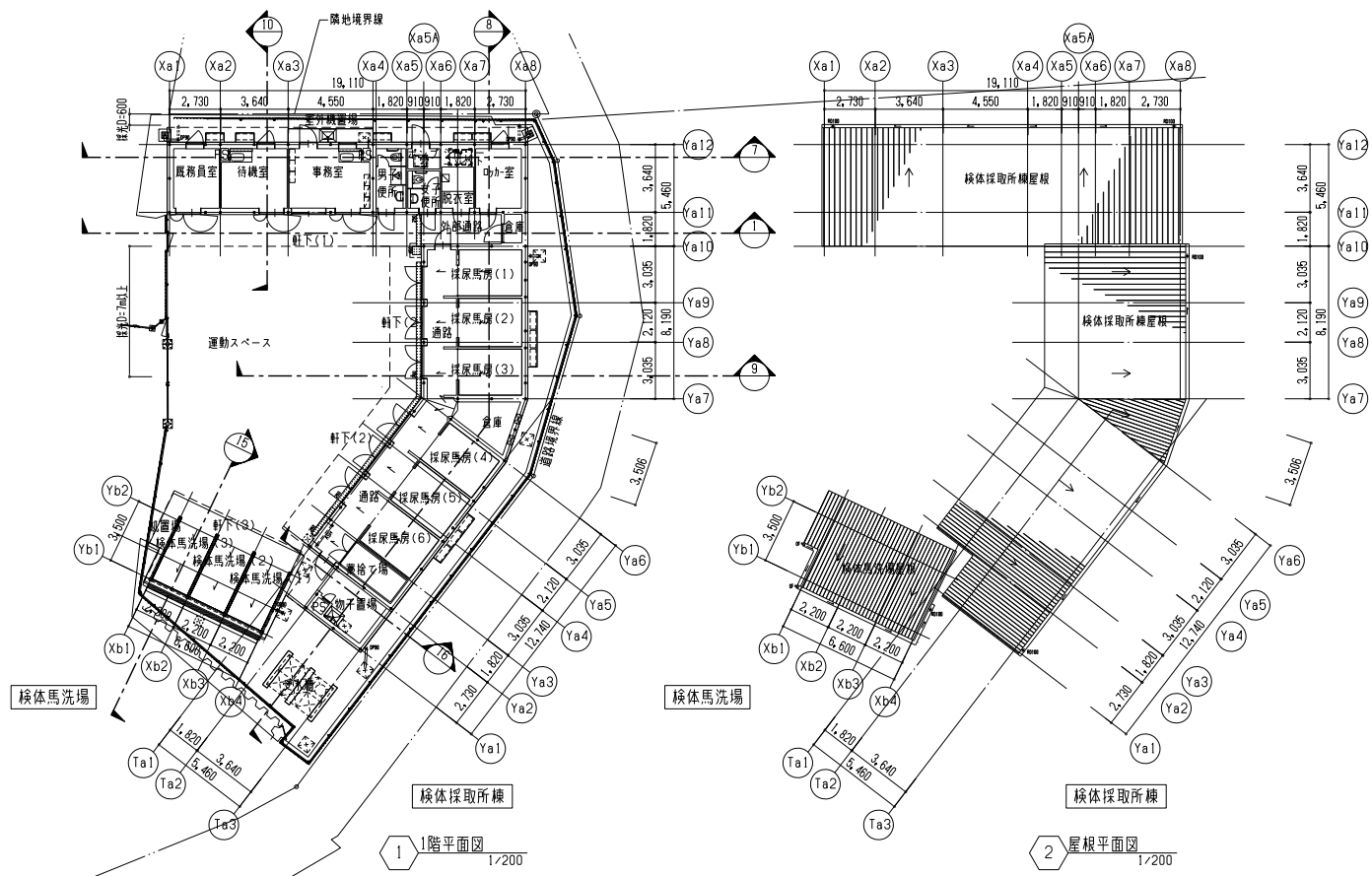
平均地盤面 (計画建物) TP + 11.05 m
※小数点第3位以下は四捨五入

平均地盤面 (計画建物) TP + 11.05 m
※小数点第3位以下は四捨五入

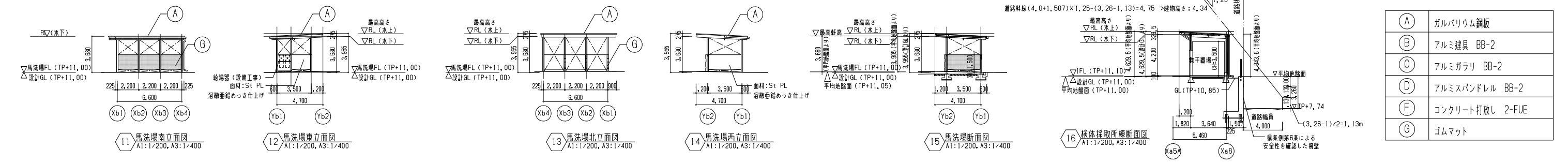
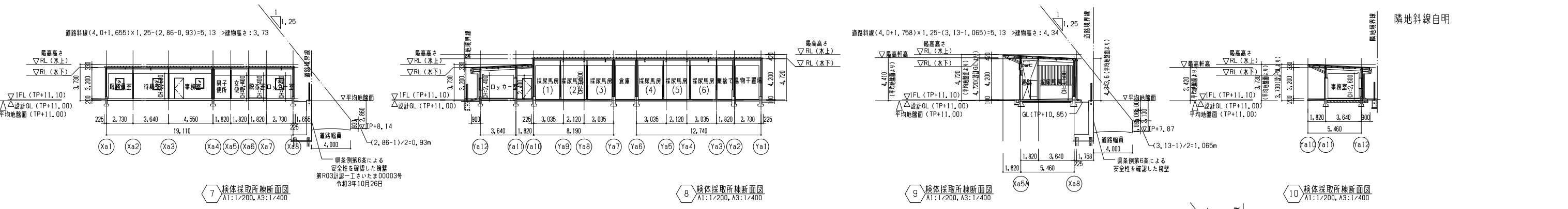
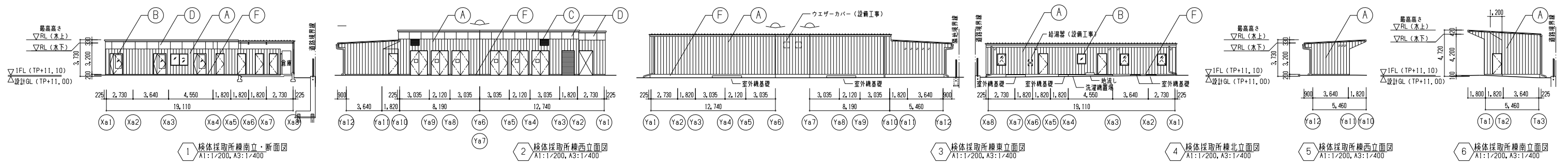


: 建築工事
 : 外構工事





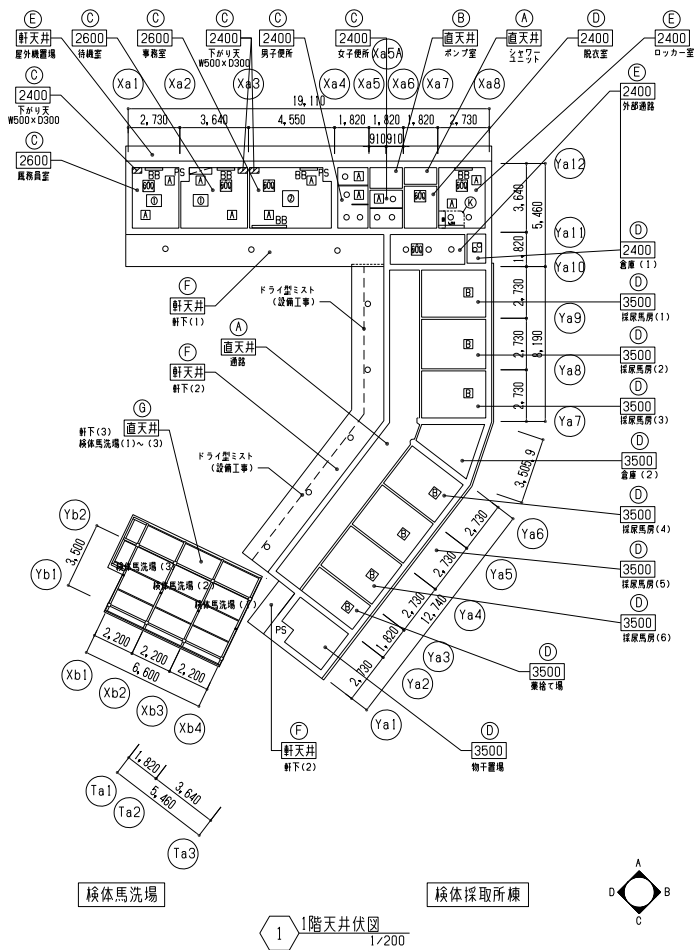
■凡例	
上段：床仕上げ高さ (FLより)	●特記なき限り±0
下段：下地コンクリート天端高さ (FLより)	○特記なき限り
壁ホース線	●特記なき限り450角
外扉上レベル (干渉表示)	
ASH	アルミシャッター ●特記なき限りによる
排水側溝蓋 (特殊ゴム成形蓋)	●特記なき限りW200
排水側溝 (SUSグレーチング蓋付)	●特記なき限りW200
排水側溝 (特殊耐候性ゴム製)	●特記なき限りW200
雨水 第一側溝 (鋼製グレーチング製)	●特記なき限り
ルーフトレイン (RD) (壁型)	●特記なき限り100φ ●特記する場合の例 RD125φ
壁樋 (DP)	●特記なき限り90φ ●特記する場合の例 DP125φ
水抜きパイプ (オーバーフロー管)	●特記なき限り 50φ L=150
→ または → (水下) 水勾配	
雨水側溝	●特記なき限り600φ
●	●特記なき限りによる
●	●特記なき限りによる



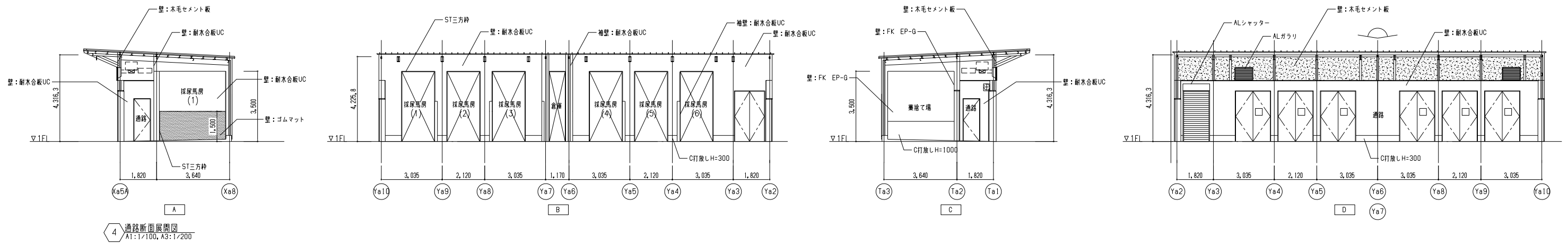
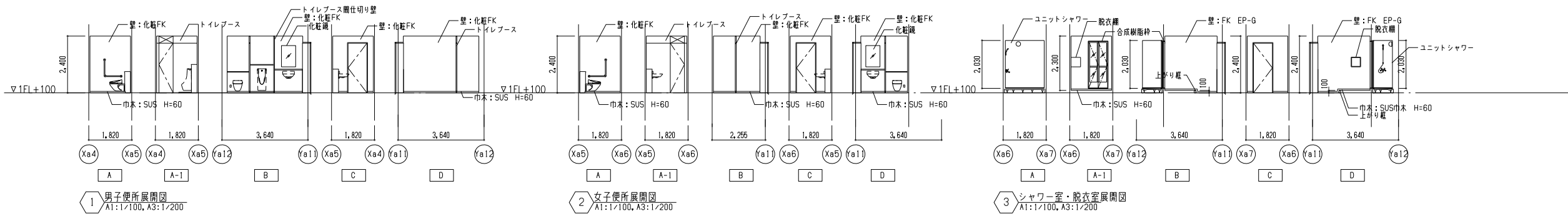
隣地斜線自明

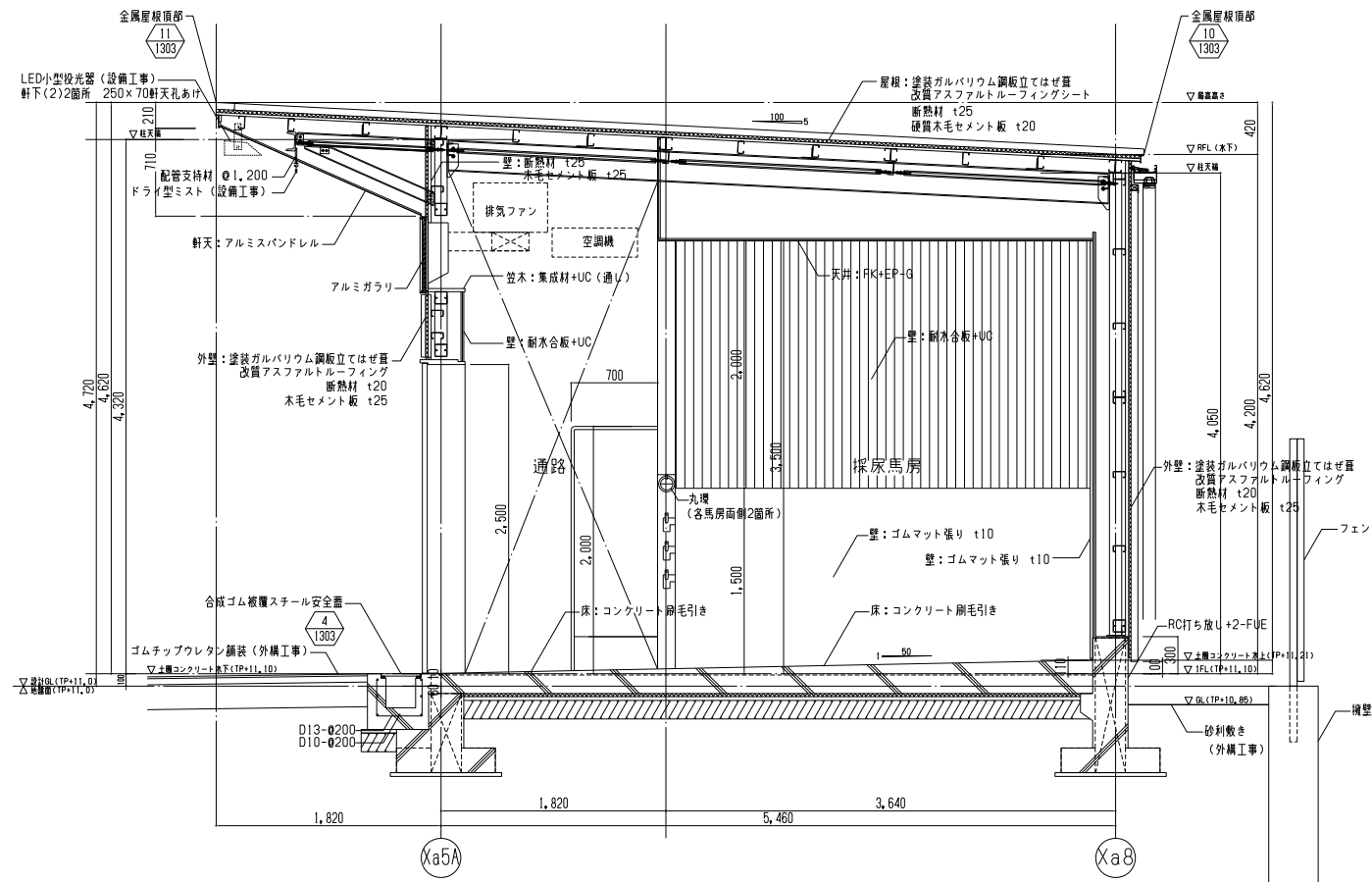
外部仕上凡例

(A)	ガルバリウム鋼板
(B)	アルミ建具 BB-2
(C)	アルミガラリ BB-2
(D)	アルミスバンドレル BB-2
(F)	コンクリート打放し 2-FUE
(G)	ゴムマット

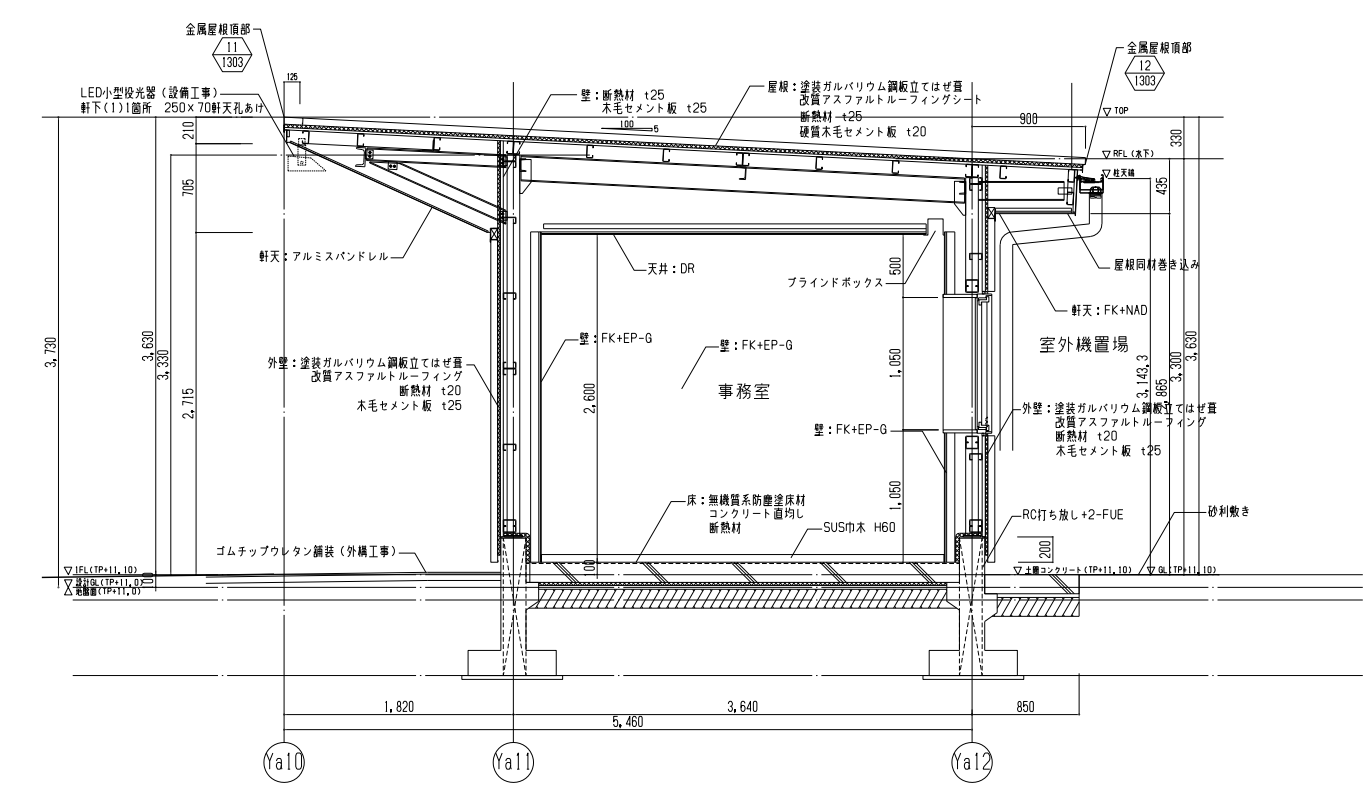


記号	内容	記号	内容
①	緑色木毛セメント板120	□	アラインドボックス・黒鉄材・125 UC
②	GW-B / GC 125	▨	下がり天井
③	CB-R+DR12	○	カーテンレール
④	FK 16 V目地 (塗装)	□	吊戸網
⑤	GB-S9.5+FK6 NAD	□	天井点検口 枠タイア6000 (天井仕上材料)
⑥	アルミインドルームBB-2	□	制気口 2000
⑦	建築用アルワム調板	□	制気口 3500
		□	掃気扇 (掃気) 1800
		□	PAC 780×620
		□	PAC 840×840
		○	照明器具 グランライト 150φ・非常照明 150φ

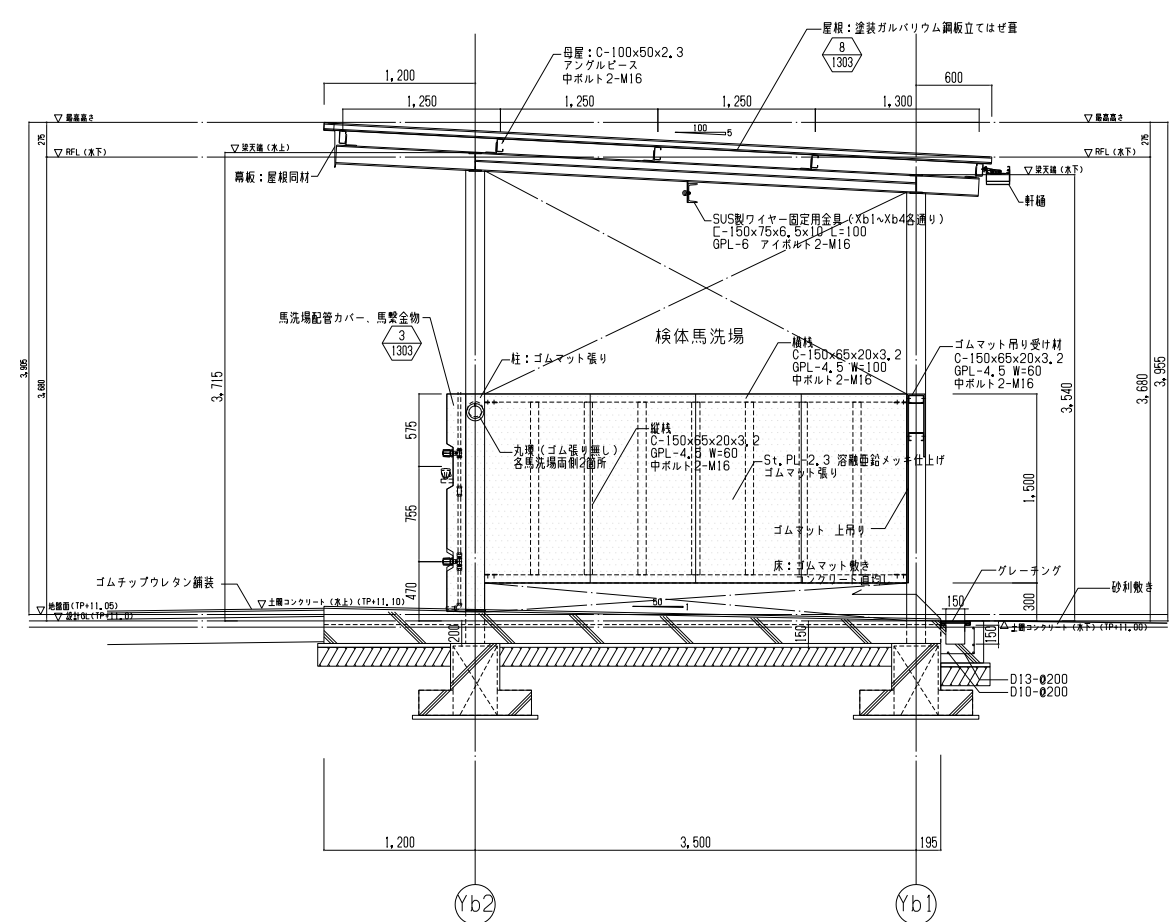




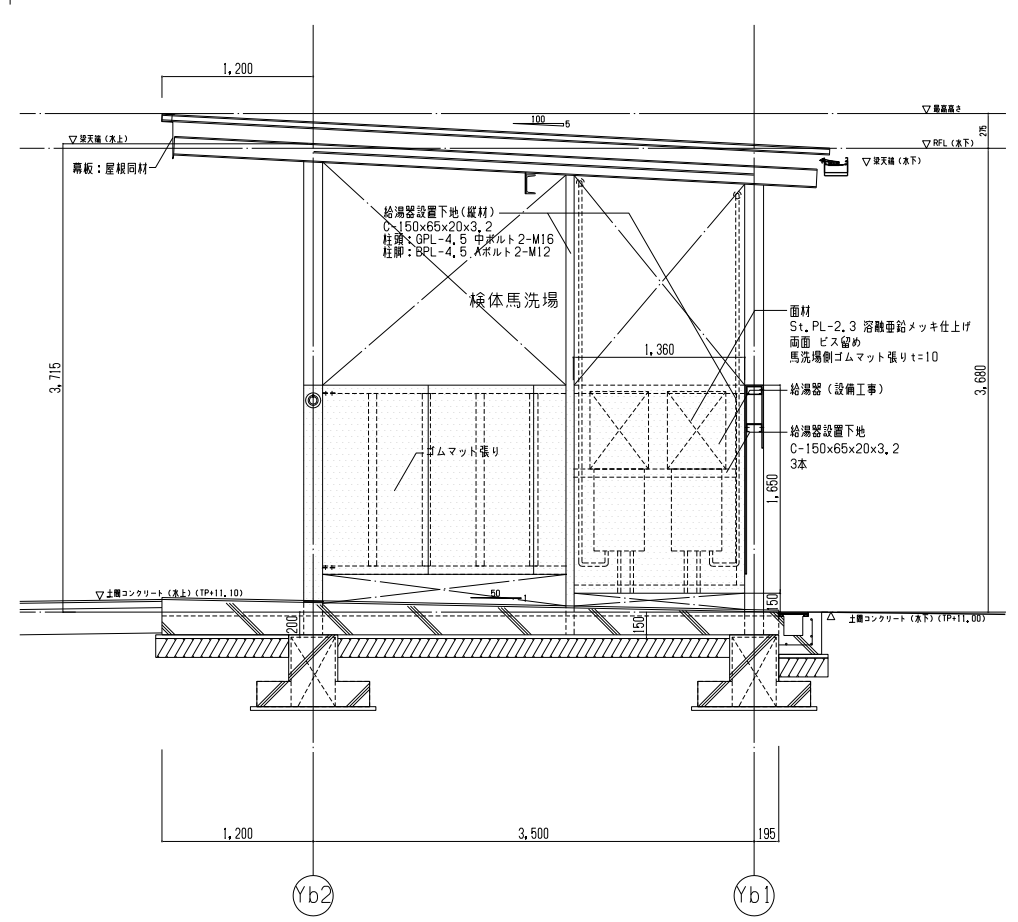
1 検体採取所検体馬房断面図
A1:1/30, A3:1/60



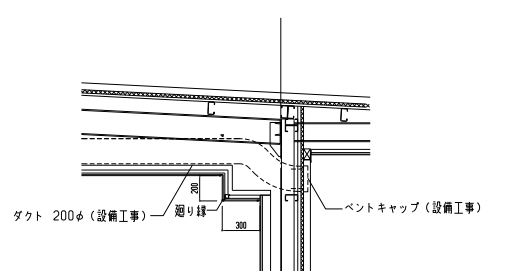
2 検体採取所検体事務室断面図
A1:1/30, A3:1/60



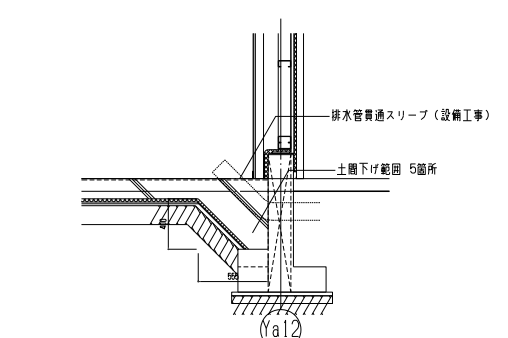
5 検体馬洗場断面図
A1:1/30, A3:1/60



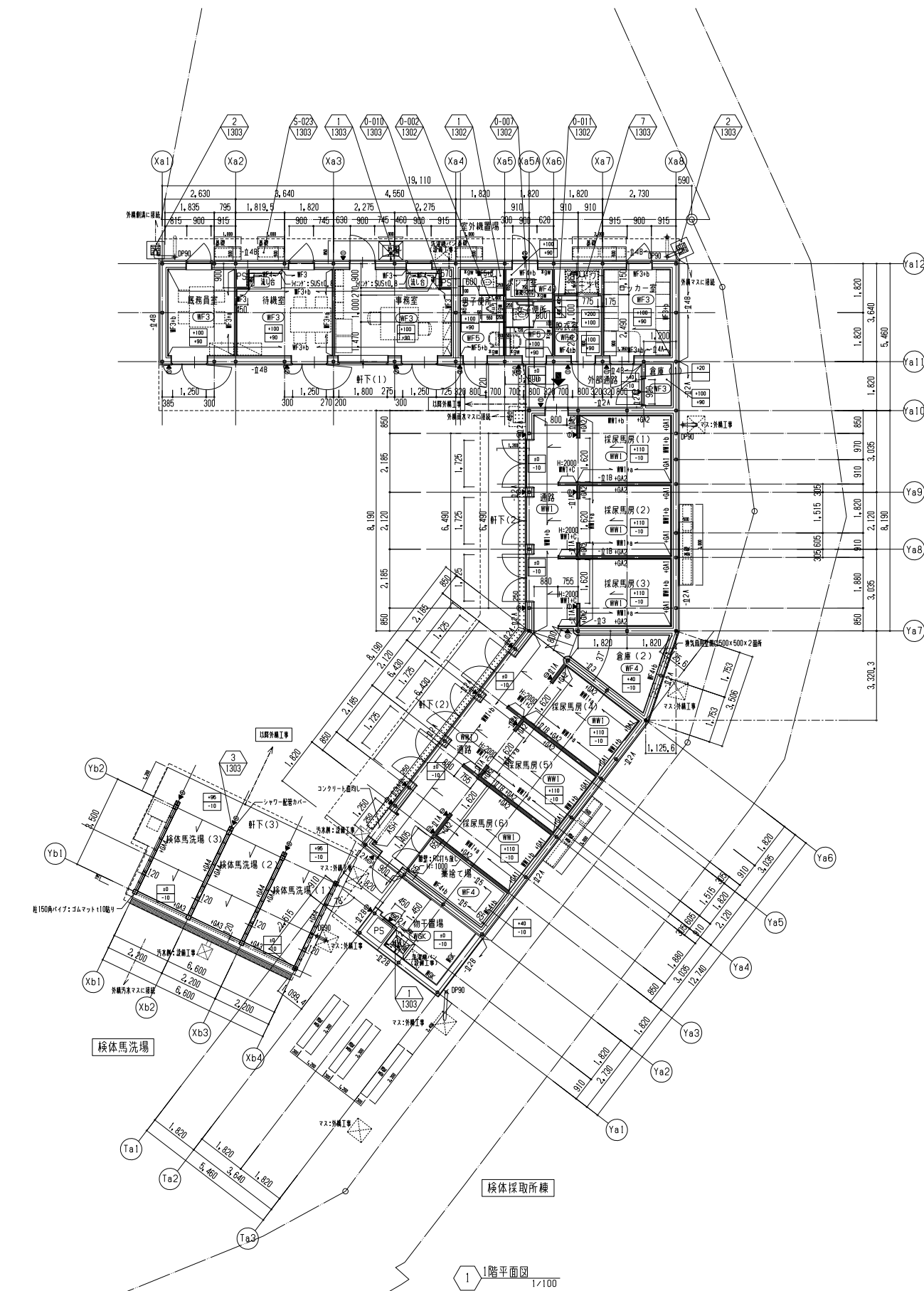
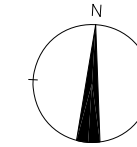
6 検体馬洗場Xb4通り
A1:1/30, A3:1/60



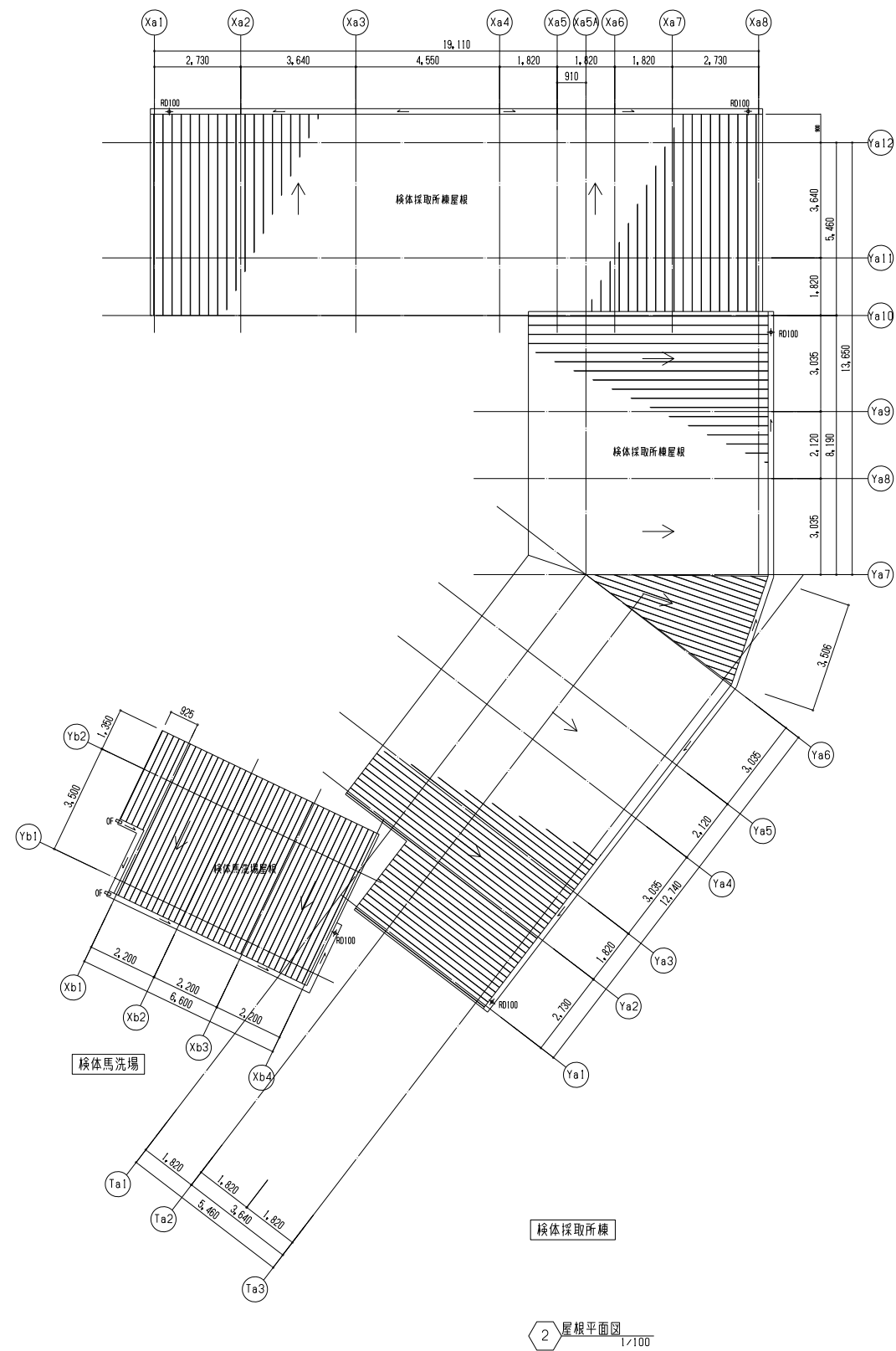
3 検体採取所検体ダクト接続部断面図
A1:1/30, A3:1/60



4 検体採取所検体排水管貫通部断面図
A1:1/30, A3:1/60



1 1階平面図 1/100



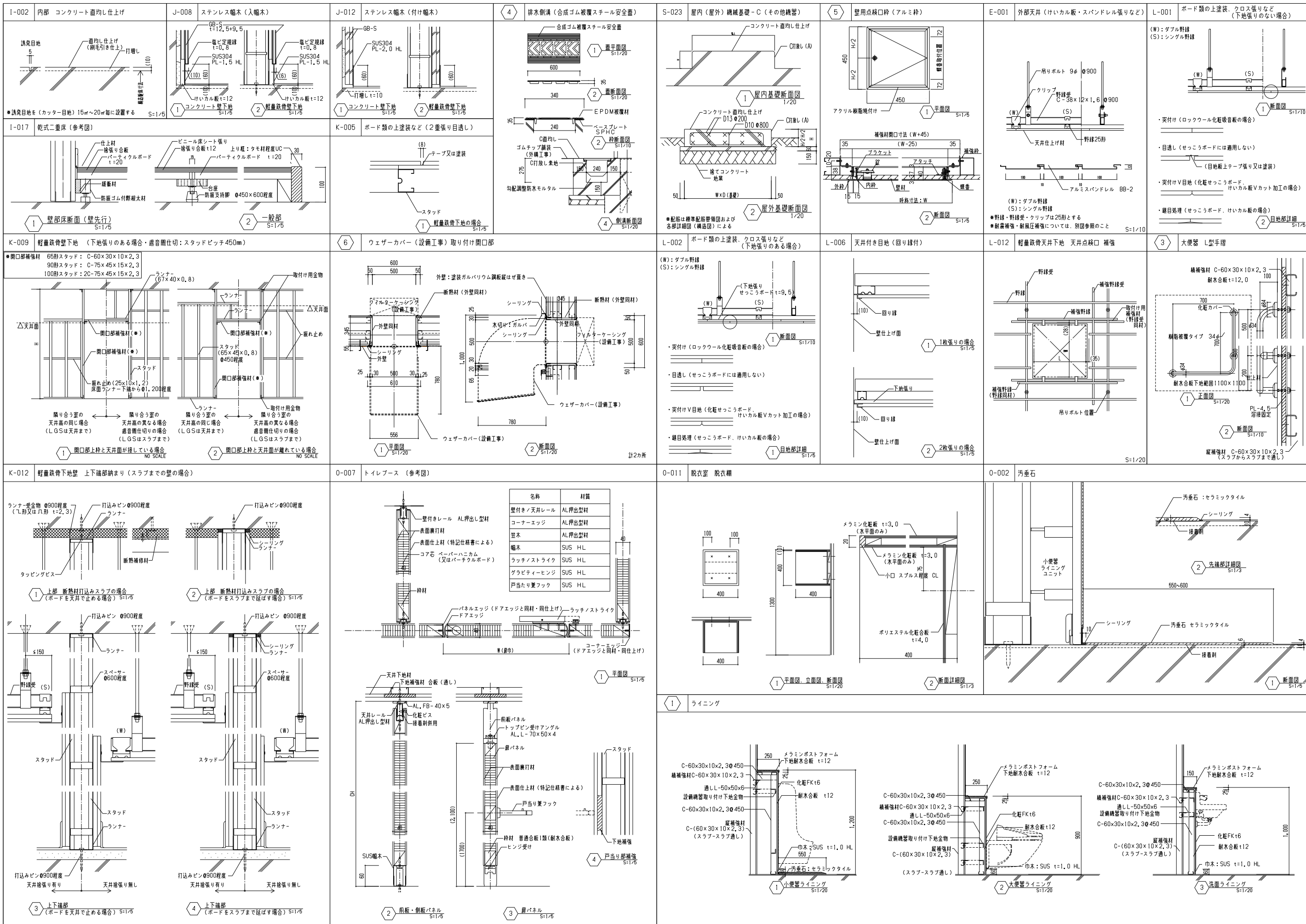
2 屋根平面図 1/100

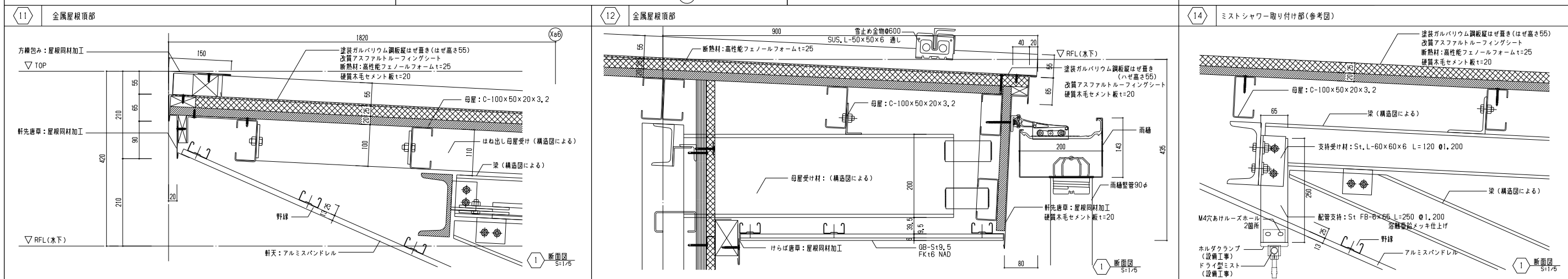
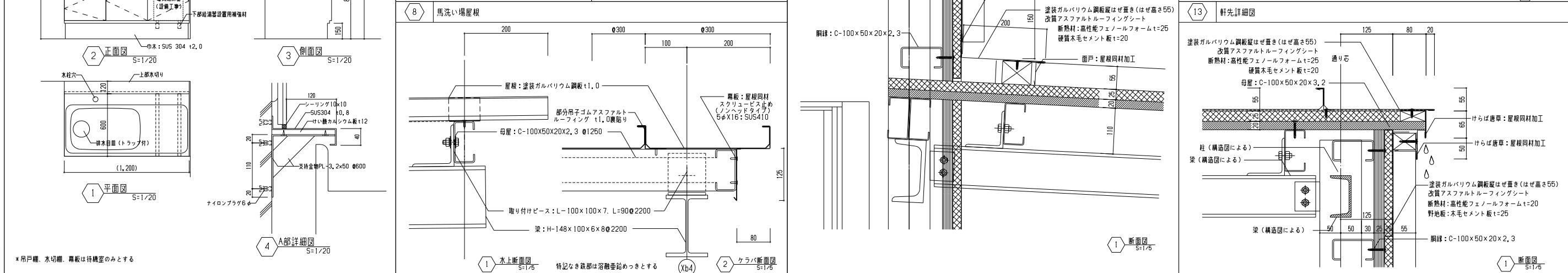
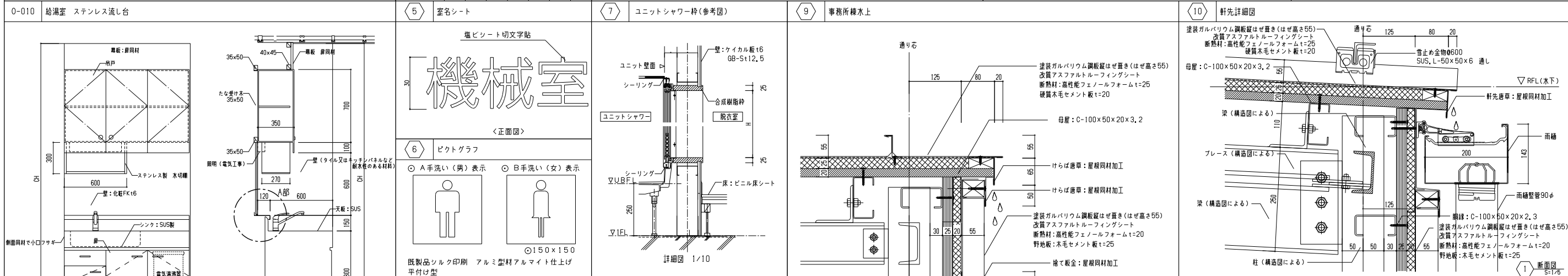
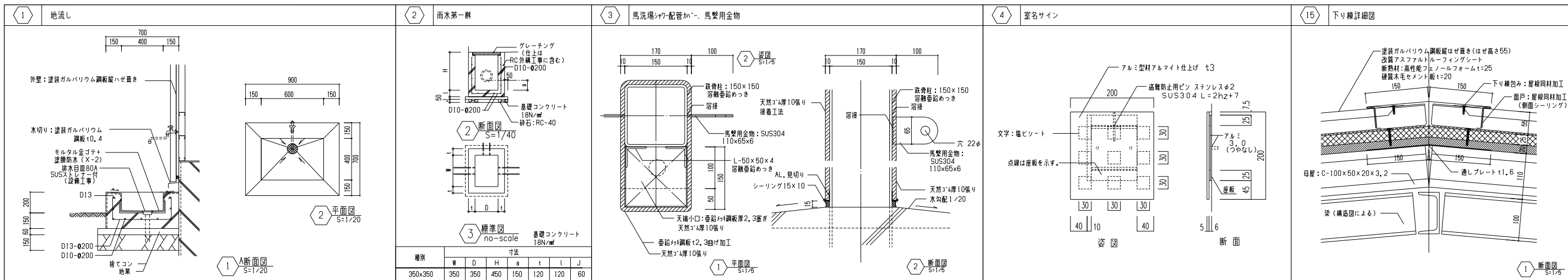
■凡例	
上段: 床仕上げ高さ (FLより) *特記なき限り±0	
下段: 下地コンクリート天盤高さ (FLより)	
*特記なき限り	とする
壁ボード点検口	*特記なき限り450角
外構仕上げレベル (T.P表示)	
ALH	アルミシャッター *性能は仕様による
排水側溝蓋 (特殊ゴム成形蓋)	
W200	*建築工事 (数字はW付法) *特記なき限りW200
排水側溝 (SUSグレーチング蓋付)	
W200	*建築工事 (数字はW付法) *特記なき限りW200
排水側溝 (特殊耐候性ゴム製)	
排水側溝蓋	
雨水 第一群蓋 (鋼製グレーチング製)	
雨水側溝蓋	
ルーフトレイン (RD) (壁型)	
RD	*特記なき限り100φ *特記する場合の例 RD125φ
壁樋 (DP)	
DP	*特記なき限り90φ *特記する場合の例 DP125φ
水抜きパイプ (オーバーフロー管)	
OF	*特記なき限り50φ L=150
→ または → (※) 水勾配	
雨水側溝蓋	
雨水側溝蓋	
*特記なき限り600φ	
*蓋の仕様は、特記仕様による	
*建築基準に付随する第一群および第二群の建築工事	

■凡例 (サイン)	
①	室名サイン 1303 (4)
②	室名シート 1303-(5)
③	ピクトグラフ 1303-(6)

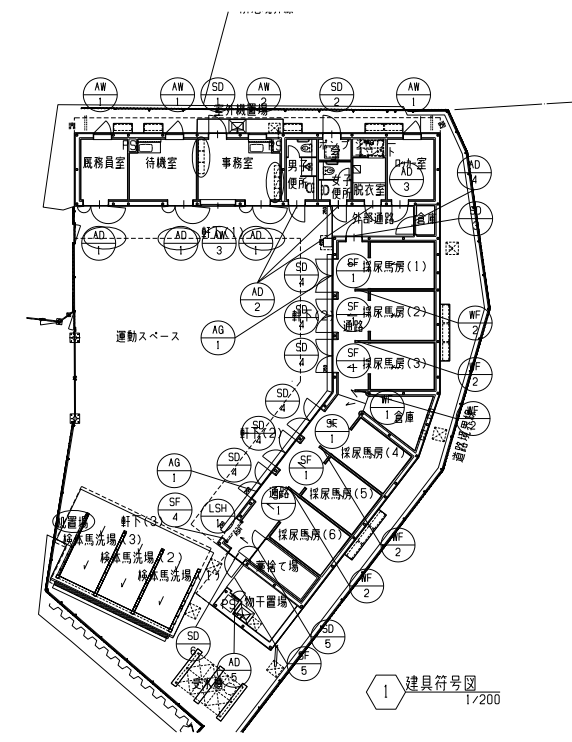
2014.12.17 Ver.2		付加記号	
間仕切壁共通事項 間仕切壁符号凡例 壁番号 (W+壁種別記号+通し番号) WG1*gw+FK8 壁種別記号 付加記号 GW充填されたWG1壁にけい酸カルシウム版を上張りした間仕切り壁 間仕切り符号は間仕切り壁符号 (平面図など) の壁に添えて記入する。 記入方法は数式と同じ考え方とする。		鋼製壁下地の標準寸法 (単位: mm) (表1) LGS壁の天井内部分のボードの有無 記号無し (構架材) までボードを延ばす 充填材 *gw グラスウール充填 立上り -立1A コンクリート立上り -立2A -立2B コンクリート立上り	
壁種別記号 Q LGSボード (性能壁) R RC A ALC E 押出成形セメント板 G セッコウボード F 壁石綿セメントけい酸カルシウム版 S 石張り ST スチールパーティション B ブロック 付加記号 ・LGS壁の天井内部分のボードの有無 (記号無し・a・b) ex, WG1a ・仕上材等追加を示す場合「+」記号で表示する (+FK8等) ex, WG1+FK8 ・立上りを示す場合「-」記号で表示する (-立1, -防1等) ・GW充填の場合*記号で表示する ex, WQ1*gw, WQ2*gw+FK8 表記方法 WG1 WF1 事務室 (WR1) (WG1)		LGSの補強 (表2) 補強例 (100形のスタッドを使用する場合) 条件: 室内で側圧125kg/m 換気率 1/150 採用有無 LGS高さ 間柱間隔 補強材 5,000以下 0450 補強不要 6,000以下 0450 ロー100×100×2,3 Ø1,800 6,000以下 0300 補強不要 7,000以下 0450 ロー100×100×2,3 Ø1,800 7,000以下 0300 [-100×50×20×2,3 Ø1,800 7,000以下 0225 補強不要	
(注) ・間仕切壁符号では、躯体・下地・仕上を含めた壁の種類を示す。 ・スタッドの高さが5.0mを超える場合は表2を参照すること。 ・耐火壁の耐火シール材及び遮音壁のシール材はメーカーの指定仕様とする。 ・性能壁とは耐火壁、遮音壁を示す。		a ボードを延ばさない b LGSを天井面と定める c LGSボード共H2000と定める	

付加記号			付加記号 (仕上材など)		
立上り -立3 コンクリート立上り -立4A コンクリート立上り -立2 コンクリート立上り -立5 コンクリート立上り			壁番号 (非性能壁) WF3 GB+FK (下地ボードGB-Rの場合) WF4 GB+FK (下地ボードGB-Sの場合)		
立上り -立3 コンクリート立上り -立4A コンクリート立上り -立2 コンクリート立上り -立5 コンクリート立上り			WF3 GB+FK (下地ボードGB-Rの場合) WF4 GB+FK (下地ボードGB-Sの場合)		
立上り -立3 コンクリート立上り -立4A コンクリート立上り -立2 コンクリート立上り -立5 コンクリート立上り			WW1 耐水合板壁 WGK 塗装ガルバリウム鋼板壁		
立上り -立3 コンクリート立上り -立4A コンクリート立上り -立2 コンクリート立上り -立5 コンクリート立上り			+GA1 ゴムマット張り t10 (H=3500) +GA2 ゴムマット張り t10 (H=1500) +GA3 ゴムマット張り t10 (H=1500) +GA4 ゴムマット張り t10+StPL (H=1500)		

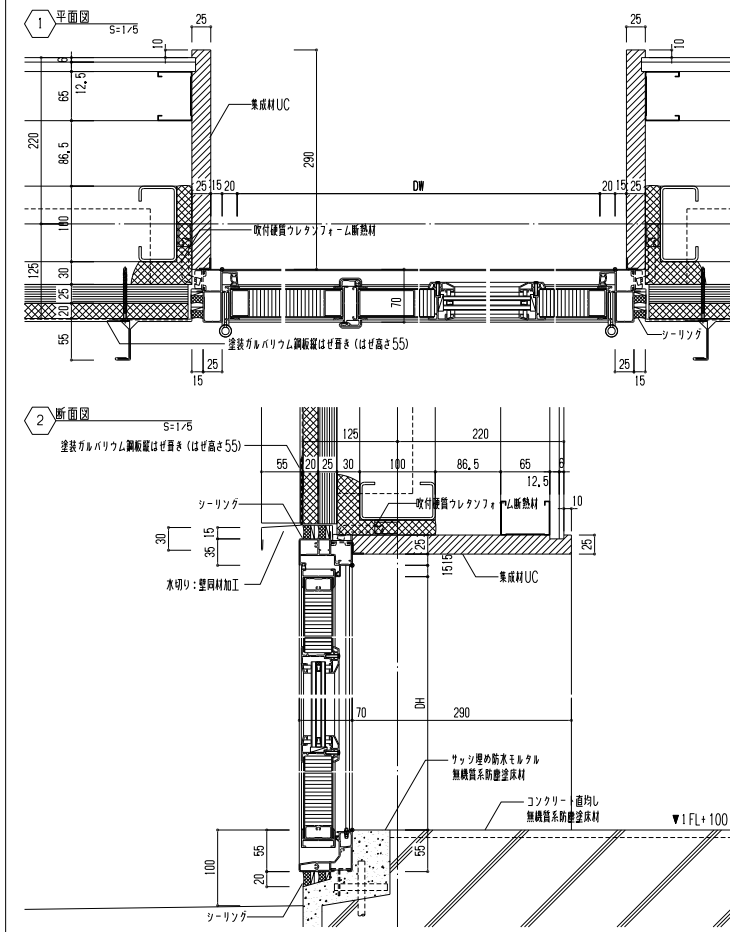




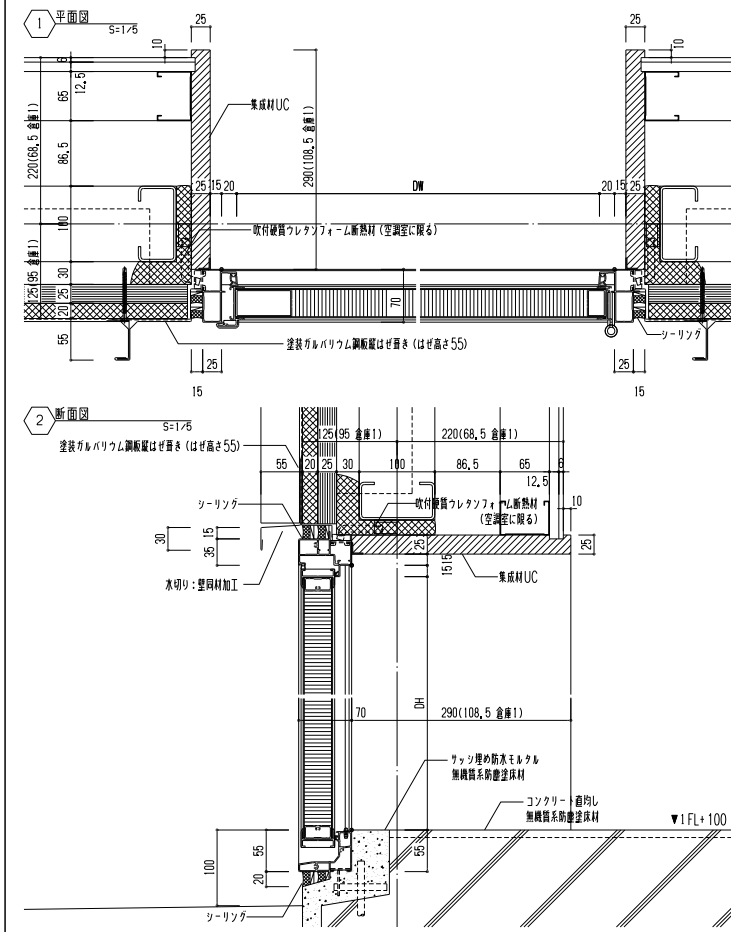
建具符号	名称	性能記号	数量	AW1	縦すべり出し窓	防外	3	AW2	FIX窓	防外	1	AW3	外動片引き窓	-	1	AD1	親子開戸	SAT	3	AD2	片開戸	-	3	AD3	片開戸	SAT	1	AD4	片開戸	SAT	1	AD5	片開戸	SAT	1								
窓																																											
取付場所				既務員室、待機室、ロッカー室				事務室				事務室				既務員室、待機室、事務室				男子便所、女子便所、脱衣室				ロッカー室				倉庫(1)				PS											
仕様				A, 70, AL, BB-2				A, 70, AL, BB-2				A, 70, AL, BB-2				A, 70, AL, BB-2				A, 70, AL, BB-2				A, 70, AL, BB-2				A, 70, AL, BB-2				A, 70, AL, BB-2											
ガラス				PG				PG				PG				PG				FG6				PG				I型, AL, BB-2				I型, AL, BB-2				I型, AL, BB-2							
ハンドレ				カムラッチ				-				-				-				-				-				-				-				-				-			
その他				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式							
備考				PW6, 8-A6-FL6, 内開き網戸				PW6, 8-A6-FL6				FL5-A6-FL6, 網戸				FL5-A6-FL6				ガラス必要有効面積 男子便所・脱衣室0.021㎡ 女子便所0.013㎡				付属金物一式				付属金物一式				ガラス必要有効面積 0.006㎡				付属金物一式							
建具符号	名称	性能記号	数量	AG1	がらり	-	2	LSH1	手動式軽量シャッター	-	1	SD1	片開戸	防外	SAT	1	SD2	片開戸	防外	1	SD3	片開戸	-	1	SD4	両開き戸	-	6	SD5	両開き戸	-	1											
窓																																											
取付場所				通路				通路				事務室				ポンプ室				通路				通路				養捨て場															
仕様				A, 70, AL, BB-2				ガイドレール: AL押出形材, BB-2				A, 128, ST, 2-FUE				A, 365, ST, 2-FUE				A, 330, ST, 2-FUE				A, 330, ST, 2-FUE				A, 330, ST, 2-FUE															
ガラス				I型, AL, BB-2				-				-				-				-				-				-				-											
ハンドレ				-				-				-				-				-				-				-				-				-							
その他				付属金物一式、相フランジ				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式、扉閉鎖順位調整器、覗き窓				付属金物一式															
備考				ガラス必要有効面積 0.15㎡				-				-				防火可動ガラス温度ヒューズ付、ガラス必要有効面積 0.007㎡				-				-				-															
建具符号	名称	性能記号	数量	SD6	片開戸	-	1	SF1	三方枠	-	6	SF2	一方枠	-	4	SF3	一方枠	-	1																								
窓																																											
取付場所				通路				採尿馬房(1)~(6)				通路				通路				通路				通路																			
仕様				A, 330, ST, 2-FUE				G, 145, ST, 2-UE				H, 133, ST, 2-UE				H, 133, ST, 2-UE				H, 133, ST, 2-UE				H, 133, ST, 2-UE																			
ガラス				-				-				-				-				-				-				-															
ハンドレ				-				-				-				-				-				-				-															
その他				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式				付属金物一式																			
備考				-				馬鞍乗取付枠: C-145x50x20x3, 2 馬鞍棒: STφ48, 6x2, 3 先端片削ST30角x2, 3 L-50 溶融亜鉛メッキ仕上げ 丸棒: SUS ベースPL: ST t6 採尿馬房側 馬鞍乗取付枠 ST PLカバー (3ヶ所) 穴あけ加工 (3ヶ所)				-				-				-				-																			
建具符号	名称	性能記号	数量	SF4	三方枠	-	1	SF5	三方枠	-	1	WF1	三方枠	-	1	WF2	二方枠	-	5																								
窓																																											
取付場所				通路				物干置場				倉庫(2)				通路				通路																							
仕様				G, 330, ST, 2-UE				G, 360, ST, 2-UE				G, 123, W, UC				G, 137, W, UC				G, 137, W, UC																							
ガラス				-				-				-				-				-																							
ハンドレ				-				-				-				-				-																							
その他				-				-				-				-				-																							
備考				-				-				-				-				-																							



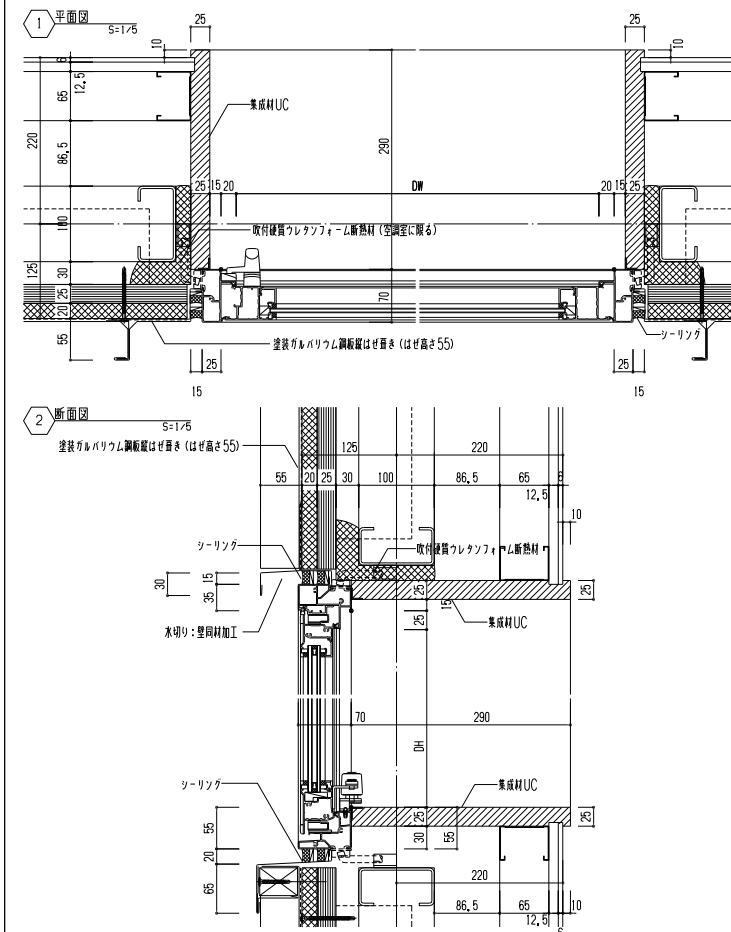
1 馬務員室・待機室・事務室 AWフラッシュ親子扉 AD 1 S=1/5



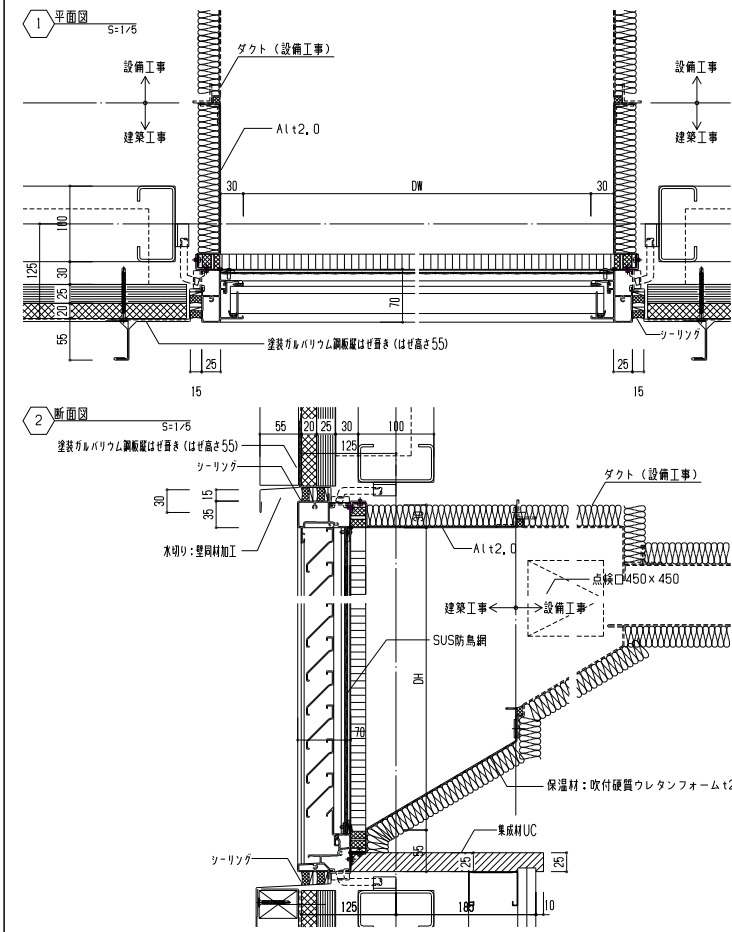
2 便所・シャワー室・ロッカー室・倉庫1 AWフラッシュ親子扉 AD 2 AD 3 AD 4 S=1/5



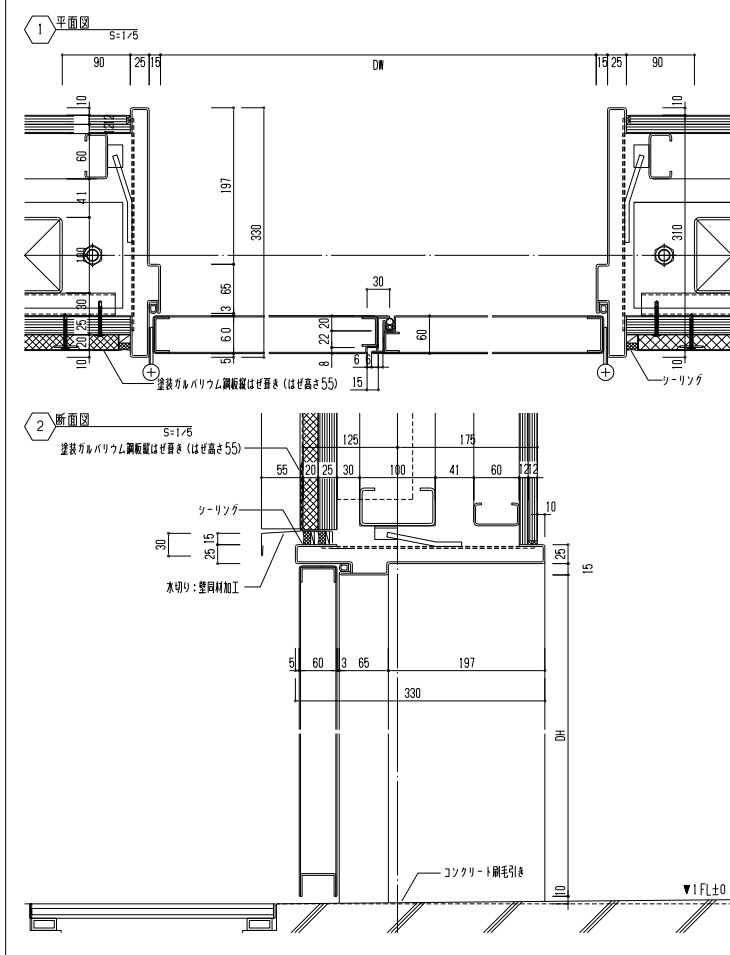
3 AWたてすべり出し窓・引違い窓・FIX窓 AW 1 AW 2 AW 3 S=1/5



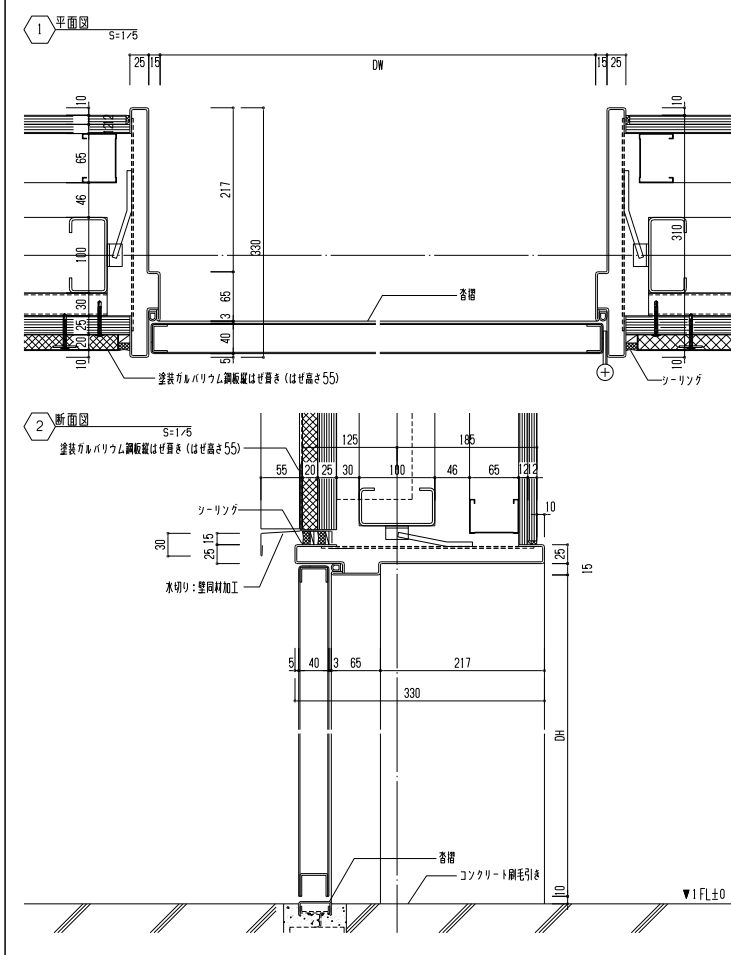
4 馬房通路 AWガラリ AG 1 S=1/5



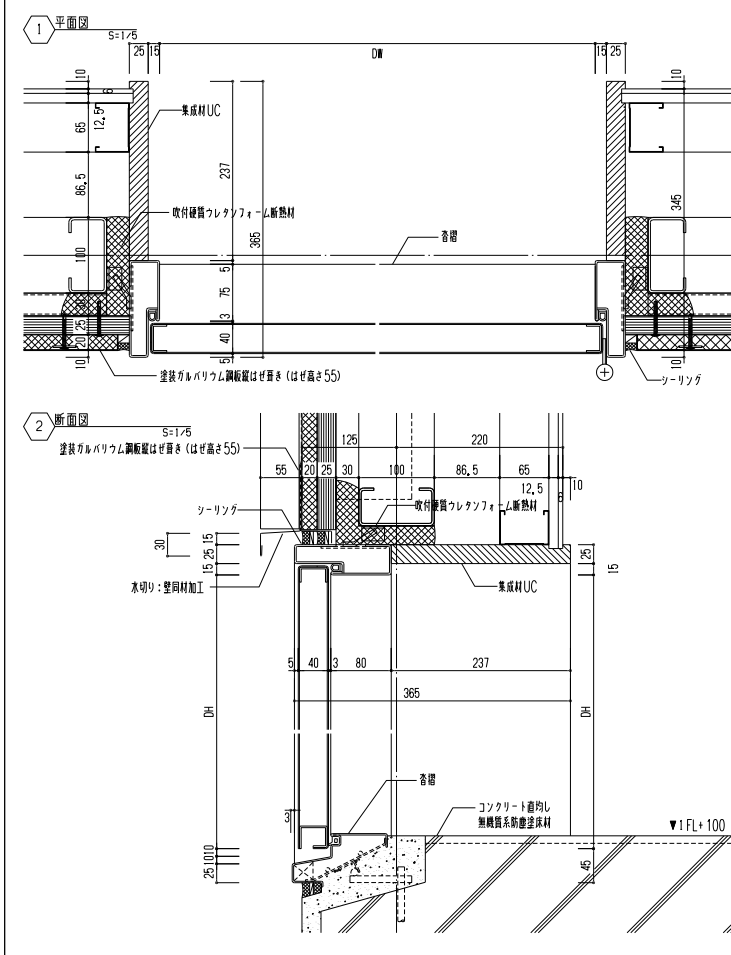
5 馬房通路 SD両開き扉 SD 4 S=1/5



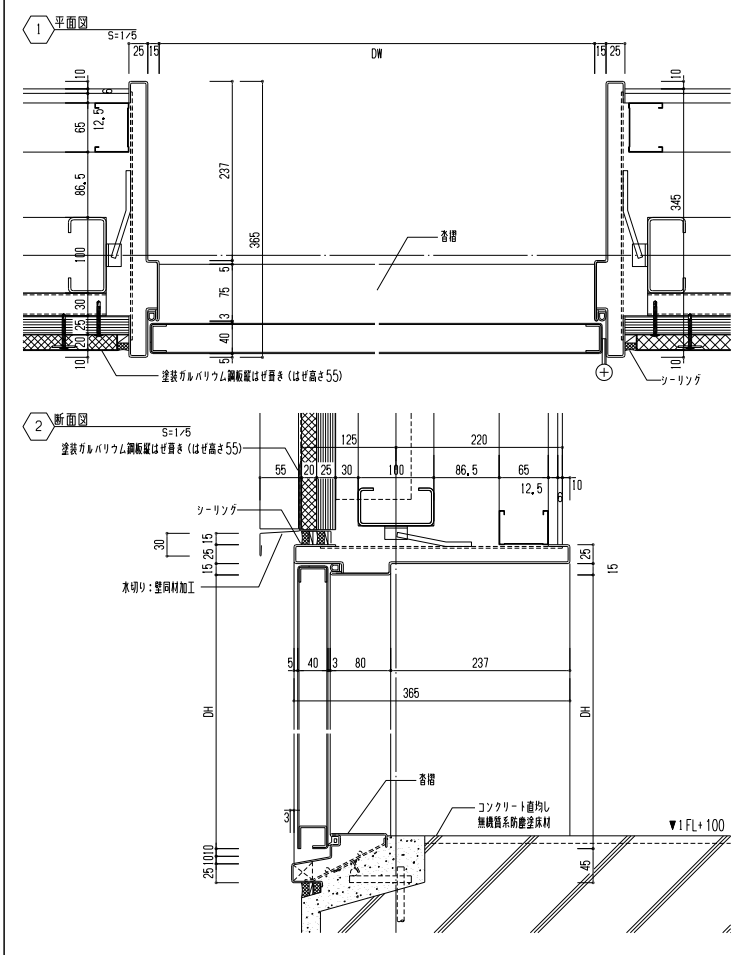
6 馬房通路 SD片開き扉 SD 3 SD 6 S=1/5

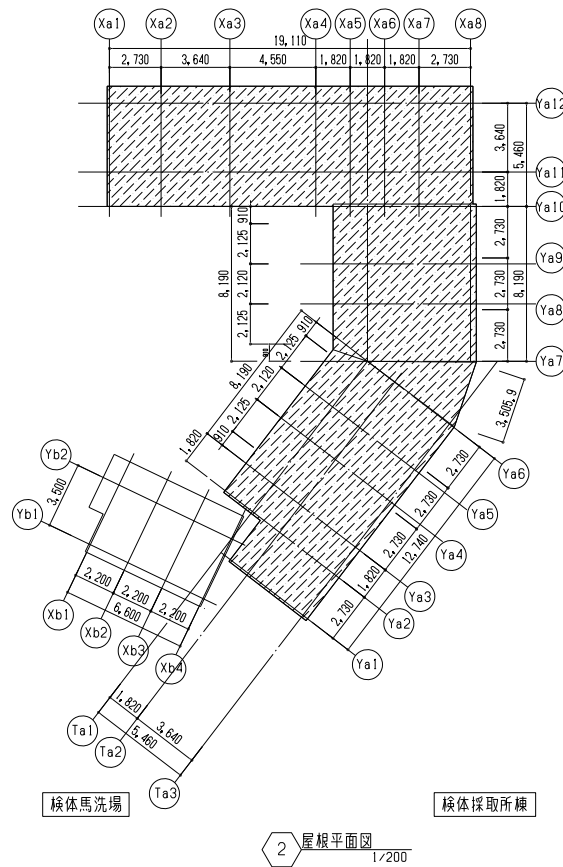
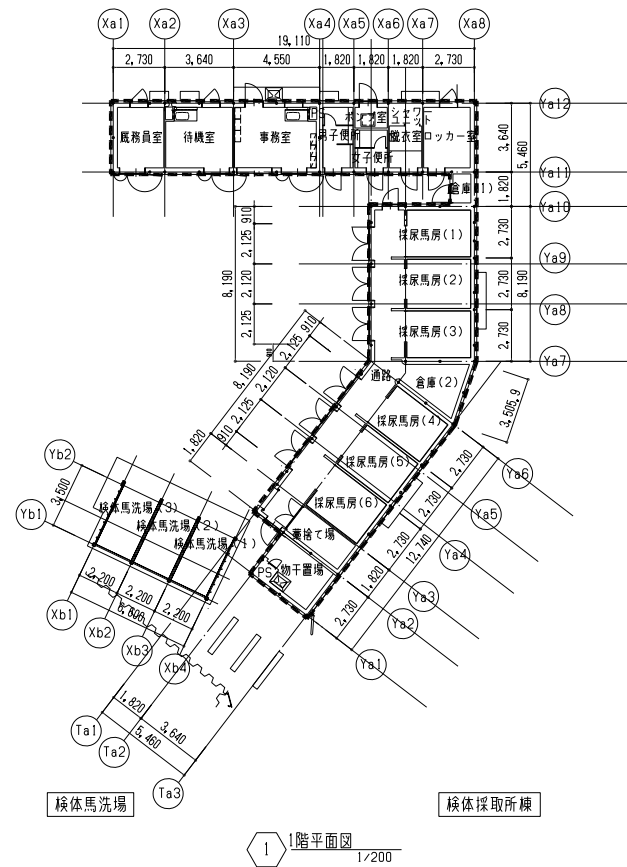


7 事務室 SD片開き扉 SD 1 S=1/5



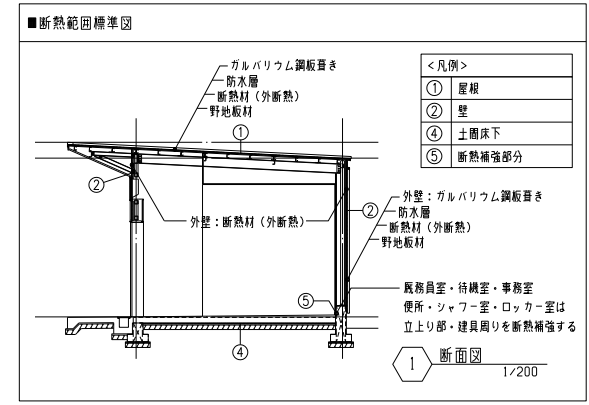
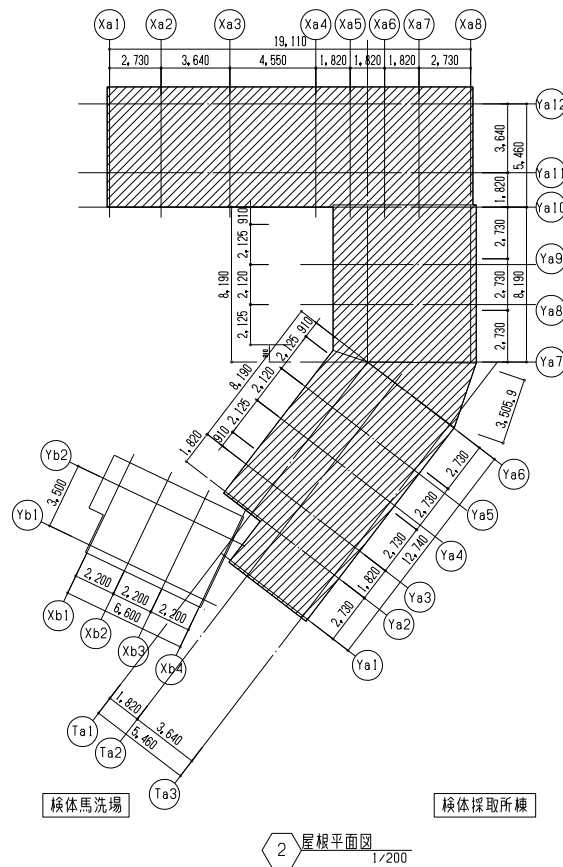
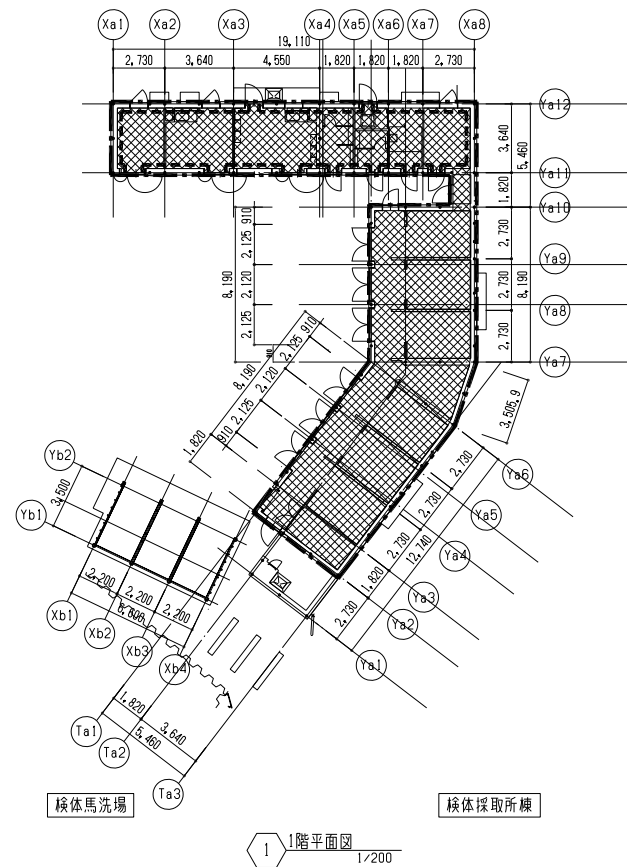
8 ポンプ室 SD片開き扉 SD 2 S=1/5





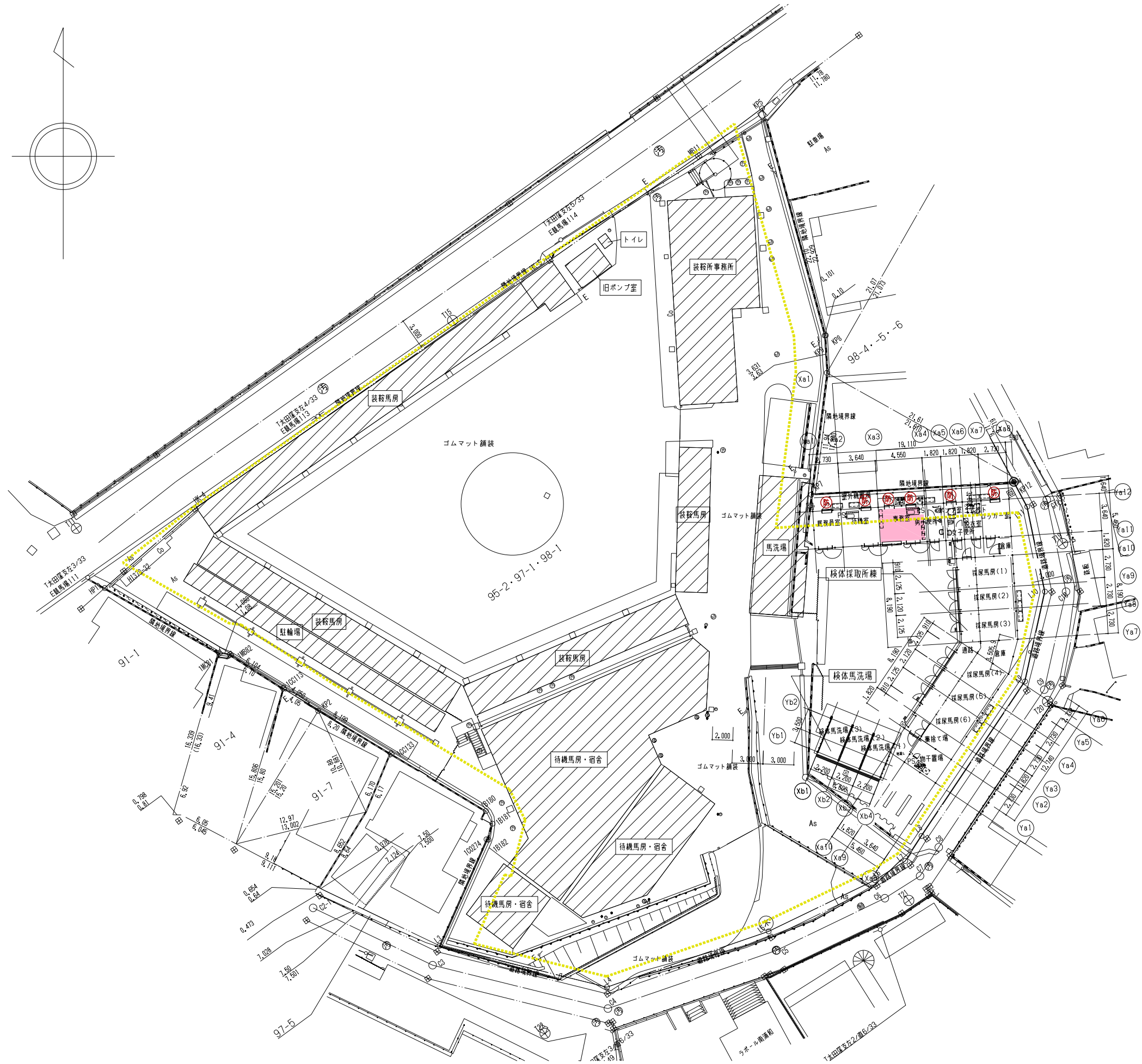
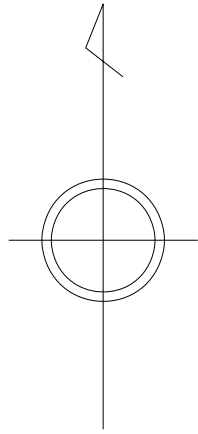
■凡例

	改質アスファルトルーフィング (外断熱 見下げ)
	改質アスファルトルーフィング (外断熱 壁)



■凡例

地域区分 5・6	高性能 フェノール フォーム 断熱材	押出法 ポリスチレン フォーム 断熱材 (XPS3bA)	吹付硬質 ウレタン フォーム 断熱材 (NF1)
	外断熱 (見下げ)	外断熱壁	外断熱 (見下げ)
① 屋根	25	-	-
② 壁	-	20	-
④ 土間床下	-	-	25
⑤ 断熱補強部分	-	-	25

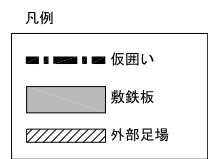
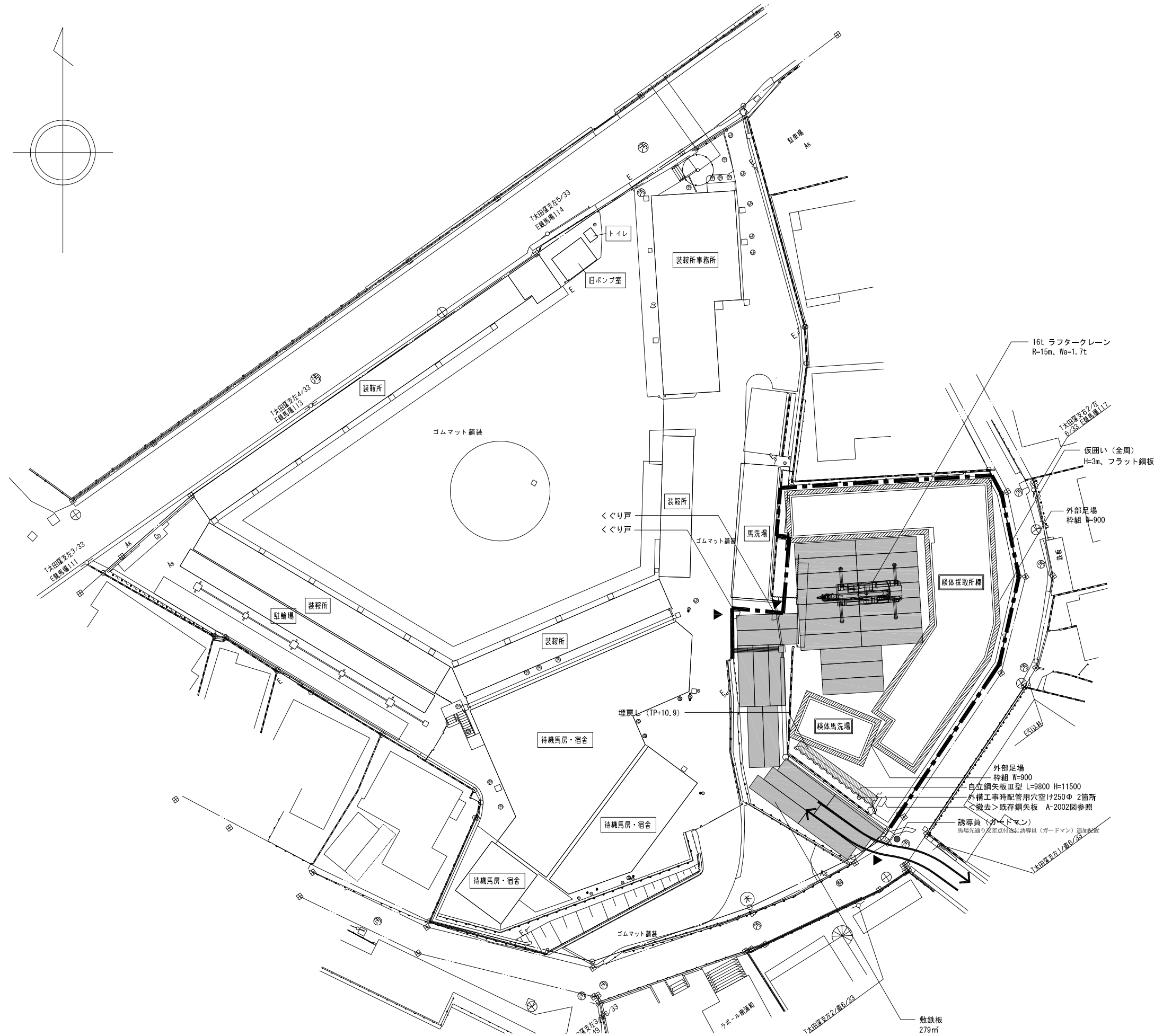
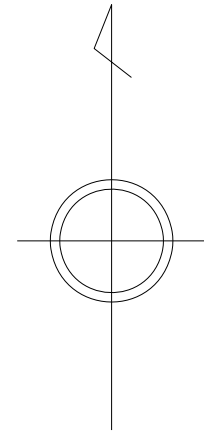


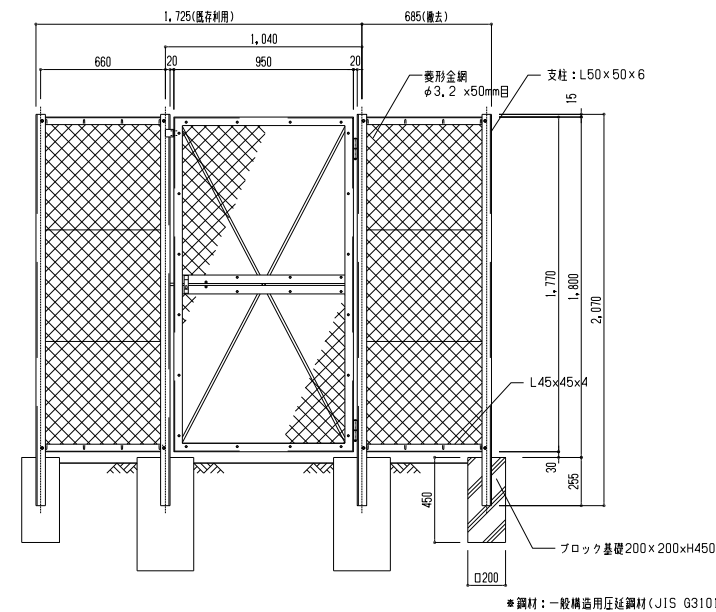
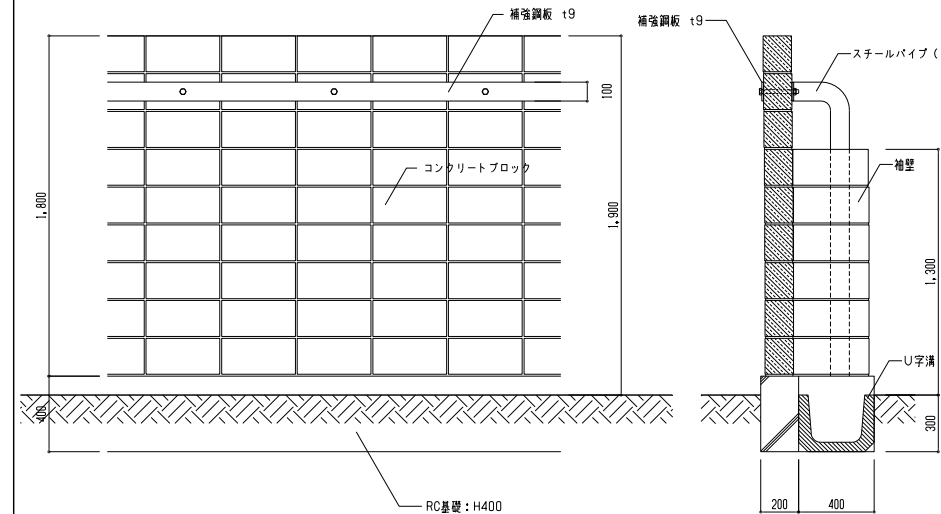
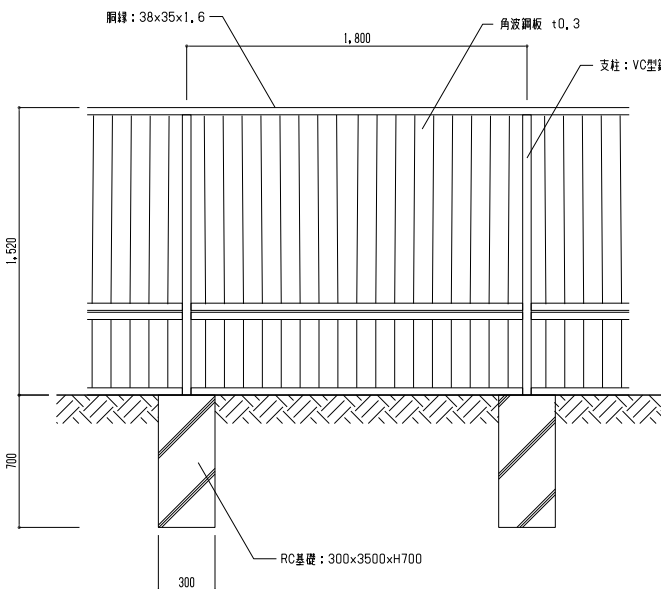
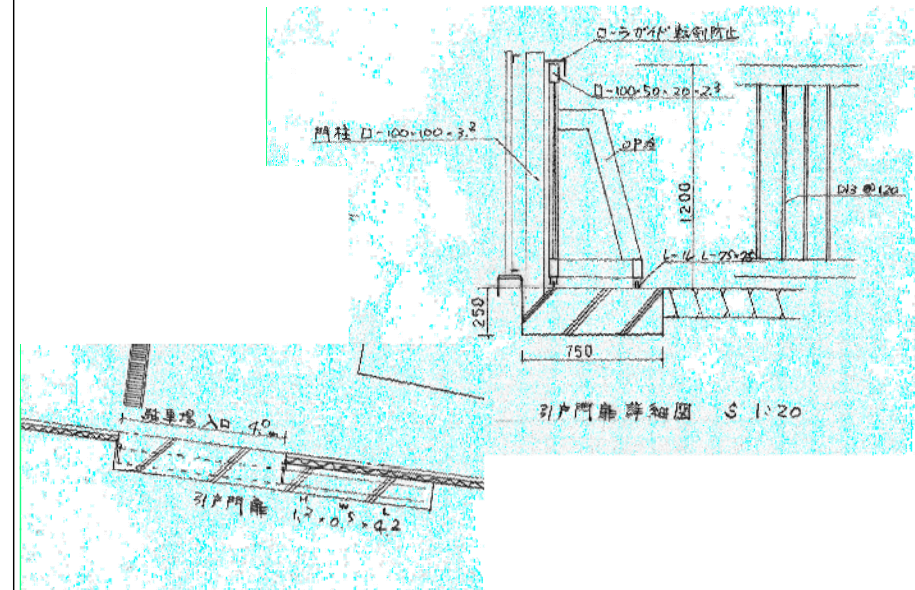
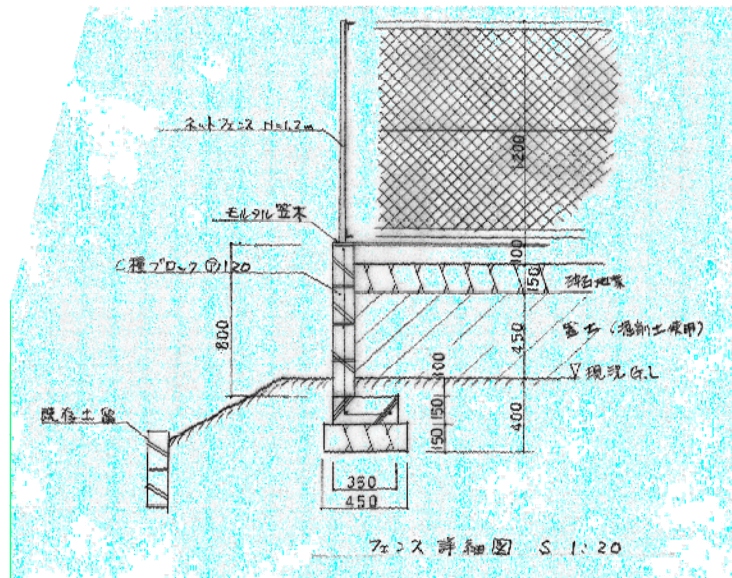
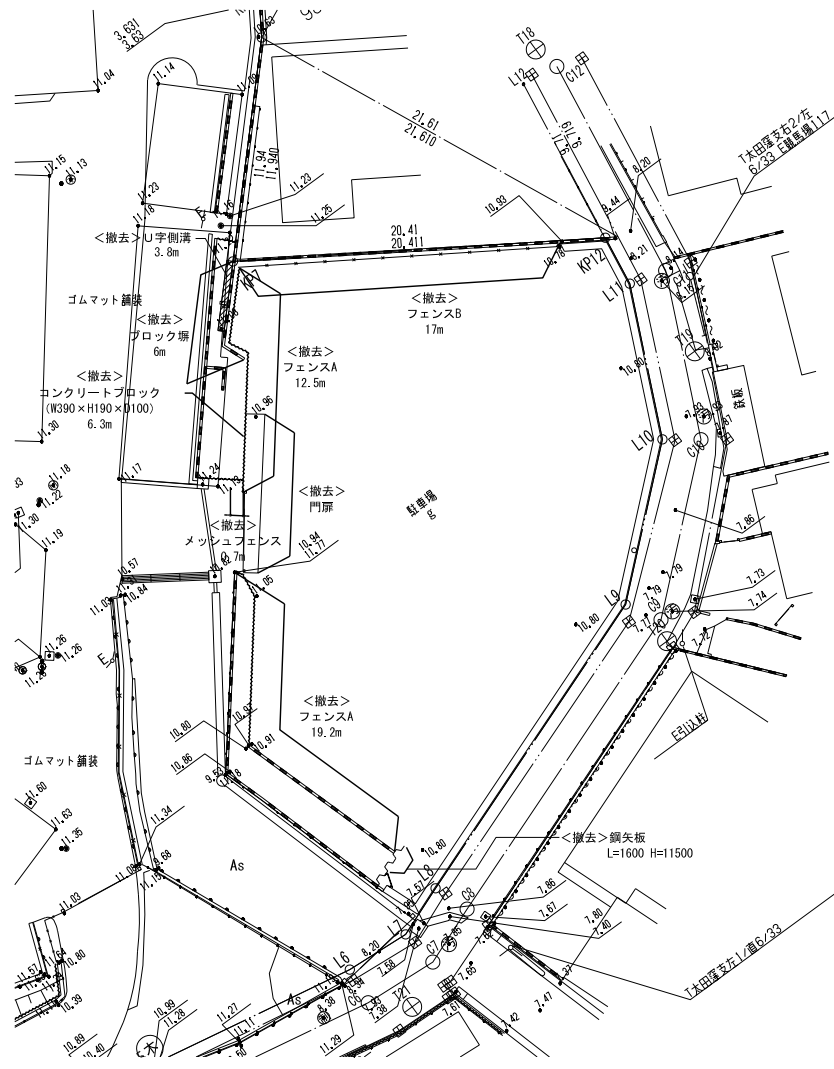
凡例

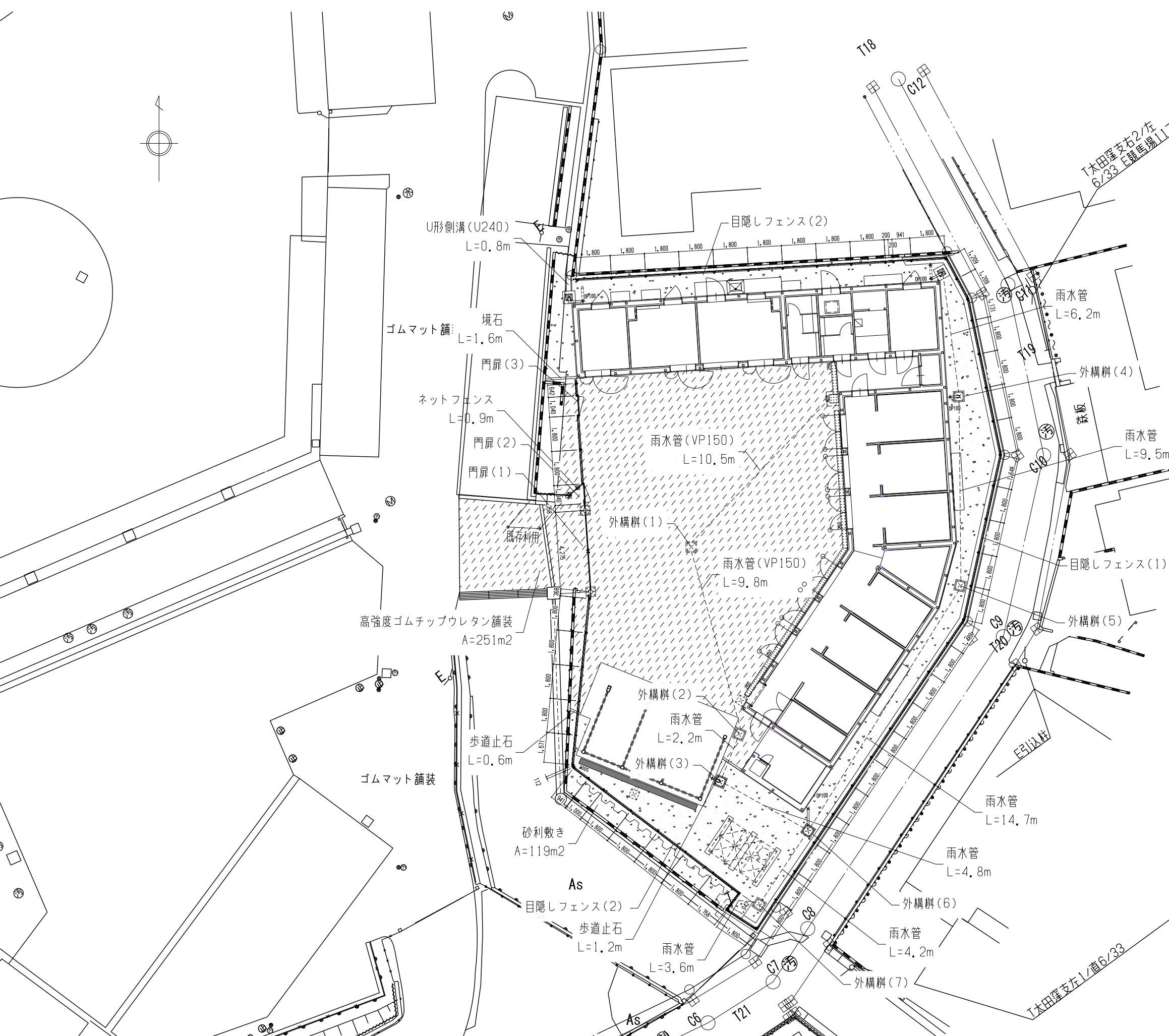
防火・防煙区画関係	
	防煙区画（圍仕切壁）
	延焼のおそれのある範囲
防火設備関係	
	外壁開口部用防火設備（網入りガラス等） （法第2条第九号のニ・ロ・法第64条）
排煙種別関係（根拠を記入する場合）	
	排煙免除箇所 F12告示1436号第四号ニ（4）

凡例

	除却建築物
--	-------



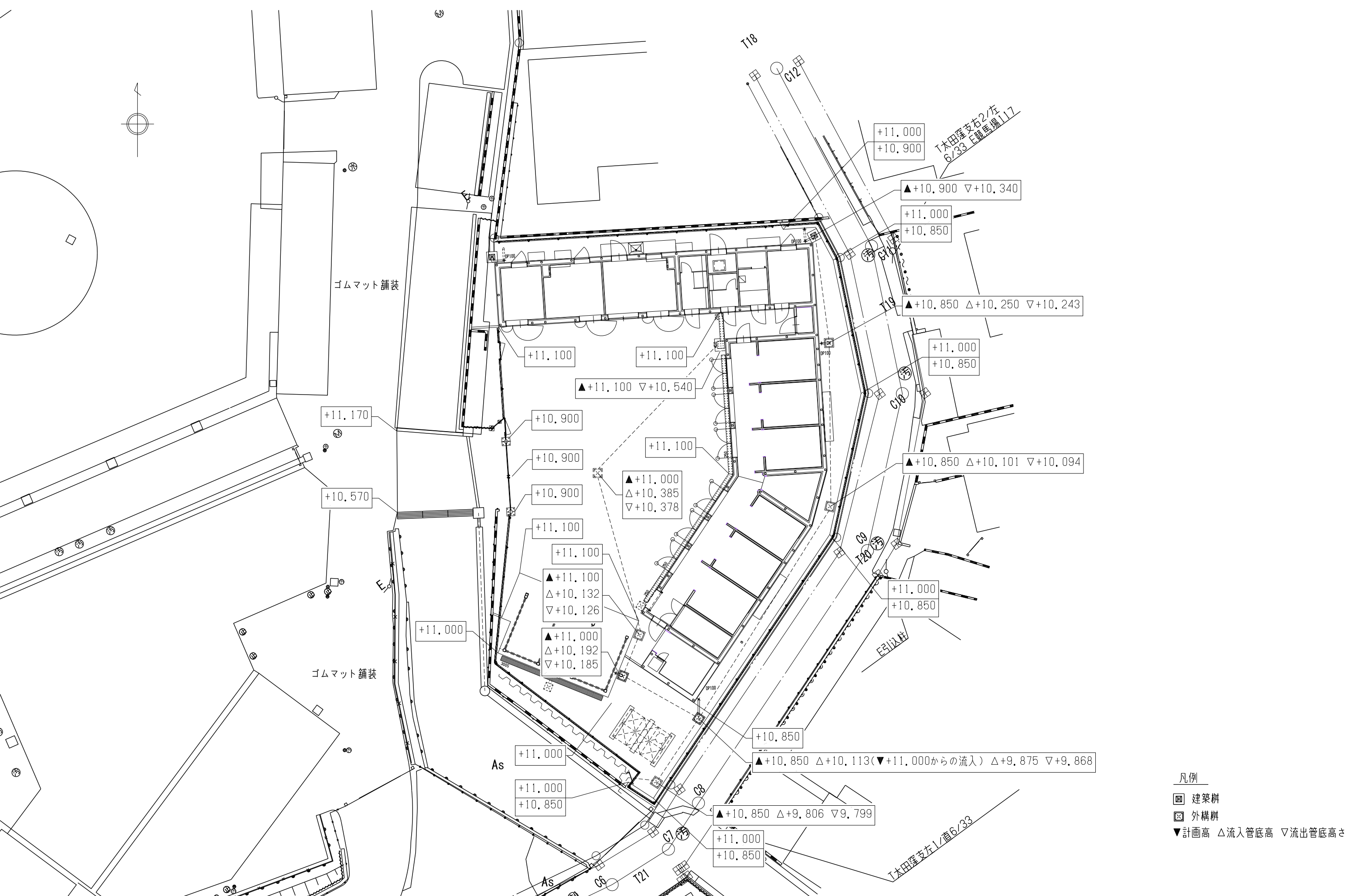




凡例 ○ : 落棒鞘管12箇所
(L-6008落棒詳細図)

※施設の延長は投影延長とする。
※雨水配管のサイズは特記なき限りVU150とする。

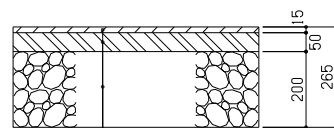
 株式会社 日本設計	特記	埼玉県 浦和競馬組合	課長	技術参与	主査	主査	担当	設計 1級建築士登録第 322398号 平塚 智 設計 1級建築士登録第 355122号 齋藤 啓佑 設計 1級建築士登録第 334165号 曾我部 曉人	浦和競馬場検体採取所建築工事	図面名称 外構平面図 (配置図)	GAH_KEN(外構平面図).DWG
		飛塚 中里 岩崎 矢島 矢島	図面番号 L-6001	縮尺 A1:1/100, A3:1/200	区分 建築図						



- 凡例
- ▣ 建築柵
 - ▤ 外構柵
 - ▼ 計画高 Δ流入管底高 ▽流出管底高さ

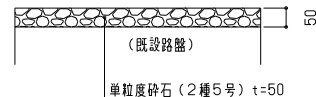
舗装

高強度ゴムチップウレタン舗装 S=1:20 (1:10)



高強度ゴムチップウレタン舗装 t=15
再生密度アスコン (13) t=50
再生クラッシュラン (RC-40) t=200

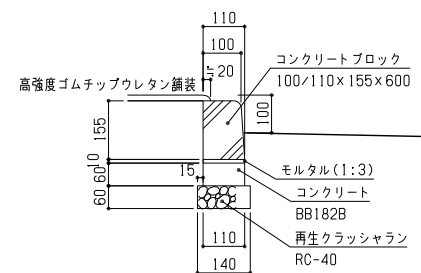
砂利舗装 S=1:20 (1:10)



単粒度砕石 (2種5号) t=50

縁石

歩道止石 S=1:20 (1:10)

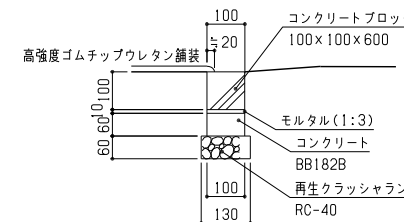


(注) 各ブロック間には、目地モルタルを施すこと。

材料表 (1m当り)

品名	形状寸法	数量	単位	摘要
クラッシュラン	RC-40	0.008	m ³	
コンクリート	BB182B	0.006	m ³	
モルタル	1:3	0.001	m ³	目地モルタル
コンクリートブロック	100/110x155x600	1.65	本	
型枠		0.120	m ²	

境石 S=1:20 (1:10)



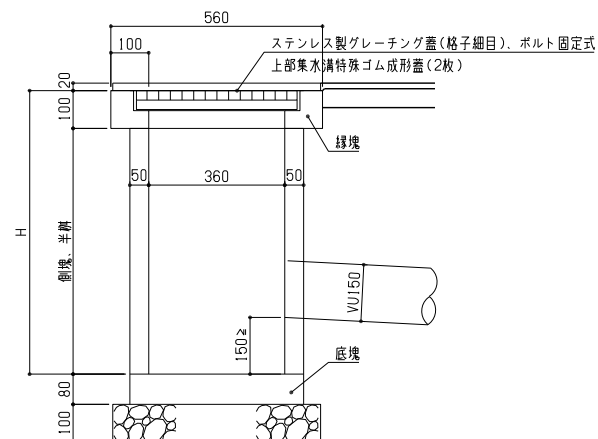
(注) 各ブロック間には、目地モルタルを施すこと。

材料表 (1m当り)

品名	形状寸法	数量	単位	摘要
クラッシュラン	RC-40	0.008	m ³	
コンクリート	BB182B	0.006	m ³	
モルタル	1:3	0.001	m ³	目地モルタル
コンクリートブロック	100x100x600	1.65	本	
型枠		0.120	m ²	

雨水排水

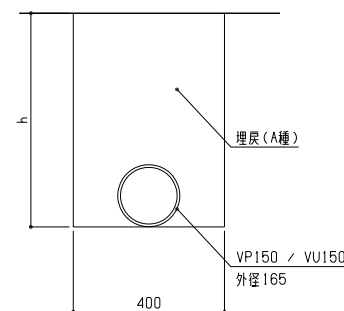
外構柵 S=1:20 (1:10)



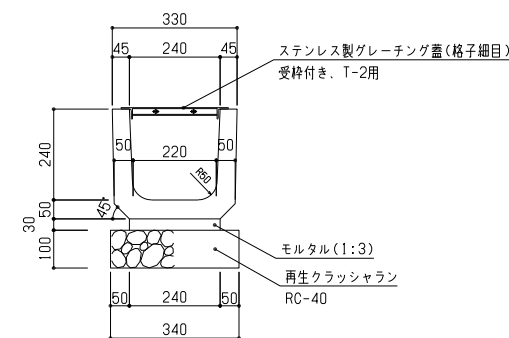
材料表

番号	H	単位	摘要
外構柵(1)	0.850	m	縁塊1個、側塊2個、半柵1個、底塊1個、集水溝特殊ゴム成形蓋(2枚)、グレーチング蓋T-6用
外構柵(2)	1.000	m	縁塊1個、側塊2個、半柵2個、底塊1個、集水溝特殊ゴム成形蓋(2枚)、グレーチング蓋T-2用
外構柵(3)	1.000	m	縁塊1個、側塊2個、半柵2個、底塊1個、グレーチング蓋T-2用
外構柵(4)	850	m	縁塊1個、側塊2個、半柵1個、底塊1個、グレーチング蓋T-2用
外構柵(5)	1.000	m	縁塊1個、側塊2個、半柵2個、底塊1個、グレーチング蓋T-2用
外構柵(6)	1.150	m	縁塊1個、側塊3個、半柵1個、底塊1個、グレーチング蓋T-2用
外構柵(7)	1.300	m	縁塊1個、側塊3個、半柵2個、底塊1個、グレーチング蓋T-2用

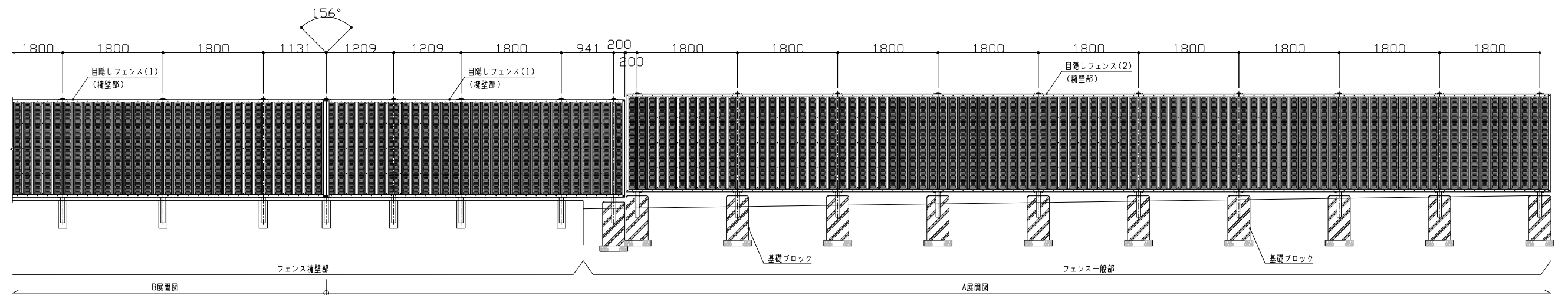
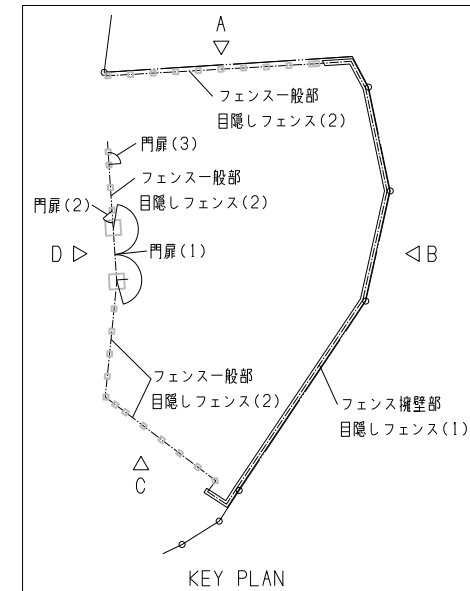
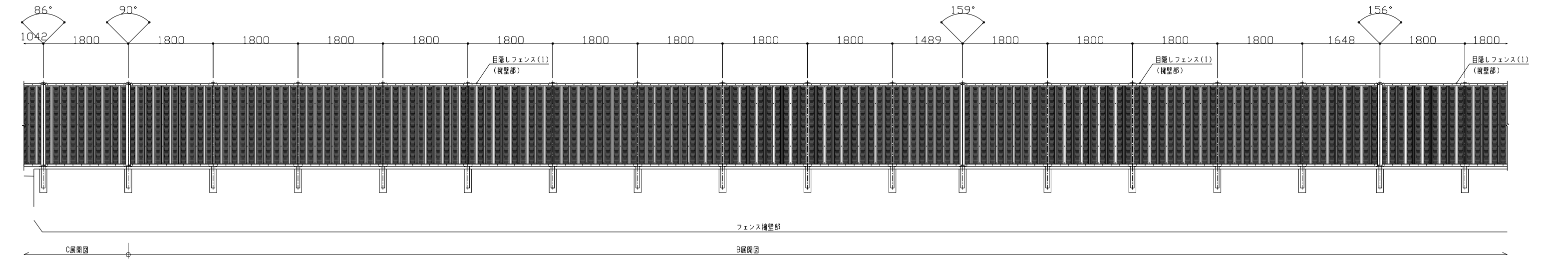
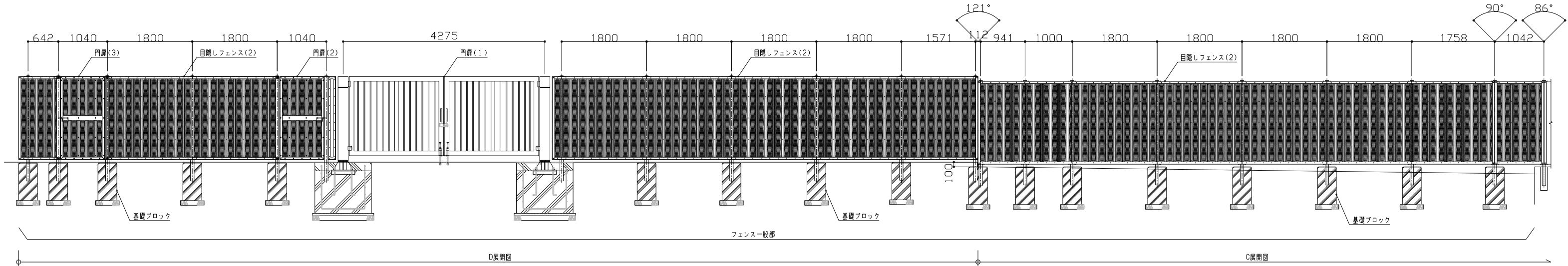
雨水管 S=1:20 (1:10)



U形側溝 S=1:20 (1:10)

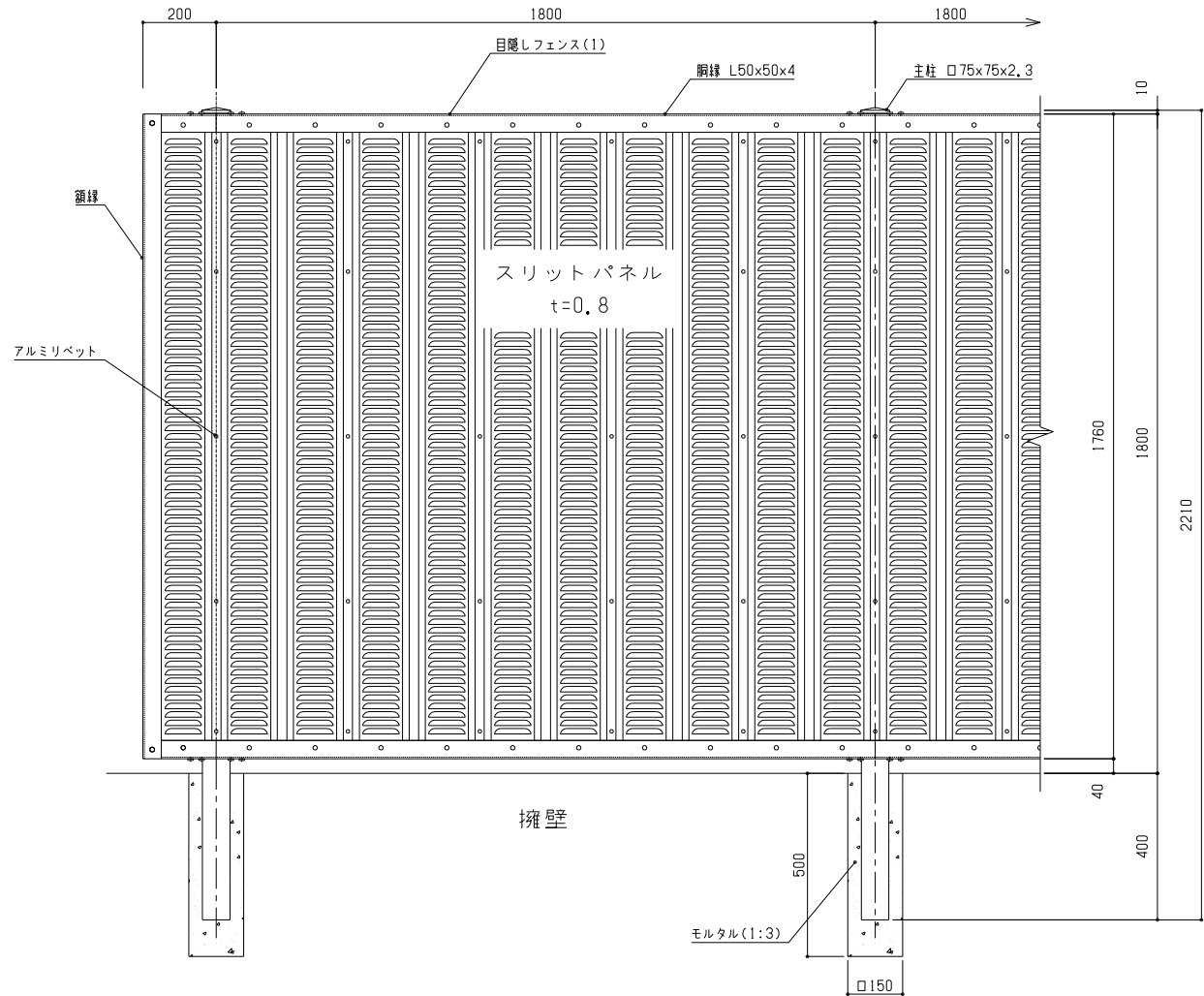


展開図 S=1:100 (1:50)

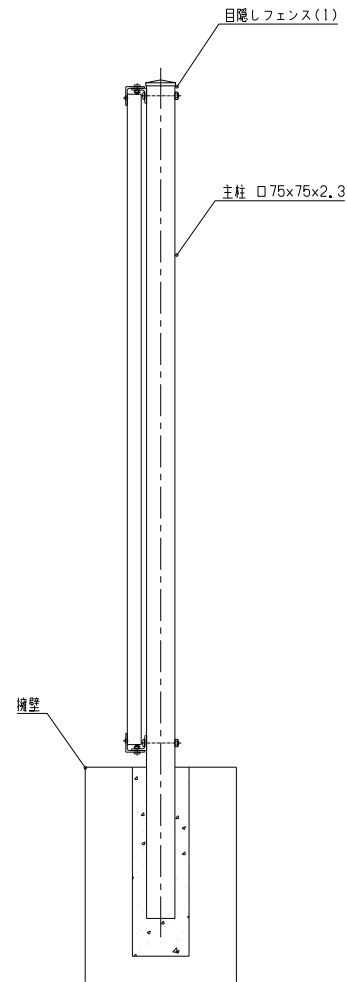


フェンス擁壁部

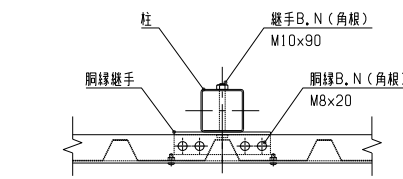
パネル：溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G3302)+ポリエステル樹脂粉体塗装
 柱：一般構造用角形鋼管 (JIS G3466)+ポリエステル樹脂粉体塗装
 胴縁：一般構造用圧延鋼材 (JIS G3101)+ポリエステル樹脂粉体塗装



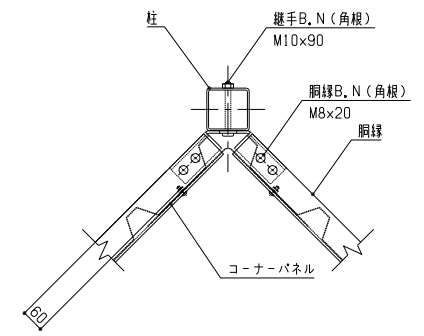
正面図 (S=1/20)



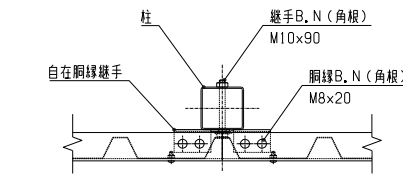
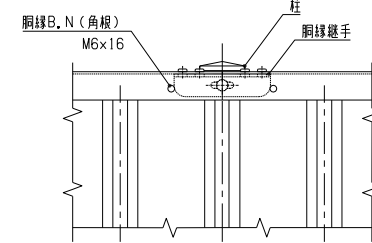
側面図 (S=1/20)



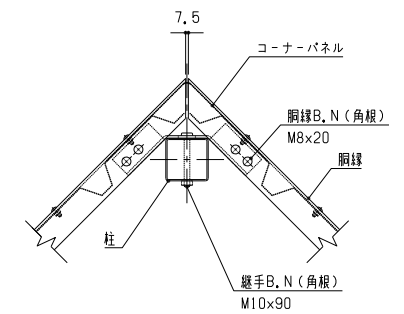
柱・胴縁取付詳細



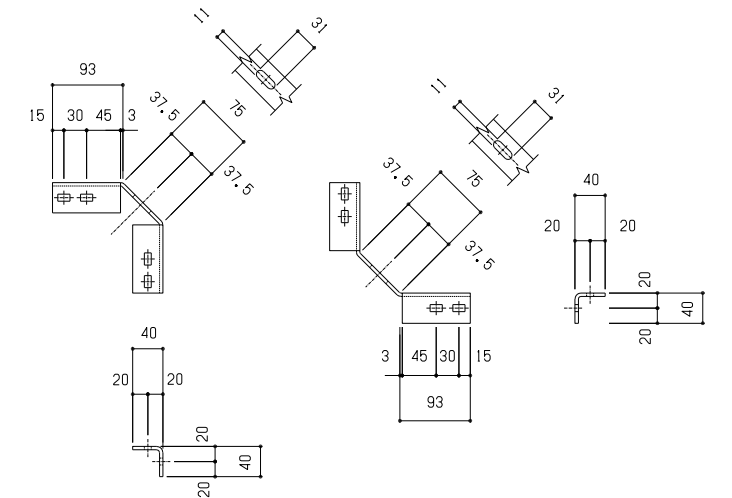
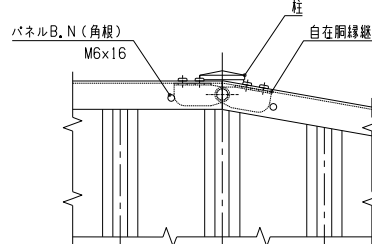
入隅取付詳細



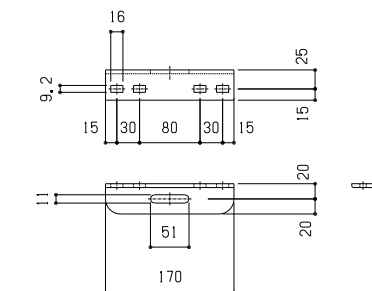
自在胴縁継手取付詳細



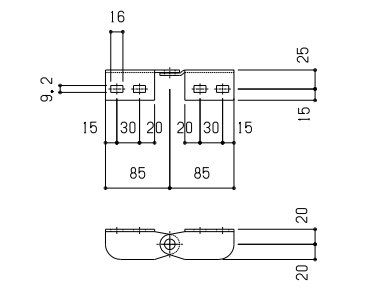
出隅取付詳細



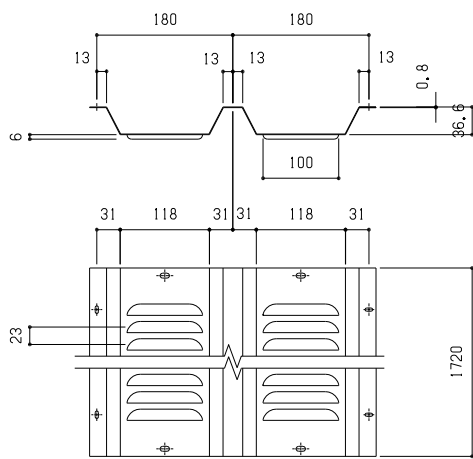
入隅コーナープレート 出隅コーナープレート



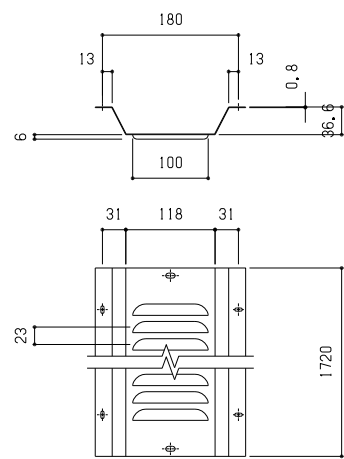
胴縁継手



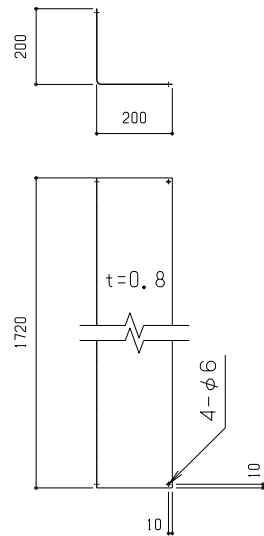
自在胴縁継手



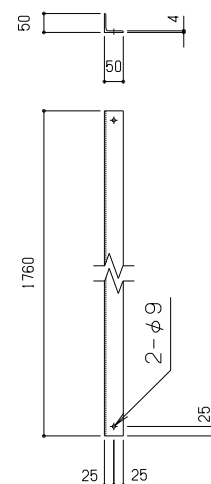
パネル詳細図



調整パネル詳細図

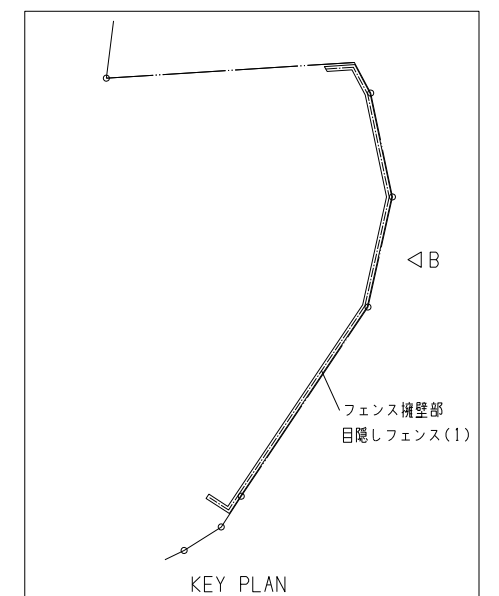


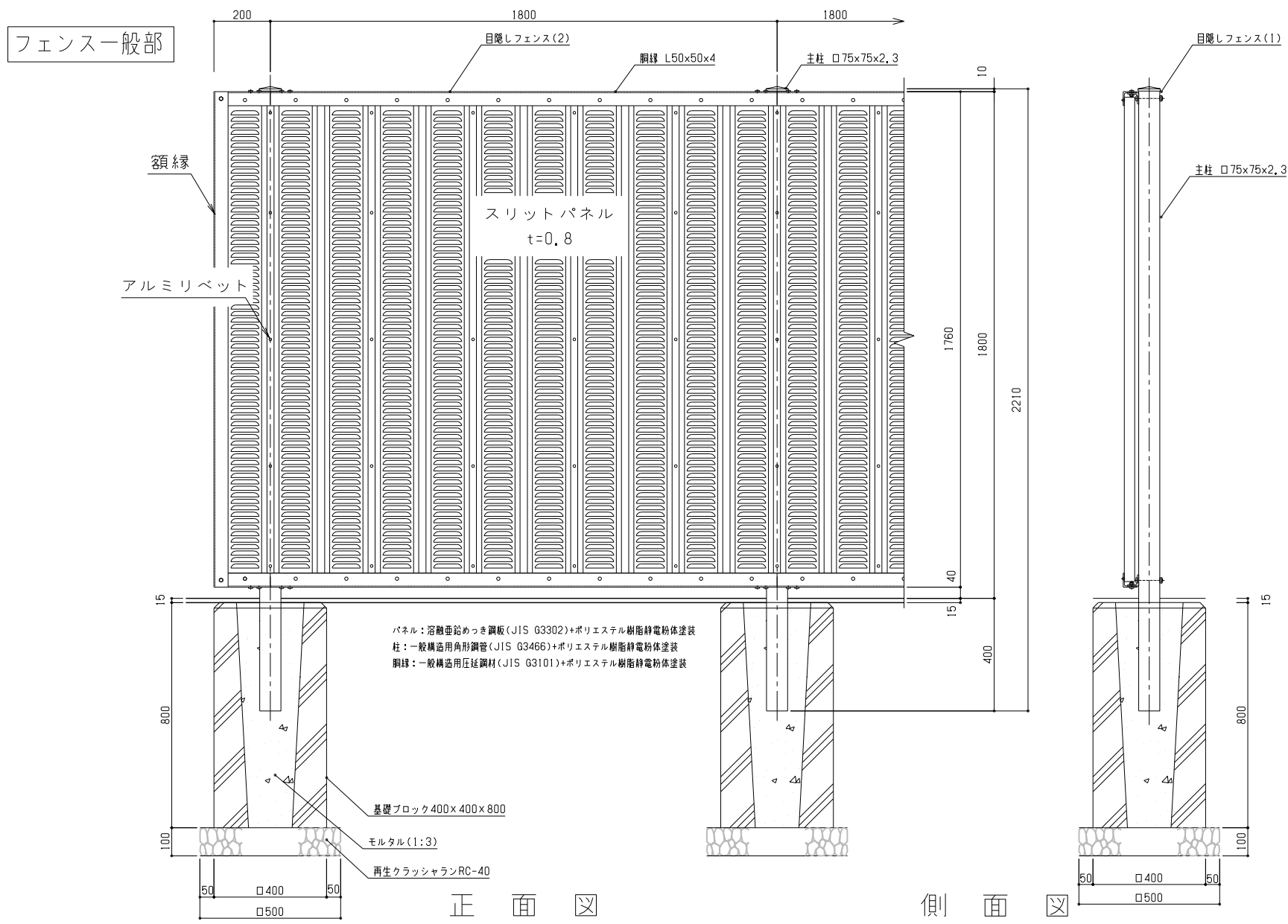
コーナーパネル詳細図



額縁詳細図

(設計条件) 風荷重：昭和57年改正 建築基準法・同施行令に基づく風圧力に準拠。



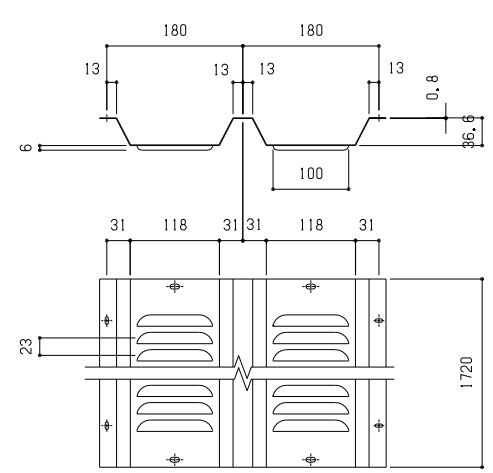


正面図 (S=1/20)

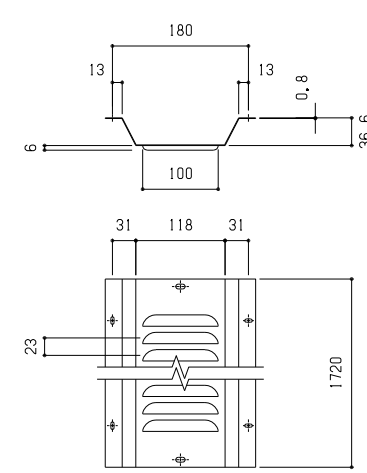
側面図 (S=1/20)

パネル：溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G3302)+ポリエステル樹脂粉体塗装
 柱：一般構造用角形鋼管(JIS G3466)+ポリエステル樹脂粉体塗装
 鋼縁：一般構造用圧延鋼材(JIS G3101)+ポリエステル樹脂粉体塗装

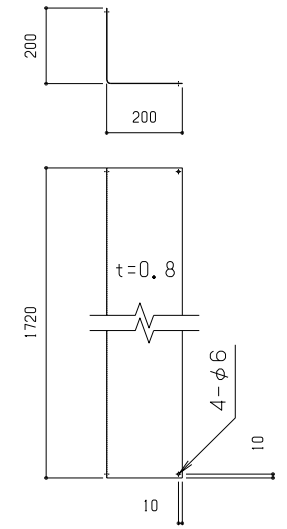
基礎ブロック400x400x800
 モルタル(1:3)
 再生クラッシュランRC-40



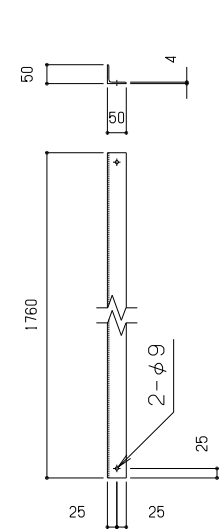
パネル詳細図



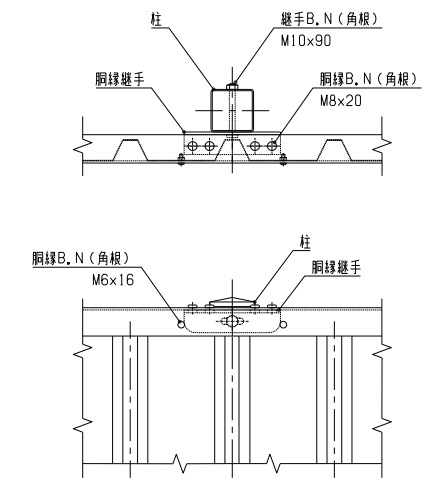
調整パネル詳細図



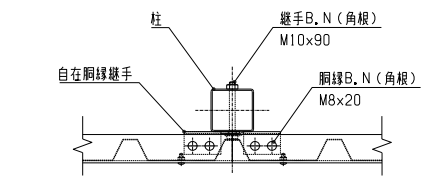
コーナーパネル詳細図



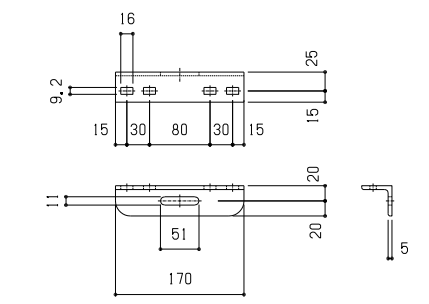
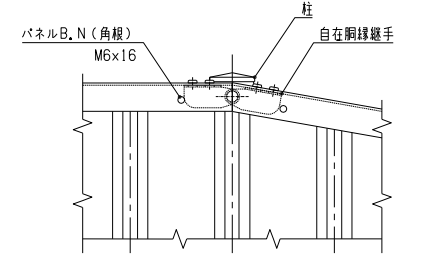
額縁詳細図



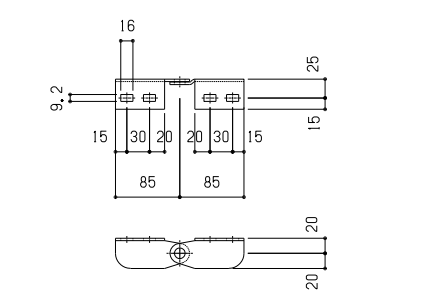
柱・鋼縁取付詳細



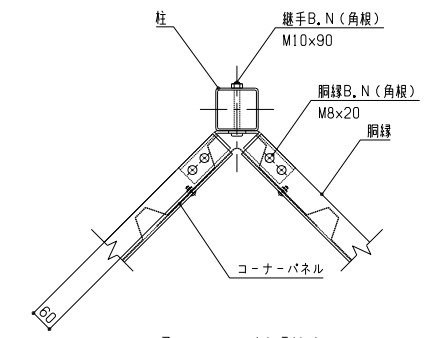
自在鋼縁継手取付詳細



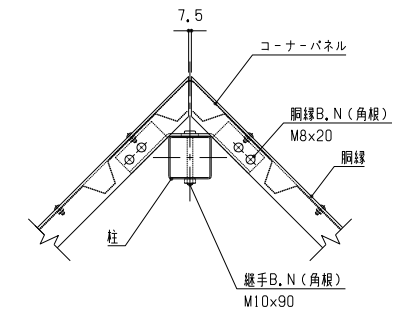
鋼縁継手



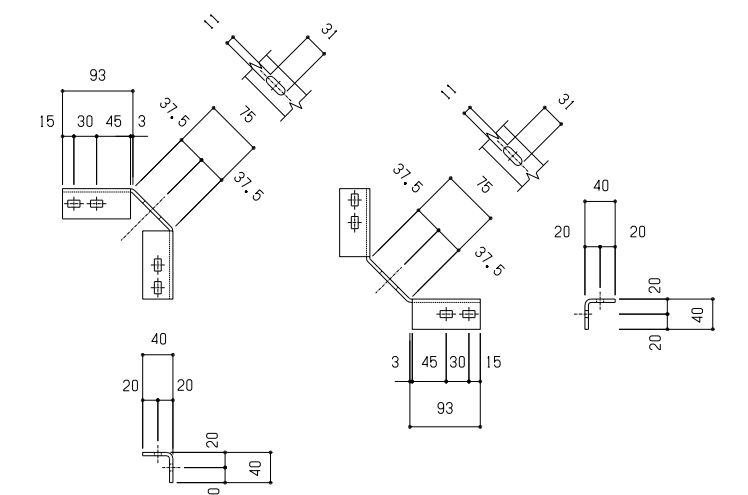
自在鋼縁継手



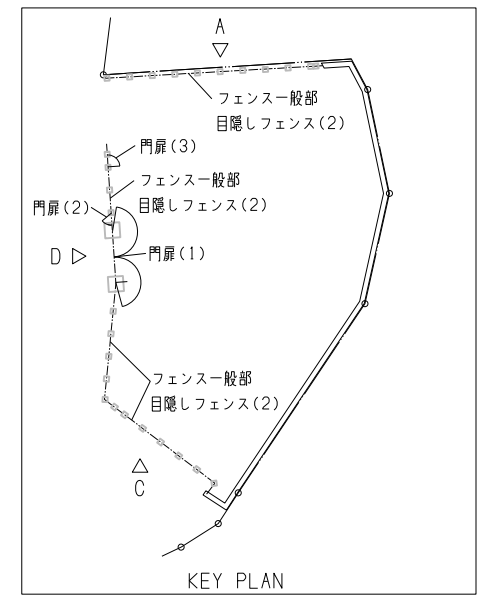
入隅取付詳細



出隅取付詳細

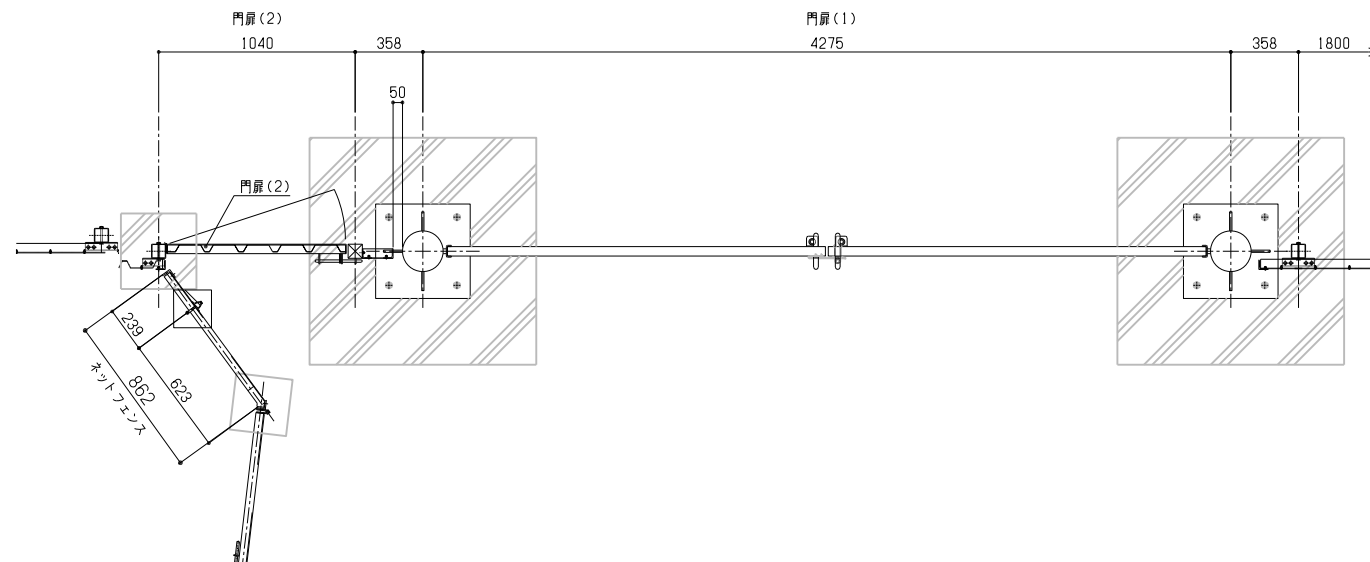
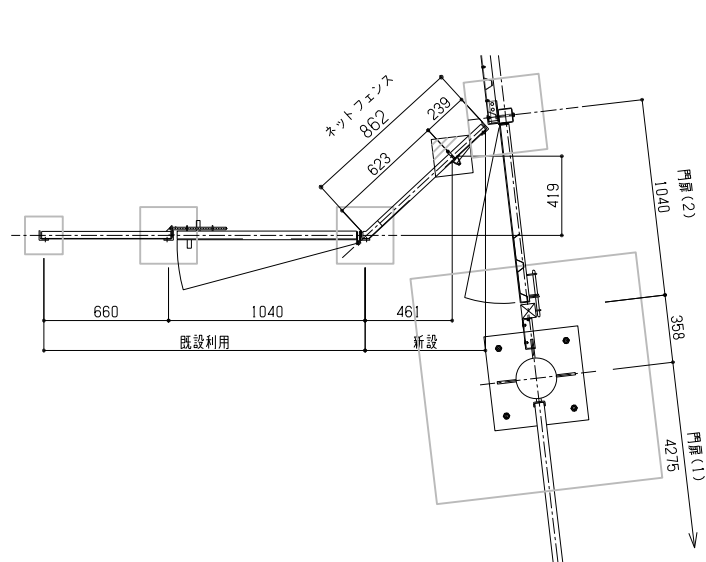
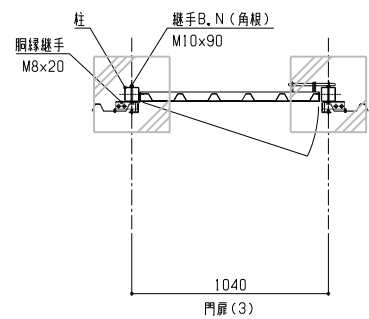


入隅コーナープレート 出隅コーナープレート

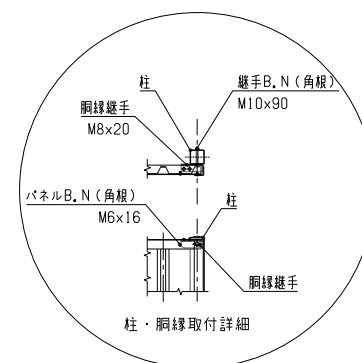


KEY PLAN

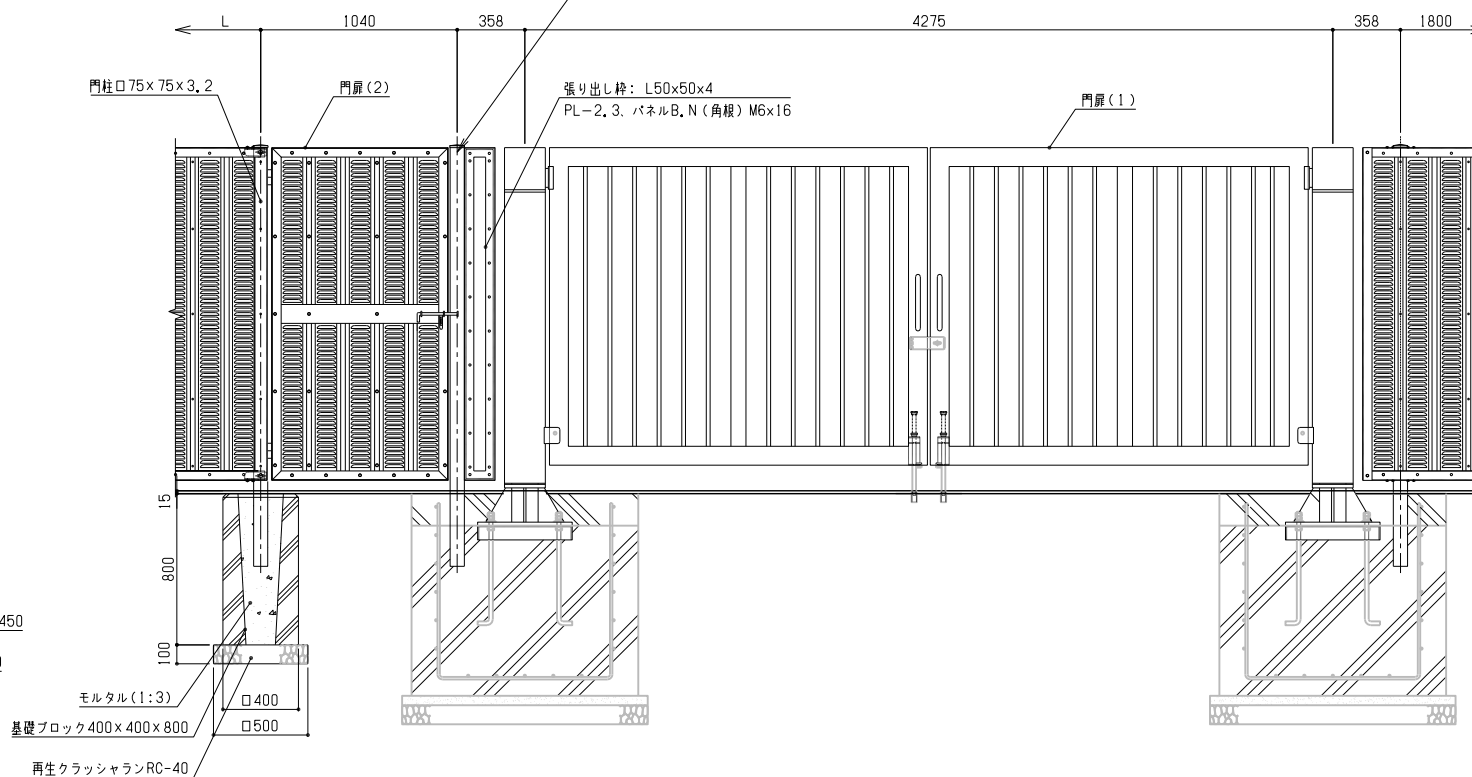
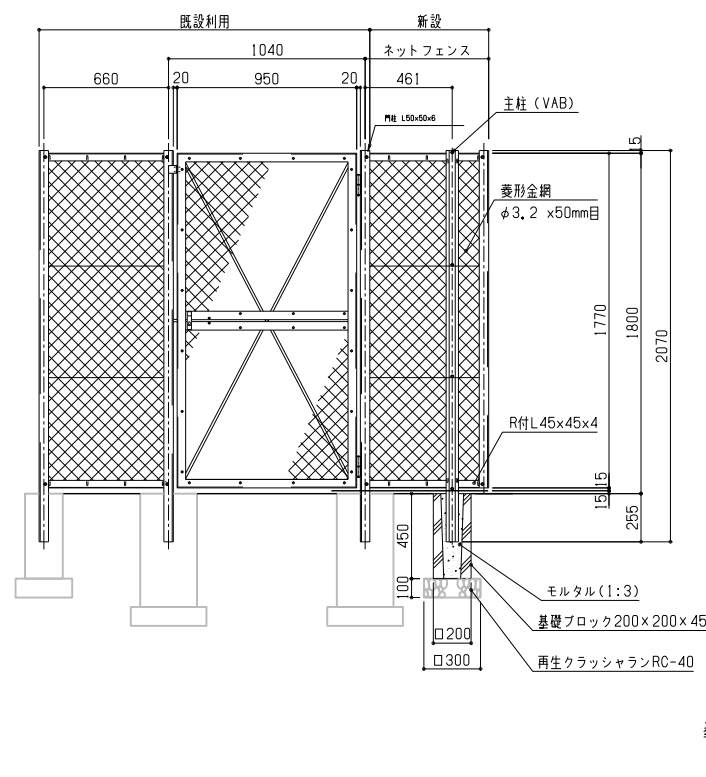
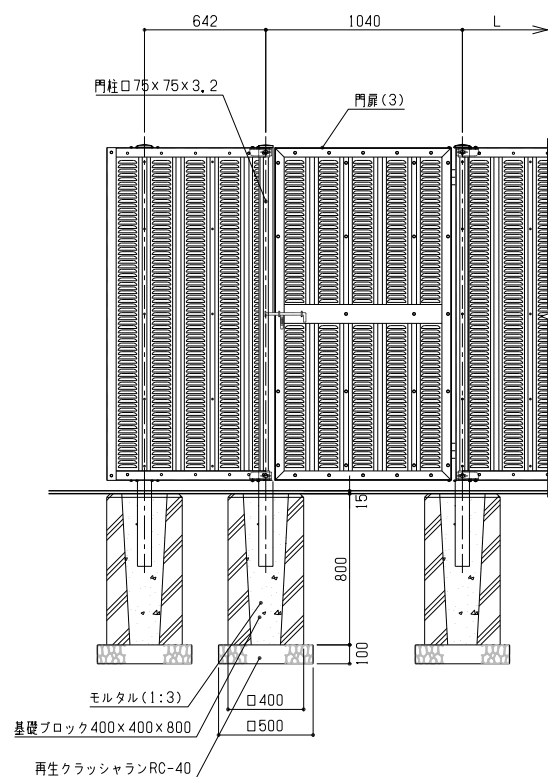
*高強度ゴムチップウレタン舗装範囲は、基礎天端の上に高強度ゴムチップウレタン舗装(t=15)とする。



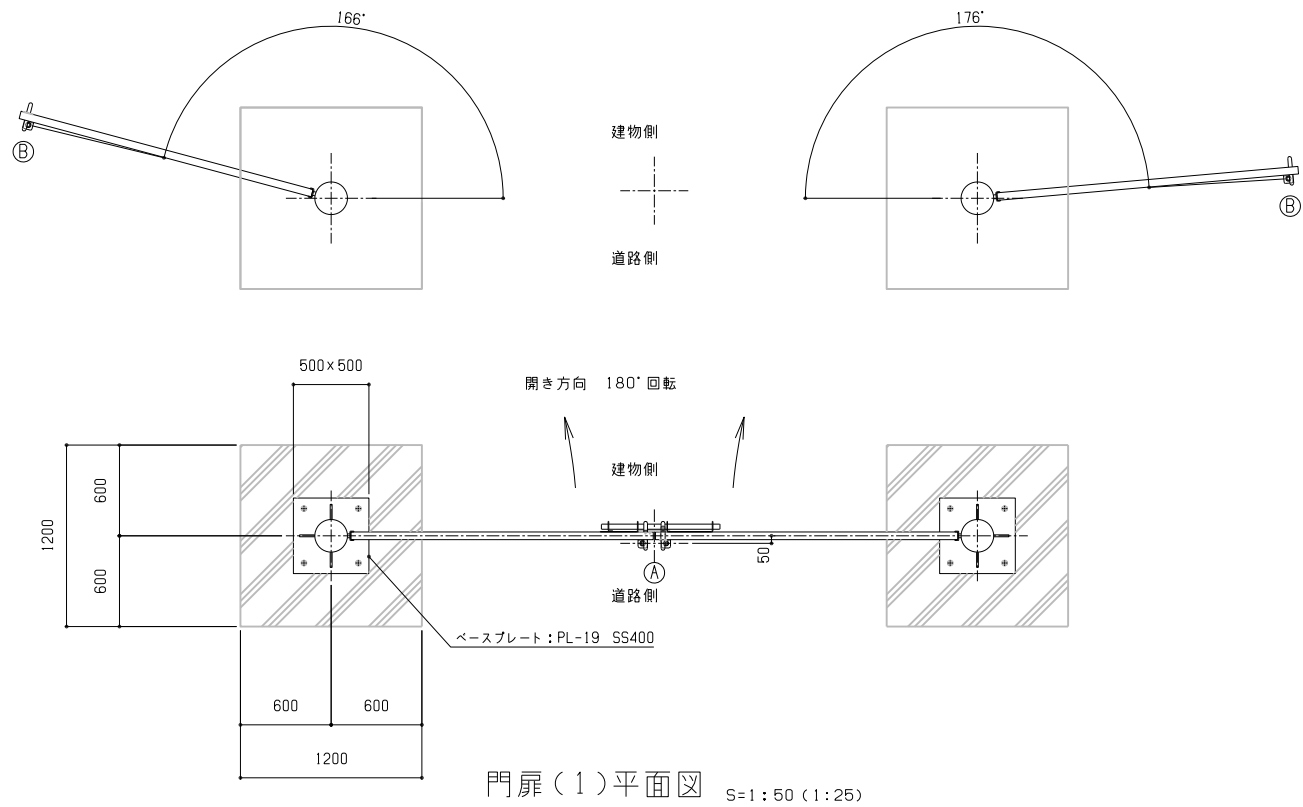
門扉廻り平面図 S=1:50 (1:25)



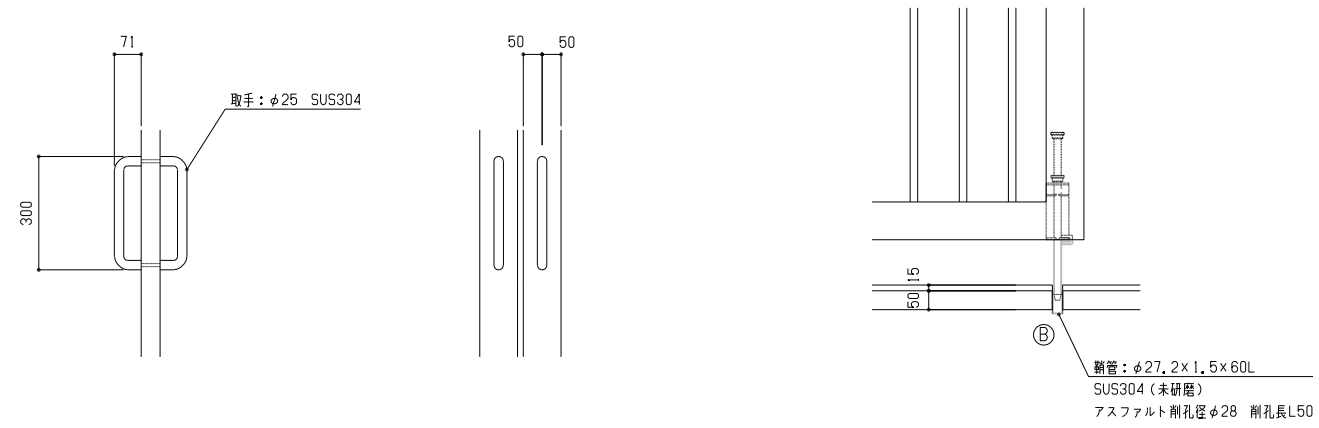
柱：一般構造用圧延鋼材(JIS G3101)+ポリエステル樹脂静電粉体塗装
 鋼線：一般構造用圧延鋼材(JIS G3101)+ポリエステル樹脂静電粉体塗装



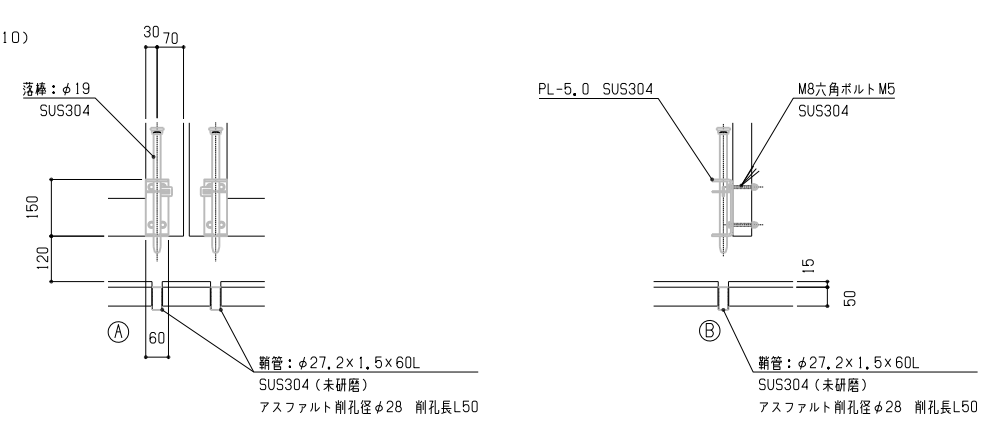
門扉廻り立面図 S=1:50 (1:25)



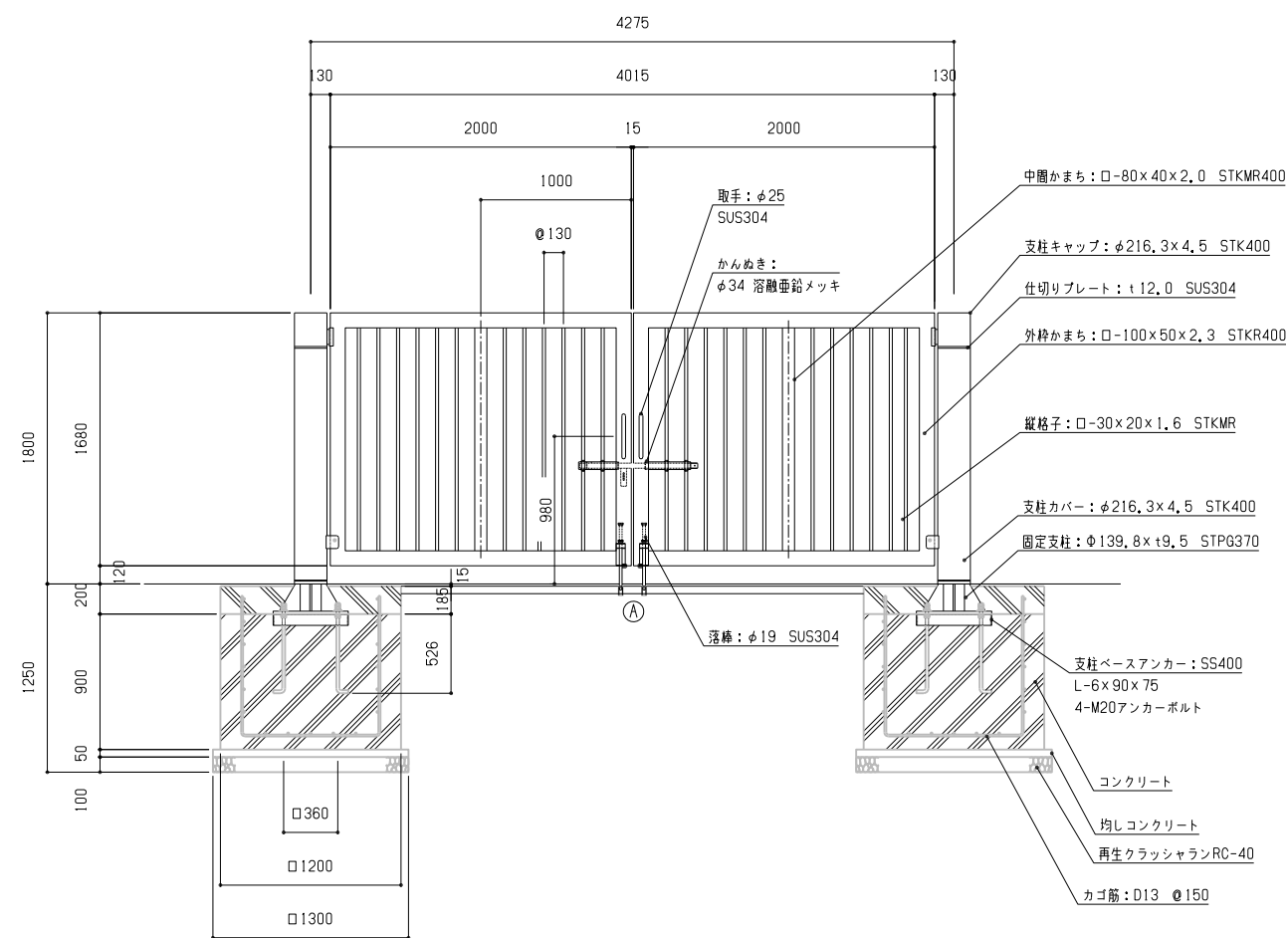
門扉(1)平面図 S=1:50 (1:25)



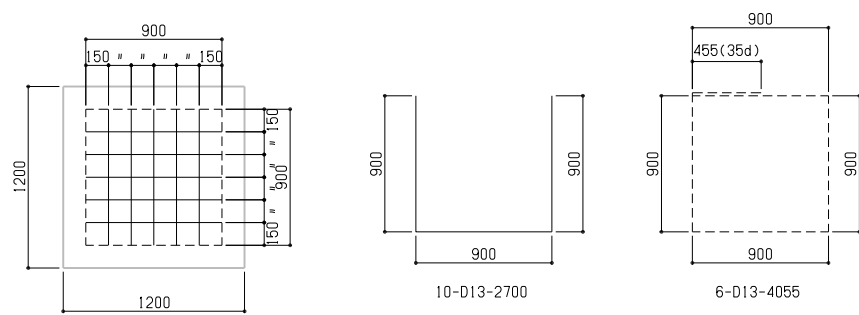
取手詳細図 S=1:20 (1:10)



落棒詳細図 S=1:20 (1:10)



門扉(1)立面図 S=1:50 (1:25)



基礎伏図 S=1:50 (1:25)

鉄筋表		基礎1箇所当り				
形状	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)
┌	D13	2700	10	0.995	2.687	27
□	D13	4055	6	0.995	4.035	24
				D13		51kg
				合計		51kg

鋼材は溶融亜鉛めっき処理の上、見え掛かり部はアクリル樹脂塗料焼付塗装仕上げとする。
 (取手・打掛金具・落棒を除く)。
 取手・打掛金具は、#400研磨仕上げとする。落棒は電解研磨仕上げとする。
 回転方向指定機能(反対側回転角度2°以内) レベル調整機構付
 落棒は建物側に取付け、打掛金具は指定側に取付ける。取手は両面に取付ける。
 (一社)日本公園施設業協会SP・SPL表示認定企業製品とする。
 (一社)日本公園施設業協会団体賠償責任保険の加入製品とする。